

Is he a faithful (fāith'ful) boy?
(5)(1)(2) (3) (4)

Yes, indeed (indēd'). We believe (bēliēvə') him
(1) (2) (1) (7) (2)

very honest (hōn'ēst) and faithful.
(3) (4) (5) (6)

Is it right (rīght) to tell a lie?
(7)(1) (6) (5) (4)(2)(3)

No, it is wrong (wrōng) to tell a lie. You ought
(1) (2)(8) (7) (6) (5) (3) (4) (1) (5)

to be honest.
(4) (3) (2)

Do you always (al'wāys) speak the truth (truth)?
(6) (1) (2) (5) (3) (4)

Oh yes, it is my principle (prin'cipal) never to tell a
(1) (2) (3)(12)(10) (11) (4)(8)(9) (7)(5)

lie.
(6)

.Good morning, Mr Kato. I am very glad to see you.
(1) (2) (3) (4) (1)(7) (5) (6) (4) (3) (2)

I have not seen you for a long time. Where are
(1) (9) (8) (7) (6) (5)(2) (3) (4) (7) (5)

you going so early in the morning?
(1) (8) (5) (6) (4) (2) (3)

I am going to Yokohama to see my brother off.
(1)(10) (9) (8) (7) (6)(5) (2) (3) (4)

Where does your brother go?
(1) (5) (2) (3) (4)

He goes to America to study English.
(1) (7) (6) (5) (4) (3) (2)

Does your sister go there with him?
(7) (1) (2) (6) (5) (4) (3)

No, she has been ill in bed since a month ago.
(1) (2) (11) (10)(9)(8) (7) (6) (3) (4) (5)

I am sorry to hear that. Is she getting better?
(1)(6) (5) (4) (3) (2) (4)(1) (3) (2)

Thank you. The doctor says she will soon recover
(2) (1) (1) (2) (3) (4) (10) (8) (9)

from her illness. Now, where are you going?
(7) (5) (6) (1) (3) (5) (2) (4)

I am going to the grocer's (grō'çers) to buy
(1)(11) (10) (9) (7) (8) (6) (5)

something to drink.
(4) (3) (2)

Is that so? Now, it is getting near the time for
(3) (1) (2) (1) (2)(9) (8) (7) (5) (6) (4)

starting. I will leave you here. Good-bye!
(3) (1) (5) (4) (3) (2) (1)

Good-bye!
(1)

(譯) 兄さんは今何處に居られますか。(彼は) 只今アメリカに
居ります。

(あなたは) 度々お手紙をお出しになりますか。はい、毎週
一度宛出します、そして先方からも一度宛参ります。

この美しい繪本はどなたの贈物ですか。アメリカにゐる弟
がクリスマスの贈物として呉れたのです。

はいけん いたゞ
拜見させて戴けますまいか。 さあさあ、お易にことです。

中にたくさん綺麗な繪があります。

獅子は品のよい動物です。獅子は體の長さが約七尺あつて、高さは四尺ばかりです。

獅子は何と呼ばれてみますか。 獣類の王と呼ばれてみます。

わし
鶯は何と云はれてみますか。 鳥類の王と呼ばれてみます。

はんぶつ かいちやう
人は萬物の靈長と呼ばれてみます。

彼の父は彼を何にするつもりですか。 多分實業家にするつもりでせう。

彼は忠實な子供ですか。 ハイ、そうです。私達は彼の子供は非常に正直で、忠實だと信じます。

うそ
虚言を云ふのは正しいことですか。 イイエ、虚言を云ふことは悪いことです。人は正直でなくてはなりません。

あなたはいつでも眞實をお話なさいますか。 もちろん
決して虚言は云はぬといふのが私の主義です。

加藤さん、お早うございます。お目にかかつて大變喜ばしう存じます。

しばらくお目にかかりませんでした。こんなに朝早くどちらへお越しですか。 兄を見送りに横濱へまゐります。

お兄さんは何處へおいでになるのですか。 英語を勉強するためにアメリカへ行くのです。

お姉さんも御一緒にお出でになりますか。 イイエ、姉は一ヶ月前から病氣で臥つて居ます。

それはお悪いことです。追々御快方ですか。 有難うございます。醫者はすぐ治るやうに云つて居ます。時にあなたはどちらへお出でですか。

私は何か飲料を買ひに雜貨店へ行くとところです。 左様ですか。 もう出發の時刻も近づきました。これでお別れいたしませう。左様なら
左様なら。

解 説

1. 他動詞の中には目的を二つ取るものがあつて、一つは人を表はし、他は物を表はすのが普通である。前者を間接目的 (Indirect Object) と云ひ後者を直接目的 (Direct Object) と云ふ。

I write him a letter.

I gave him a book.

に於て、him は間接目的で letter と look とは何れも直接目的である。即ち大抵、間接目的は直接目的の前に置くのである。

【註】 二個の目的を取る主なる動詞は、bring, show, give, teach, send, make, tell 等である。

稀れには直接目的が間接目的の前に來ることもある。但しかゝる

場合には大概間接目的の前に to を置くことになつてゐる。

2. 動詞の意義の不完全な點を補ふ語を補語 (Complement) と
いふ。

He is a business man.

He is very honest.

に於て business man, honest 等は補語である。つまり「彼がある」と云つただけでは、何であるのか、どうであるのか分らないから、補語が必要なのである。

【註】 補語は大概名詞か形容詞である。

又或る動詞はその目的語以外に、尙ほ補語を要するものがある。
例へば

He is a merchant.

に於て merchant は動詞 is の補語であるが、

I think him merchant.

と云ふ文に於ては、him は think の目的で、merchant は補語である。この種の動詞を作為動詞 (Factive Verb) と云ふ。

【註】 此種の動詞の主なるものは、call, find, make, believe think 等である。

作為動詞と作為動詞でないものとの區別は、初學者には一寸困難であるが、次の二文をよく比較研究すればおのづからわかる筈である。

(a) I made him a present.

(b) I made him a servant.

(a) は I made a present to him. と云へるが、(b) は I made a servant to him. と云ふことが出来ない。即ち (a) に於ては、him は間接目的で、present は直接目的であるが、(b) に於ては、him は動詞 made の目的語であるが、servant は補語である。尙ほ (a) に於ては、間接目的と直接目的とは各別物を現はしてゐるが、(b) に於ては、目的と補語とは同一の物を示してゐるのである。

3. 動詞の原形に to を附した形を不定法 (Infinitive) といふ。
例へば to write, to speak 等は不定法である。不定法は文の主語として名詞の働きをする場合がある。たとへば、次にあげる二つの文

To tell a lie is wrong.

To teach is hard.

に於て To tell, To teach は主語として用ゐられた不定法である。

【註】 不定法が主語の働きをする場合には、普通 it を文首に出して形式上の主語とし、不定法は文の後に置くのである。

It is wrong to tell a lie.

It is hard to teach.

のやうにする。

不定法の打消には not 又は never を to の前に置かなくてはならぬ。即ち

It is my principle $\left\{ \begin{array}{l} \text{never} \\ \text{not} \end{array} \right\}$ to tell a lie.

の如くするのである。

4. 不定法は原因、目的等を示すため動詞として用ゐられることがある。たとへば

I am very glad to see you. (原因)

He goes to America to study English. (目的)

の如きである。

不定法は、又形容詞の働きをすることもある。たとへば

Give me something to eat.

の如きである。

【註】 かくの如く、不定法は名詞として用ゐられるばかりでなく、形容詞としても、又副詞としても用ゐられる。初學者はそれぞれの用法に注意しなければならぬ。

Exercise

(1) 紙を一枚 (a sheet) 持って来て下さい、(2) 君は事務所に行く道を案内 (show) してくれますか。(3) 叔父が年玉 (a New Year's present) にこの繪葉書 (pic'tūrē-pōst'-cārd) 帖

をくれました。(4) 君のお父さんは君を何にするつもりですか。(5) 父は私を法律家 (a lawyer) にするつもりです。(6) あなたは彼を金持で正直だと思ひますか。ハイ、私はさう思ひます。(7) 時や金を浪費する (to wa te) ことは正しいか。いやさうするのは悪い。(8) 英語を學ぶのは容易ですか。いや、英語を學ぶのはなかなか (quite) むづかしい。(9) 決して懶けないのが私の主義です。(10) 今朝は汽車の間に合ふ (to cat h) やうに早く起きました。(11) 一番列車の間に合ひましたか。イエエ、残念乍ら乗り遅れ (to miss) ました。(12) 非常に腹が空いた。何か食べるものを呉れ。

上の解答

(1) Please bring me a sheet of paper. (2) Will you please show me the way to the office? (2) Uncle gave me this picture-post-card album as a New Year's present. (4) What will your father make you? (5) Father will make me a lawyer. (6) Do you think him rich and honest? Yes, I think so. (7) Is it right to waste time and money? No, it is wrong to do so. (8) Is it easy to learn English? No, it is quite difficult to learn English. (9) It is

my principle never to be idle. (10) I got up early this morning to catch the train. (11) Could you catch the first train? (Were you in time for the first train?) No, I was sorry to miss it. (12) I am very hungry. Please give me something to eat.

LESSON FOURTEEN

How are you?

(1) (3) (2)

Thank you, I am very well.

(2) (1) (3) (6) (4) (5)

Did you sleep well last night?

(6) (1) (5) (4) (2) (3)

Yes, I slept (slēpt) very well last night.

(1) (2) (7) (5) (6) (3) (4)

Did you get up early this morning?

(7) (1) (5) (6) (4) (2) (3)

No, I got up very late this morning.

(1) (2) (7) (8) (5) (6) (3) (4)

Were you in time for market (mār'kēt)?

(6) (1) (5) (4) (3) (2)

No, I was late for market.

(1) (2) (6) (5) (4) (3)

Where do you live?

(1) (4) (2) (3)

I live at Kanda in Tokyo.

(1)(6)(5) (4) (3) (2)

Where does your father's house stand?

(1) (6) (2) (3) (4) (5)

It stands on the hill over there.

(1) (7) (6) (4) (5) (3) (2)

How do you go to your office?

(1) (7) (2) (6)(5) (3) (4)

I generally (gen'ērallī) go to my office by car.

(1) (2) (8) (7) (5) (6) (4) (3)

What are ships built of?

(1) (5) (3) (4) (2)

Now-a days (now'a-dāys'') they are built of iron

(1) (2) (6) (5) (4) (3)

(iûrn), but formerly (fôr'mērly) they were all built

(7) (8) (9) (14)(10) (13)

of wood (wōod).

(12) (11)

By whom are they built?

(2) (1) (5) (3) (3)

They are built by ship-carpenters (shīp'-cār''pētēr).

(1) (5) (4) (3) (2)

What is France famous for?

(1) (5) (3) (4) (2)

France is famous for its wine.

(1) (6) (5) (4) (2) (3)

What is wine made from?

(1) (5) (3) (4) (2)

Wine is made from grapes.

(1) (5) (4) (3) (2)

What is beer made from?

(1) (5) (3) (4) (2)

Beer is made from barley (bär'leÿ).

(1) (5) (4) (3) (2)

What is Germany famous for?

(1) (5) (4) (3) (2)

Germany is famous for its beer.

(1) (6) (5) (4) (2) ()

(譯) 御機嫌如何ですか。有難う、大層丈夫で居ります。

昨夜はよくお眠りでしたか。はい、(昨夜)はよく睡りました。

今朝は早くお起きでしたか。いいえ、(今朝)は大變遅く起きました。

市場に間にお合ひでしたか。いいえ、市場へ遅れて参りました。

(あなたは)何處にお住ひですか。東京の神田に住つて居ります。

お父さんのお家は何處にありますか。父の家は彼所の丘の上にあります。

あなたの事務所へは如何しておいでになりますか。大抵電車で(私の事務所へ)参ります。

船は何で造つてありますか。今では鐵で造りますが、昔はみんな木で造りました。

誰れが船を造りますか。船大工が船を造ります。

佛蘭西は何で有名ですか。佛蘭西は葡萄酒で有名です。

葡萄酒は何で造りますか。葡萄酒は葡萄で造ります。

麥酒は何で造りますか。麥酒は大麥で造ります。

獨逸は何で有名ですか。獨逸は麥酒で有名です。

解 説

1. well, late などの語は、そのまま、形容詞にも副詞にも用ゐられるもので、

I am very well.

I was late for market.

の well, late は何れも主語を形容するものだから形容詞であるが、

I slept very well.

I got up very late this morning.

に於ける well, late はそれぞれ slept, got up といふ動詞を形容するものであるから副詞である。

【註】 動詞を形容する語を副詞 (Adverb) と云ふ。即ち I study English hard. (私は一生懸命に英語を勉強します)。I get up early in the morning. (私は朝早く起きます)等の hard, early は夫れ夫れ study, get up といふ動詞を形容してゐるのであるから、副詞である。

2. at, in, on などの前置詞 (Preposition) が場所を表はす時には、at は狭い場所の時に用ゐる。in は廣い場所を示す時に用ゐる。

従つて村町などには at を用ゐ、^{だいとくわい}大都會や國には in を用ふるのである。また on は表面に接觸して居ることを表はす^{ぜんちし}前置詞である。

I live at Kanda in Tokyo.

It stands on the hill over there.

日本語の「……で」といふ意味を表はす英語の前置詞は、場合によつて色々に異つてゐる。即ち

電車で行く I generally go to my office by car.

口で話す I speak with my mouth.

ペンで書く I write a letter (手紙) with a pen.

インキで書く I write my essay (es'say) (論文) in ink.

3. France is famous for its wine.

の for は理由を表はし、

Wine is made from grapes.

の from は材料を表はし、

What are ships built of?

の of も亦材料を表はし、

By whom are they built?

の by は行爲者を表はす。

【註】 from も of も共に材料を表はす^{ぜんちし}前置詞であるが、出来上つたものが全然材料とは形が變化してゐる時には from を用ゐ、材料の原形を存してゐる時には of を用ゐるのである。即

ち(この橋は石造である)と云ふ文は、英語で "This bridge is built of stone". と云ふので、built from stone ではない。また "Wine is made from grapes." であつて made of grapes は誤りである。

Exercise

- (1) 英語の^{ひいこ}階古は難かしい (hard) ですか。はい、^{ひじやう}非常に難かしいでございます。(2) あなたは英語をしつかり (hard) 勉強なさいますか。はい、しつかり勉強してゐます。(3) あなたは黒いインキで^{きくみん}作文 (Composition [cōm'pōzī'tiōn]) を書きますか、赤インキで書きますか。(私は) 黒インキで書きます。(4) あなたは何でパンを喰べますか。(私は) 口で喰べます。(5) あなたは電車で店 (shop) に來ますか。いいえ、^{じてんしや}自転車 (bicycle) で來ます。(6) 私はこの椅子に掛けても^{よろ}宜しう御座いますか。はい、^{よろ}宜しうございます。(7) ^{まるうち}丸の内ビルヂングは煉瓦造りですが、昔の日本の家は^{もくぎやう}みな木造でした。(8) この手紙は墨 (Indian ink) で書いてありますか。インキで書いてありますか。墨で書いてあります。(9) 吉野は何で有名ですか。吉野は櫻花 (cherry-blossoms [chēr'ry blōss'omz]) で有名です。(10) ^{あく}賊 (thief) は彼の人をピストル (pistol [pis'tol]) で殺しましたが、^{じゆんさ}巡査 (policeman 'pōlicē'man)

に捕まりました。(11) この旅行鞆 (trunk) は何で造つてありますか。革で造つてあります。(12) 何でそれを開けますか。鍵で (key [kēy]) 開けます。

上の解答

(1) Is English a hard lesson? (Is the English lesson hard?) Yes, it is a very hard lesson. (Yes, it is very hard.) (2) Do you study English hard? Yes, I study it very hard. (3) In which ink do you write your composition, black or red? I write my composition in black ink. (4) With what do you eat your bread? I eat it with my mouth. (5) Do you come to the shop by car? No, I come to the shop on my bicycle. (6) May I sit on this chair? Yes, you may. (7) The Marunouchi building is built of bricks, but formerly all Japanese houses were built of wood. (8) Is this letter written in Indian ink or in ink? It is written in Indian ink. (9) What is Yoshino famous for? Yoshino (It) is famous for its cherry-blossoms. (10) The thief killed him with a

pistol, but was caught by the policeman. (11) Of what is this trunk made? It is made of leather. (12) With what do you open the trunk? We open it with a key.

LESSON FIFTEEN

What is a tailor (tāi'lōr)?

(3) (4)(1) (2)

A tailor is a man who makes clothes (clothes).

(1) (2) (10)(3) (4)(9)(5)(8) (7) (6)

What do you call a man who makes clothes?

(9) (11) (1) (10) (2)(3)(8)(4)(7) (6) (5)

A man who makes clothes is called a tailor.

(1) (2)(7) (3)(6) (5) (4) (11) (10) (8) (9)

What is an orphan (ôr'phan)?

(3) (4) (1) (2)

An orphan is a child whose parents (pâr'ents)

(1) (2) (11)(3) (4)(10) (5)(9) (6)

are dead.

(8) (7)

What is a child whose parents are dead called?

(9) (11)(1)(2)(8) (3)(7) (4) (6) (5) (10)

A child whose parents are dead is called an orphan.

(1) (2)(8) (3)(7) (4) (6) (5) (12) (11) (9) (10)

What is the man whom you met in the street?

(11) (12) (1) (2)(10) (3)(9) (4) (8) (7) (5) (6)

The man whom I met in the street is a merchant.

(1) (2)(10) (3)(9) (4) (8) (7) (5) (6) (13)(11) (12)

What was he doing?

(2) (4) (1) (3)

He was going to market.

(1) (5) (4) (3) (2)

What is that brick building which stands on the
corner of the street?

(14) (15) (1) (2) (3)(13) (4)(12) (11) (10) (8)
(9) (7) (5) (6)

It is a bank (bānk).

(1)(4)(2) (3)

What are those which are stopping in front of
the building?

(12) (13) (1)(11) (2)(10) (9) (8) (7) (6) (5)
(3) (4)

They are motor-cars.

(1) (3) (2)

What is that book which has a black cover (cōvēr)?

(9) (10)(1) (2)(8) (3)(8) (7)(4) (5) (6)

That is a law book.

(1) (5)(2) (3) (4)

What is that book whose cover is gray (grāy)?

(10) (11) (1) (2)(9) (3)(7) (4) (6) (5)

That is a book of history (his'tōrī).

(1) (6)(2) (5) (4) (3)

What are those books, the cover of which are
black and white?

(7) (8) (9)

They are books of chemistry (chēmīstrī).

(1) (5) (4) (3) (2)

What is that mountain which you see in the

(11) (12) (1) (2)(10) (3)(9) (4) (8) (7) (5)

distance (dīs'tānç)?

(6)

That is Mt. Fuji.

(1) (1) (3) (2)

What are those trees which you see on your left?

(1) (12) (1) (2)(10) (3)(9) (4) (8) (7) (5) (6)

They are pine-trees (pīnē-trēz).

(1) (3) (2)

(譯) 仕立屋とは何人ですか。仕立屋は着物を作る人です。

着物を作る人を何と云ひますか。着物を作る人を仕立屋
と云ひます。

孤兒とは何人ですか。孤兒とは両親を失つた子供です。

両親の失くつた子供を何と云ひますか。両親を失くし
た子供を孤兒と云ひます。

あなたが街でお會ひになつた人は何人ですか。私が街で
會つた人は商人です。

(あの人は)何をしてゐたのですか。(あの人は)市場に行
くところでした。

あの街の角にある煉瓦造の建物は何ですか。あれは銀行
です。

あの建物の前に止つてゐるのは(複數)何ですか。あれは
自動車(複數)です。

あの表紙の黒い本は何ですか。あれは法律書です。

灰色の表紙のあの本は何ですか。あれは歴史の本です。

黒い表紙と白い表紙のあれらの本は何ですか。あれ等は
化学書です。

向ふに見えるあの山は何山ですか。(あれは)富士山です。

あなたの左側にある木(複数)は何の木ですか。(あれ等は)

松の木です。

解 説

1. A tailor is a man who makes clothes.

に於て、who は man を代表するから代名詞であるが、又同時に動詞 makes の主語となつて、A tailor is a man といふ文と、who makes clothes といふ文とを結びつけてゐる。かうして、文と文とを連結する役目と、代名詞の働きを兼ねた語を、**関係代名詞** (Relative Pronoun) といふ。そして関係代名詞が代表する語、即ち上文に於て man はこれを先行語 (Antecedent) と云ふ。

What is that book which has a black cover?

に於ては、which は book を代表すると同時に has の主語であるから、この which なる語が**関係代名詞**で、その先行語は book である。

即ち who はその先行語が人である場合に用ゐる**関係代名詞**。

which はその先行語が物である場合に用ゐる**関係代名詞**。

この區別を混同せぬやう十分注意して記憶してもらひたい。

2. An orphan is a child whose parents are dead.

に於ては、child は whose の先行語、whose は**関係代名詞**であるが、又、parents にも係るから、これは**関係代名詞の所有格**である。

What is the man whom you met in the street?

に於ては、man は whom の先行語で、whom は**関係代名詞**であるが、met の目的となつてゐるから、これは**関係代名詞の目的格**である。

What is that book whose cover is gray?

What are those books, the cover of which are black and white?

の二文に於ては、book 及び books はそれぞれ whose 及び which の先行語で、whose 及び which は**関係代名詞**であるが、又 cover に係るから、これは**関係代名詞の所有格**である。

【註】 先行語が物である場合には**関係代名詞の所有格**は、先行語が人である場合と同様 whose であるが、of which のやうに which の前に**前置詞**を置いて**所有の意味**を表はす作り方もあるのである。

What is that mountain which you see in the distance?

に於ては、mountain は which の先行語で、which は**関係代名詞**であるが、see の目的となつてゐるから、これは**関係代名詞の目的格**である。

以上述べたところによつて、**関係代名詞の格の變化**を表示する。

人に用ゐる関係代名詞 (who)

主格	所有格	目的格
who	whose	whom

物に用ゐる関係代名詞 (which)

主格	所有格	目的格
which	whose (of which)	which

3. 関係代名詞の単数複数は、その先行語の数によつて定まる。

然し関係名詞そのものは数によつて形を變じない。

{ A tailor is a man who makes clothes.
 { Tailors are men who make clothes.

{ The tree which you see on your left is a pine-tree.
 { The trees which you see on your left are pine-trees.

Exercise

(1) 靴屋 (a shoemaker [s'əʊmə'ki:ə]) は何をする人ですか。靴屋は靴を作る人です。(2) 靴を作る人を何と云ひますか。靴を作る人を靴屋と云ひます。(3) 指物師 (a joiner [join'ɜ:ə]) は何をする人ですか。指物師は椅子やテーブルを作る人です。(4) 夫の亡くなつた人を何と云ひますか。夫のなくなつた人を未亡人 (a widow [wid'əʊ]) と云ひます。(5) 私には非常に (dearly [dɛə'li]) 愛する弟が一人ありますが、本年十八才です。(6) あ

なたが昨日町でお會ひになつた外國人は米國人で三ヶ月前日本へ来た人です。(7) あの山の上に建つてゐる建物は何か。あれは伊東さんの別荘 (villa [vii'la]) です。(8) あの山の麓 (the foot) を流れてゐる (to run) 川は何川ですか。あれは利根川の上流 (the upper course) です。(9) 遠方に見える彼の白い建物は学校ですか。いいえ、あれは瓦斯會社 (a gas company) (gās com'pəni) です。(10) この表紙の青い (blue) 本(複数)は何ですか。これはロンドン倫敦の兄が送つてくれた小説本です。(11) 塔 (a tower) の見えるあの寺は何寺ですか。あれは名高い法隆寺です。(12) 門の前に (in front of) にある木は何ですか。あれは去年植えた (to plant) 榎 (an oak [o:k]) です。

上の解答

(1) What is a shoemaker? A shoemaker is a man who makes shoes. (2) What do you call a man who makes shoes? A man who makes shoes is called a shoemaker. (3) What is a joiner? A joiner is a man who makes chairs and tables. (4) What is a woman whose husband is dead called? A woman whose husband is dead is called a widow. (5) I

have a younger brother whom I love dearly and who is eighteen years of age. (6) The foreigner whom you met in the street yesterday is an American who came to Japan three months ago. (7) What is that building which stands on that hill over there? It is Mr. Ito's villa. (8) What is the name of that river which runs at the foot of that mountain? It is the upper course of the River Tone. (9) Is that white building a school house which you see at the distance? No, it is a gas company. (10) What are these books whose covers are blue? They are novels which my elder brother in London sent me. (11) What is the name of that temple, the tower of which you see? It is the famous Horyuji Temple. (12) What is that tree which stands in front of the gate? It is an oak which I planted last year.

LESSON SIXTEEN

What do you do on Sundays and holidays?
(6) (8) (1) (7) (5) (2) (3) (4)

I generally go out for a walk when the weather
(1) (7) (11) (12) (10) (8) (9) (6) (2) (3)
is fine.
(5) (4)

What do you do when it rains?
(5) (7) (1) (6) (4) (2) (3)

I stay at home and study when it is rainy.
(1)(8) (7) (6) (9) (10) (5) (2)(4) (3)

As next Saturday falls on Tenchō-setsu, I intend to
(6) (1) (2) (5) (4) (3) (7) (16) (15)

go to Kamakura and stay over night. Won't you
(10)(9) (8) (11) (14) (13) (12) (10) (1)

go with me, if you are not engaged?
(9) (8) (7) (6) (2) (4) (5) (3)

Yes, I will, as I am free on that day. When shall
(1) (2) (3) (10)(4)(9) (8) (7) (5) (6) (1) (6)

I call on you?
(2) (5) (4) (3)

Please come to my house at three if it is convenient
(7) (13) (12)(10) (11) (9) (8) (6)(1)(5) (4)

(conve'nient) for you.
(3) (2)

When shall we leave your house?
(1) (6) (2) (5) (3) (4)

We shall leave my house as soon as the moter-car
(1) (10) (9) (7) (8) (6) (2) (3) (3)

is ready.
(5) (4)

It is very hot, isn't it?
(1)(4) (2) (3) (6) (5)

Yes, it is very hot though it is cloudy.

(1) (6) (9) (7) (8) (5) (2) (4) (3)

Will it rain to-morrow?

(4) (2) (3) (1)

I don't think it will rain to-morrow, though it is

(1) (13) (12) (8) (11) (10) (9) (7) (2) (6)

very cloudy to-day.

(4) (5) (3)

You seem to be in a hurry to go home, aren't

(1) (10) (9) (8) (7) (5) (6) (4) (3) (2) (12)

you? Why do you want to go home so soon?

(11) (1) (9) (2) (8) (7) (6) (5) (3) (4)

Can't you talk with me a little longer?

(8) (1) (7) (6) (5) (2) (3) (4)

No, I can't. I must go home at once that I may

(1) (2) (3) (1) (13) (12) (11) (10) (9) (2) (8)

be faithful to my promise (prōm'isə). I promised

(7) (6) (5) (3) (4) (1) (14)

Mr. Kato to see him at my house at seven this

(12) (13) (11) (10) (9) (8) (6) (7) (5) (4) (2)

evening.

(3)

For what is he coming to see you?

(2) (1) (8) (3) (7) (6) (5) (4)

He is coming to see me that he may get some

(1) (15) (14) (13) (13) (11) (10) (2) (9) (3) (6)

information about silk market.

(7) (5) (3) (4)

Is that so? Then good-bye!

(3) (1) (2) (1) (2)

Be sure to come to my house on Saturday at three.

(11) (10) (9) (8) (7) (5) (6) (2) (1) (4) (3)

Good-bye.

(1)

(譯) あなたは日曜日きゅうじつや休日きゅうじつには何をなさいますか。私は天気
のよい時には大概さはん散歩に出かけます。

雨天の時には何をなさいますか。雨天の時には家にゐて勉
強を致します。

今度の土曜日てんちやうせつは天長節かまくらですから、鎌倉はくに行つて一泊しようと
思つてゐます。他にお約束がなければ一緒にお出でなさいます
んか。他には別に約束もありませんから、お供を致します。

何時お宅へ参つたらよいでせうか。

御都合ごつがうがよければ、どうぞ三時に宅までお出で下さい。い
つお宅を立つのですか。

自動車の用意が出来次第しゆつぱつ出發することに致しませう。

何と暑いことあつでせう。空は曇くもつてゐても、ほんたうに暑い
ですね。

明日は雨でせうか。今日はこんなに曇くもつてゐますが、明日
は降ふらないでせう。

大層たいそうお歸りをお急ぎのやうですね。何故そんなにお急ぎな
のですか。もつとゆつくりお話し致さうではありませんか。い

いえ、御免を蒙ります。私は約束に忠實であるためには、直ぐに帰宅しなければなりません。私は今晚七時に宅で加藤さんに面會の約束があります。

加藤君は何用でお訪ねになるのですか。生絲相場のことに就て私に聞きたい事があつて來られるのです。

さうですか。では、左様なら。土曜日の三時に宅へお出でのことをお忘れにならないやうに。さやうなら。

解 説

1. A. What do you do on Sundays *and* holidays?
- B. I generally go out for a walk *when* the weather is fine.
- C. Won't you go with me, *if* you are not engaged?
- D. Yes, I will, *as* I am free on that day.
- E. We shall leave my house *as soon as* the moter-car is ready.
- F. Yes, it is very hot, *though* it is cloudy.
- G. I must go home at once *that* I may be faithful to my promise.

上例中 (A) の *and* は語と語とを結びつけ、(B) の *when*, (C) の *if*, (D) の *as*, (E) の *as soon as*, (F) の *though*, (G) の *that* 等はいづれも文と文とを連結する語である。かく。語と語、文と文とを結びつける語を接續詞 (Conjunction) といふ。

【註】 *and* は語と語とを結びつけるために用ゐることが多い。又語と語とを結びつける接續詞は *and* に限るけれど *and* を以て文と文とを結びつけることも亦少くない。今まで何回も用ゐて、已に諸君の知つてをらるる筈の *but* といふ語がある。これも接續詞で、文と文とを結びつけるものである。if も已に第二課に於て用ひてあつたが、只接續詞として説明を加へなかつたのである。

2. *When, if, as, as soon as* 等は、何れも條件、理由を表はす接續詞で、*though* は讓歩の意を表はし、*that* は多くは *may* を伴うて目的を表はす接續詞である。

Though, if のつく節は、これを文の初めに置いても、後に置いても何れでもよい。即ち

- A. *Though* it is rainy, I will go. } 雨は降つてゐるが
B. I will go, *though* it is rainy. } 行く。

A と B とは意味は全く同じである。

- A. *If* it is rainy, I will not go. } 雨が降れば行かぬ。
B. I will not go, *if* it is rainy. }

A と B とは全く同じ意味である。

【註】「明日は雨が降るまいと思ふ」といふやうな邦文を譯するには、英語では「明日雨が降るとは思はない」のやうに、not を think の打消として譯さなくてはならぬ。つまり I think it will not rain to-morrow. は日本語の直譯で、英語としては誤りである。正しい英語は I don't think it will rain to-morrow. である。

この外最も普通に用ひられて、理由を表はす接續詞に、because (bə'kæz) といふ語がある。たとへば I study very hard at my English lessons, because I want to learn them quickly. (私は英語の教課を早く學ぼうと思ひますから、一生懸命に勉強致します。) 又 because, as と同意味の接續詞に for といふ語もある。

Exercise

(1) 雨の降る時は私は外出しない (stay at home) で、讀書致します。(2) 明日もし好天氣ならば、午後三時頃お訪ね (call on you) 致します。(3) 御都合がよければ、午前中 (in the morning) にお出で下さい。一緒に日光へ参りませう。(4) 用事が済み次第 (as soon as) 帰宅するから、暫らく待たしておいてくれ。(5) 次の日曜日には私は房州の北條へ行つて一泊するつもりです。あなた

は何處へお出でになりますか。(6) 空が晴れ (to clear up) 次第に私共は散歩に出かけます。いつお歸りですか。夕方までには歸ります。(7) なぜあなたはそんなに勉強しますか。私は偉い人 (a great man) にならうと思ふからです。(8) 何故彼はその職を失うたのですか。彼は不注意 (careless) であつたからです。(9) あなたは何のために運動をする (to take exercise) のですか。丈夫 (strong) になるために運動を致します。(10) 明日は雪が降るでせうか。いいえ、私は雪は降るまいと思ひます。では寒 (to sleep) でせうか。さうかも知れません。

上の解答

(1) I stay at home and read books when it is rainy. (2) I will call on you about three o'clock to-morrow, if it is fine. (3) Please come to my house in the morning if it is convenient for you. We shall visit Nikko together. (4) Let him wait for me a little while, as I shall return home as soon as I finish my work. (5) Next Sunday I intend to go to Hōjō in Bōshū and spend a night there. Where are you going? (6) We shall go out for a walk as

soon as it clears up. When will you come back?
We shall return by the evening. (7) Why do you
study so hard? It is because I want to become a
great man. (8) Why did he lose his position?
Because he was careless. (9) What do you take
exercise for? I take exercise that I may become
strong. (10) Do you think it will snow to-morrow?
No, I don't think it will snow to-morrow. Then, will
it sleet? Yes, it may.

LESSON SEVENTEEN

前教課までに大體初等英語の必須知識を授けた。諸君は今までに
學ばれたことを十分に研究記憶して、これを活用するれば、實用的
の英語ならば大抵讀むことも書くことも出来る筈である。本教課以
下に於ては、少し連續的の讀物を掲げようと思ふ。ついで一通り
辭書の引き方を説明して置かなければならぬ。今日我が國で出版さ
れてゐる辭書の數は多いが、先づ三省堂の Concise か、岡倉氏
の英和辭書くらゐが手頃と思はれる。凡て英語の辭書は Alpha'et
二十六字に英語の單語を分類して收めてあるので、例へば Boy と
いふ語が分らないとすれば、字引で先づ B の處を見出す。この B

の部には、B を以て初まる總ての語が集めてあるのであるから、B
で始まる語のうちで B の次に A の來る語が初めに出てゐる。
その次には Bb, Bc (そんな語はないが、もしあればこの順序であ
る、Bd, Be といふ順序で、Bo の處まで探してゆく。Bo が出る
と、Boa, Bob, Boc, Bod, といふ風に、三字目も矢張り Alphabet
の順に並べてあるから、段々終りに近づくとき Boy といふ語に出會
ふので、この Boy といふ語の處を見ると、(Boy, n. (一) 男兒、
(二) 小僧、給仕、のやうに出てみて、即ち Boy といふ語の意味
がわかるのである。そしてこの n. は Noun といふ字の略で、こ
の Boy といふ語が名詞である譯である。普通辭書に用ゐてある略
字の中で主なるものは、先づ

a.....adjective (形容詞)	prep.....preposition (前置詞)
ad.....adverb (副詞)	pro.....pronoun (代名詞)
conj...conjunction (接續詞)	v. aux...auxiliary verb (助動詞)
art...article (冠詞)	v. i...intransitive verb (自動詞)
int...interjection (間投詞)	v. t.....transitive verb (他動詞)
n.....noun (名詞)	

位な處である。辭書で單語を引く時には、常に單語の意味だけを知つ
て満足しないで、序にその品詞を研究して置くことが必要である。
辭書を引くことに馴れる迄は、一語を探しあてるにも一寸面倒であ

るが、少し引きなれると何でもなくなる。英語の辞書は漢字や日本語の辞典よりも遙かに引きよく出来てゐる。

1. Give me $\left\{ \begin{array}{l} \text{a third single (sɪn'gl̩)} \\ \text{a third return (rɪ'tʌrn)} \end{array} \right\}$ to kyoto.

(京都まで $\left\{ \begin{array}{l} \text{三等片道券} \\ \text{三等往復券} \end{array} \right\}$ を下さい)

2. Please $\left\{ \begin{array}{l} \text{get} \\ \text{have} \end{array} \right\}$ my luggage (lʊg'gɑ:ʒ) checked at the luggage office. (どうか私の荷物を荷物預け處で預けて下さい。)

3. I shall $\left\{ \begin{array}{l} \text{have} \\ \text{get} \end{array} \right\}$ the servant $\left\{ \begin{array}{l} \text{bring} \\ \text{to bring} \end{array} \right\}$ some fresh water. (下僕に清水を以つて來させませう)

4. The railway traffic (traf'fɪk) has been $\left\{ \begin{array}{l} \text{suspended (sʌspɛnd'ɛd)} \\ \text{interrupted (ɪn'tɛrɹʌpt'ɛd)} \\ \text{blocked (blɔ:kɛd)} \end{array} \right\}$ owing to the heavy

rain. (大雨のために鐵道運輸は中止されてゐます。)

booking-office (book'ɪŋ-of'ɪs) 出札所

luggage-office (lu'gɑ:ʒ-of'ɪs) 荷物扱所

platform-wicket (plat'fɔ:m' wɪk'et) 改札口

waiting room (waɪ'tɪŋ-rʊm) 待合室

bogie-car (bo'gi:ɪ-ka:ɹ) ボギー車, sleeping car (sli:pɪŋ-ka:ɹ)

寝臺車, dining-car (daɪ'nɪŋ-ka:ɹ) 食堂車, observation-car

(ob'sɜ:və'tɪɔ:n-ka:ɹ) 展望車, freight-car (freɪht-ka:ɹ) 貨車,

platform ticket (plat'fɔ:m'tɪk'et) 入場券, season ticket

(si:zən'tɪk'et) 定期券, commutation ticket (kəm'mu'teɪʃən

tɪk'et) 回数券, through train 直通列車, express train

(ɪks'pres'treɪn) 急行列車, freight train 貨物列車, excursion

train (ɪks'ɜ:ʃən'treɪn) 回遊列車, up train 上り列車, down

train 下り列車, (pɔ:t'ɛr) 赤帽。

- A. Here we are at the station. Let us go into
(1) (2) (6) (5) (3) (4) (6)(11)(5) (10) (9)

the waiting-room until the train comes.
(7) (8) (4) (1) (2) (3)

- B. Yes, it is still early. What a crowd of people
(1) (2)(5) (3) (4) (1) (4) (5) (3) (2)

there are!
(6) (7)

- A. Now the booking-office is open. Let us go
(1) (2) (3) (5) (4) (2)(8) (1) (3)

and get our tickets. Give me two 3rd singles to
(4) (7) (5) (6) (7) (1) (4) (5) (6) (3)

Osaka. What is the fare?
(2) (3) (4) (1) (2)

B. 3 yen and 56 sen each.
(1) (2) (3) (4) (5) (6)

A. Shall we be able to take this trunk into the
(11) (1) (10) (9) (8) (7) (2) (3) (6) (4)
carriage?
(5)

B. No, I think not; it is too bulky.
(1) (2) (4) (3) (5) (8) (6) (7)

A. Then get the porter to carry it to the
(1) (14) (12) (13) (11) (6) (2) (5) (3)
luggage-office and get it checked.
(4) (7) (10) (8) (9)

B. All right.
(1) (2)

A. They are punching tickets already at the wicket.
(1) (8) (7) (6) (2) (5) (3) (4)

Let us go.
(2) (4) (1) (3)

B. Yes, but just wait a minute as I want to buy
(1) (2) (13) (16) (14) (15) (12) (3) (11) (10) (9)
some newspapers at the st. ll?
(7) (8) (6) (4) (5)

A. Talking of trains, have you heard of the
(3) (2) (1) (13) (4) (12) (11) (9)
brockade on the San-in line?
(10) (8) (5) (6) (7)

B. Yes, in the San-in districts the railway traffic
(1) (5) (2) (3) (4) (6) (7) (8)
has been suspended owing to a heavy snow-storm.
(16) (15) (14) (13) (12) (9) (10) (11)

LESSON EIGHTEEN

1. { I am very fond of travelling (trāv'elling). } 私は大變
{ I have a great fancy for travelling. } 旅行を好
{ I have a great liking for travelling. } みます。

2. { a tour (tòur).
to make { a trip (trīp).
a journey (jòur'nèy).
to go on { a trip.
a journey.

3. { I am going, I intend to go, I shall go, I am
thinking of going } to the sea-side this summer.

(私はこの夏海邊^{なつ}に行かうと思つてゐます)

4. He has come here {for sight-seeing, for the
purpose of seeing sights, with the object of seeing
sights.}

(彼は名所見物^{めいしよけんぶつ}のために此地へ來ました)

5. Travel without a companion (compān'ion) is not
pleasant. One can hardly enjoy travelling without

a companion. A good companion makes journey pleasant. (旅は道づれ)

by {land, sea, car, steamer, train, express.}

by {letter, telephone (těl'èphōne), telegram

(těl'ègrām), wire, cable, word of mouth}

on {foot, horseback} sea route

1=陸路を、2=海路を、3=電車で、4=汽船で、5=汽車で、

6=急行列車で、7=書面で、8=電話で、9=電報で、10=電信で、

11=海底電信で、12=口頭で、13=徒歩で、14=馬上で、海路。

A. Are you fond of travelling?
(5) (1) (4) (3) (2)

B. Yes, I am very fond of travelling, so I make
(1) (2) (7) (5) (6) (4) (3) (8)(9) (17)

a tour once or twice a month.
(15) (16) (12) (13) (14)(10) (11)

A. Which do you find more interesting, to travel
(8) (13)(9) (12) (10) (11) (7) (6)

by train or on foot?
(2) (1) (3) (5) (4)

B. I find it more interesting and beneficial to
(1) (11) (6) (7) (8) (9) (10) (5)

travel by train.
(4) (3) (2)

A. Are you thinking of going anywhere this
(8) (1) (7) (6) (5) (4) (2)
summer?
(3)

B. Yes, I intend to make a journey to Hokkaido
(1) (2) (11) (10) (9) (7) (8) (6) (5)
for sight-seeing.
(4) (3)

A. Have you any one who can go with you?
(11) (1) (2)(3)(10)(4)(9)(8) (7) (6) (5)

B. Yes, I am thinking of going there with my
(1) (8)(16) (15) (14) (13) (12) (11) (9)
cousin, as travelling alone affords little pleasure.
(10) (7) (3) (2) (6) (4) (5)

A. Which way are you going, by land or by sea?
(6) (7) (10) (8) (9) (2) (1) (3) (5) (4)

B. I shall first go to Aomori by train, and then
(1)(8)(15) (2) (7) (6) (5) (4) (3) (9) (10)
take boat to Hakodate. From Hakodate I shall
(14) (13) (12) (11) (2) (1) (3) (9)
go to Otaru by train.
(8)(7) (6) (5) (4)

A. Will you come back the same route?
(7) (1) (6) (5) (2) (3) (4)

B. No, I shall take the sea route from Hakodate
(1)(2) (11) (10) (7) (8) (9) (4) (3)
to Yokohama.
(6) (5)

A. I hope you will have a very fine time of it.
(1) (11) (2) (10) (9) (5) (6) (7) (8) (4)(3)

B. Thank you, I hope so.
(2) (1) (3) (5) (4)

LESSON NINETEEN.

1. a. He has made remarkable progress (rēmār'kəblə prōg'rēs̄s̄) in English of late.
 b. He has taken long strides in English of late.
 (彼は近頃英語が非常に^{しんぱ}進歩しました)。
2. a. They import (im-pōrt') much cotton (cot'tɒn) annually (ān'njuālly) from India (in'diā).
 b. Much cotton is annually imported from India.
 (年々多量の^{りやうめんくわ}綿花が^{いんぢ}印度から^{ゆにふ}輸入されます)。
3. a. The total amount (to'tal amount') of toilet (toi'lēt) goods imported into our country is over 1,000,000 yen a year.
 b. The total amount of toilet goods imported from foreign countries amounts to more than one million (mī'lion - mī'yon) yen a year.
 (我國に^{ゆにふ}輸入される^{けしやうばんねんがく}化粧品^{まんねん}の年額は^こ一百万圓を超えます)
4. { excess (ex'çēs̄s̄) of exports (ēx'pōrts) over imports
 (im'pōrts). favorable (fā'vɔrəblə) balance
 (bāl'ənce) of foreign trades.
 (輸出^{ゆしゆつてうくわ}超過)。

{ excess of imports over exports.
 { unfavorable balance of foreign trade.

(ゆにふてうくわ
 輸入超過)。

- a. The exports have exceeded the imports by 1,000,000 yen.
 6. The balance of foreign trade shows an excess of exports to the extent (ēxtēnt') of 1,000,000 Yen.
 (輸出額^{ゆしゆつがく}が輸入額^{ゆにふがく}を超えること^こ(輸出^{ゆしゆつてうくわ}超過)一百万圓^{まんねん}であつた)。
1. industry (in'dustrī). 2. remarkable (rēmār'kəblə)
 3. progress (prōg'rēs̄s̄). 4. outbreak (out'brēāk').
 5. stride (strīdē). 6. chemical (chēm'ical) 7.
 establish (ēstāb'līsh). 8. vicinity (vīçin'ity). 9.
 smoke stack (smōkē stāck). 10. Man'chester. 11.
 dyestuff (dīē'stūff). 12. chiefly (chīēflī) 13.
 manufacture (mān''ufac'ture), 14. article (ār'ticelē).
 15. In'dia. 16. Austrā'lia.
- 1.=産業^{さんげふ}。 2.=著るしき^{いちじ}。 3.=進歩^{しんぱ}。 4.=勃發^{ぼつはつ}。 5.=濶歩^{くわつほ}。
 6.=化學上の^{くわがくじやう}。 7.=創立する^{さうりつ}。 8.=附近^{ふきん}。 9.=煙突^{えんとつ}。 10.=マン
 チェスタ。 11.=染料^{せんれう}。 12.=主に^{せいざう}。 13.=製造する^{せいざう}。 14.=物品^{ぶつびん}。
 15.=印度^{いんぢ}。 16.=濠洲^{がうしう}。

- A. Japan's industry has made remarkable progress
(1) (2) (8) (7) (5) (6)
of late, hasn't it?
(4) (3) (10) (9)
- B. Yes, since the outbreak of the European War
(1) (8) (6) (7) (5) (2) (3) (4)
our country has taken long strides in her industry,
(9) (10) (22) (21) (19) (20) (13) (11) (12)
especially in the chemical industry.
(14) (18) (15) (16) (17)
- A. Many industrial companies have been newly
(1) (2) (3) (13) (12) (10)
established in different parts of the country, I
(11) (9) (7) (8) (6) (4) (5) (14)
suppose.
(15)
- B. Yes, especially in Osaka and its vicinity we see
(1) (2) (7) (3) (4) (5) (6) (8) (15)
lots of smoke stacks newly built. In fact, Osaka
(14) (13) (11) (12) (9) (10) (2) (1) (3)
may well be called the Manchester of Japan.
(11) (8) (10) (9) (6) (7) (5) (4)
- A. From what countries were dyestuffs and chemicals
(3) (1) (2) (12) (4) (5) (6)
formerly imported into our country?
(7) (11) (10) (8) (9)
- B. They were chiefly imported from Germany, but
(1) (6) (2) (5) (4) (3) (7)

- at present they are being manufactured in our
(8) (9) (10) (16) (15) (14) (13) (11)
country.
(12)
- A. To what countries are Japanese articles exported?
(3) (1) (2) (7) (4) (5) (6)
- B. The chief countries to which they are exported
(1) (2) (3) (10) (5) (4) (9) (6) (8) (7)
are China, India and Australia.
(15) (11) (12) (13) (14)
- A. What does the sum total of our annual exports
(8) (11) (5) (7) (6) (4) (1) (2) (3)
amount to?
(10) (9)
- B. The sum total of our exports amounts to more
(4) (6) (5) (3) (1) (2) (14) (13) (12)
than 1,000,000,000 yen a year.
(11) (9) (10) (7) (8)
- 【註】 1. the total sum とは云はないで、the sum total と逆に
云ふ習慣である。2. (日本の産業) といふやうな場合に、
“The Japanese industry” 又は “Japanese industry”
などすることは初學者にはよく有り勝ちなことであるが、こ
れは「日本の産業」とならず「日本流の産業」となつて全く
無意味になるから、必ず Japan の所有格を用ゐて “Japan's
industry” とすべきである。固有形容詞 (Proper Adjective)

を用ゐてはならぬ。3. import, export 等の語は、動詞の時には第二音節 (syllable) に accent があり、名詞の時も普通複数の形となつて第一音節に accent のあることに注意を要する。英語には全然同じ綴りでありながら、品詞の異なるに従つて、accent の所在を異にする語が少くないから、諸君はこの一事に十分注意しなければならぬ。4. progress といふ語に對しては、不定冠詞は用ひない。stride は大抵複数形を用ひるが、單數形の時には不定冠詞を用ひなければならぬ。5. may well be called は「……と呼ばれるのも無理はない」と云つたやうな意味を表はす idiom である。

LESSON TWENTY.

1. A fire $\left\{ \begin{array}{l} \text{brōk} \ddot{e} \text{ out.} \\ \text{tōōk place.} \\ \text{occur' red} \end{array} \right.$ There was a fire (火事があつた)。
2. The fire $\left\{ \begin{array}{l} \text{started} \\ \text{ōrig'inātē} \end{array} \right.$ in a temple near by.
(その火事は近所の寺から起つた)。
3. The house was completely $\left\{ \begin{array}{l} \text{burnt down.} \\ \text{dēstroy'ed.} \\ \text{dēmōlished.} \end{array} \right.$
(その家は全く焼け落ちてしまつた)。

4. The fire was $\left\{ \begin{array}{l} \text{by the ēffōrts of the fire-brigade.} \\ \text{owing to the ēxēr'tions of the} \\ \text{fire-brigade.} \\ \text{by dint of the efforts of the fire} \\ \text{soon put out} \quad \left\{ \begin{array}{l} \text{brigade.} \\ \text{thanks to the ūt'mōst efforts of the} \\ \text{fire-brigade.} \end{array} \right. \end{array} \right.$

(火事は消防隊の必死の努力によつて直ぐ鎮火した)。

5. The fire was $\left\{ \begin{array}{l} \text{put out.} \\ \text{ēxtin'guīshed.} \\ \text{got under.} \\ \text{brought under (contrōl').} \end{array} \right.$

(火事は鎮火した)。

6. $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. The loss sustāined' is ēs'timātēd at one} \\ \text{million yen.} \\ \text{b. It is estimated that the dāmā'gē done by the} \\ \text{fire is one million yen.} \end{array} \right.$

(火事の損害は一百万圓と想像されてゐる)。

7. The building is insured with the Meiji Fire Insurance Company for 100,000 yen.

(その建物は明治火災保險會社に十萬圓の保險がついてゐる)。

He insured himself with the Teikoku Life Insurance Company for 10,000 yen.

(彼は帝國生命保險會社に一萬圓の保險に入った)。

8. { A strong wind was blowing then. } (その時風が強かつ
 { There was a high wind then. } た)。

1. alarm'-bell' (警鐘), 2. rush out (飛び出る), (3) alarm'ing (非常な、驚くべき), 4. rapid'ity (速度、速さ), 5. f an (煽る), 6. prompt'ly (速かに、直ちに), (7) des'perate (必死の), neigh'oring (近所の), 8. partial'ly (幾分), 9. fu'rious (猛烈な), 10. ru'mour (評判), 11. ac'ciden'tal (偶然の、過失の), 12. incen'diary (放火)。

- A. Did you hear the alarm-bell ringing last night?
 (8) (1) (7) (4) (5) (6) (2) (3)
- B. Yes, I heard it and rushed ont to see where
 (1) (2) (4) (3) (5) (14) (15)(13)(12) (6)(11)
 a fire broke out.
 (7)(8) (9) (10)

- A. Where did the fire start?
 (1) (5) (2) (3) (4)

- B. It originated in a room of the Imperial Hotel
 (1) (9) (8)(6) (7) (5) (2) (3) (4)
 and was spreading with alarming rapidity as it
 (10) (25) (24) (23) (21) (22) (20)(11)
 was fanned by a strong north-east wind then.
 (18) (19) (17)(13) (14) (15) (16) (12)

- A. Did the fire-brigade come up at once?
 (7) (1) (2) (5) (6) (4) (3)

- B. Yes, it answered the alarm very promptly,
 (1) (2) (7) (5) (6) (3) (4)

but, in spite of its desperate efforts, the whole
 (9) (12) (9) (10) (11) (13) (14)

building was completely demolished and several
 (15) (18) (16) (17) (19) (20)

neighboring houses were partially-destroyed.
 (21) (22) (25) (23) (24)

- A. When was it extinguished?
 (1) (4) (2) (3)

- B. It was at last put out at 1 in the morning,
 (1) (17) (2) (16) (15)(14)(13) (11) (12)

thanks to the furious efforts of the fire-men.
 (10) (9) (6) (7) (8) (5) (3) (4)

- A. What was the cause of the fire?
 (1) (7) (5) (6) (4) (2) (3)

- B. Rumour says that it was not an accidental fire,
 (1) (13) (5) (2) (6) (7) (3) (4) (5)

but an incendiary one.
 (8)(9) (10) (11)

- A. How much damage was done by the fire?
 (1) (2) (3) (8) (7) (6) (4) (5)

- B. The loss sustained is estimated at 1,500,000 yen,
 (2) (3) (1) (8) (7) (6) (4) (5)

but the hotel was insured with the Meiji Fire
 (9) (10) (11) (22) (21) (17) (12) (13) (14)

Insurance Company for 500,000 yen.
 (15) (16) (20) (18) (19)

LESSON TWENTY-ONE.

1. { We had a heavy typhoon (tīphōōn').
It blew a gale.
It blew very hard.
(暴風が吹いた)。
2. { Considerable (cōnsid'erable) } damage has been
A great deal of } done to the fruits.
The fruits have suffered very much.
The fruits have been much damaged.
(果物に大損害があつた)。
3. { It seems that Kyushu has suffered most.
Kyushu seems to have suffered most.
(九州が一番被害が多かつたやうである)。
4. A part of the roof was blown off by the storm.
(家根の一部が嵐に吹き飛ばされた)。
5. Thousands of the trees were blown down by the wind.
(幾千の樹木が嵐に吹き倒された)。
6. The storm has blown over. (嵐が吹き止んだ)。
7. The departure (dēpār'tūrə) of the ships was

{ put off
postponed (dōstpōnəd') } for a time.

(汽船の出帆が一時中止された)。

8. Their vessel (vēs'sēl) { capsized (cāp'sīzəd) } by the
was { upset (ūpset') } typhoon.

(彼等の乗船は大風に覆された)。

{ The whereabouts of husband and wife { unknown }
are { uncertain }
Husband and wife disappeared (dis'appēared'):
their whereabouts are a mystery (mystēr'y).

(夫婦の行方が不明である)。

1. severe' (烈しい), 2. skirt'ing (縁に沿うて進む), 3.
struc'tures (建造物), 4. tiles (瓦), 5. factories (工場),
6. prefec'ture (縣), 7. serv'ice (奉仕、便 船便 汽車便等の),
8. fer'ry (連絡航路)。
A. What a heavy typhoon we had yesterday!
(1) (2) (3) (4) (6) (7) (5)
B. Yes, it was quite a severe one. The typhoon
(1) (2)(7) (3) (4) (5) (6) (1) (2)(11)
which had been skirting the Loochu (Loo'chu)
(3)(10) (9) (8) (7) (4) (5)
Islands turned towards the north-eastern part of
(6) (18) (17) (14) (15) (16) (13)
Kyushu.
(12)

- A. Do you know what part of the country has
(11) (1) (10) (5) (6) (4) (2) (3) (9)
suffered most?
(8) (7)
- B. According to to-day's paper, Kyushu seems to
(4) (3) (1) (2) (5) (10) (9)
have suffered most.
(8) (7) (6)
- A. Has considerable damage been done to the
(11) (1) (2) (10) (9) (8) (3)
houses and other structures?
(4) (5) (6) (7)
- B. Yes, quite many tiles were blown off the roofs
(1) (2) (3) (4) (11) (10) (8) (9)
of the houses, thousands of the trees were blown
(7) (5) (6) (15) (14) (12) (13) (17) (16)
down, and several smoke stacks at the factories
(18) (22) (23) (24) (21) (19) (20)
fell in Fukuoka Prefecture.
(28) (27) (25) (26)
- A. How about the steamship service?
(5) (4) (1) (2) (3)
- B. At Moji the passage of the Imperial Government
(2) (1) (13) (14) (12) (7) (8) (9)
Railway ferry between Moji and Shimonoseki was
(10) (11) (6) (3) (4) (5) (19)
suspended for a time and the departure of the
(18) (17) (15) (16) (20) (24) (25) (23) (21)
ships was postponed.
(22) (27) (26)

- A. Were there any accident at sea?
(6) (3) (4) (5) (2) (1)
- B. Yes, at Nagasaki a fisherman's family of 6 had
(1) (3) (2) (6) (7) (8) (5) (4) (15)
their vessel capsized by the typhoon. The
(12) (13) (14) (11) (9) (10) (5)
whereabouts of the 6 persons are unknown.
(6) (4) (1) (2) (3) (8) (7)

LESSON TWENTY-TWO

1. a. I hear your city has been $\left\{ \begin{array}{l} \text{visited by} \\ \text{suffering from} \end{array} \right\}$
disastrous floods.
b. I hear there have been disastrous floods in your
city.
だいこうずい よし
(御地大洪水の由)。
2. About 500 houses were $\left\{ \begin{array}{l} \text{flooded.} \\ \text{submerged (sūbmērgēd').} \\ \text{inundated (inūn'dātēd).} \end{array} \right.$
しんたい
(約五百戸浸水した)。
3. Thousands of houses were $\left\{ \begin{array}{l} \text{washed awny} \\ \text{carried away} \end{array} \right\}$ in the
flood.
かなく こうずい りうしつ
(幾千戸の家屋が洪水のために流失した)。
1. embank' ments (堤防), 2. ricc'field'' (rice'-land) (米田),
ていぼう べいでん

3. rice'-crops'' (米作), 4. cas'ualties (死傷), 5. land'slip'' (山崩れ), 6. resumed' (再び開始される、恢復する),

A. I hear y. u. city has been visited by disastrous floods since yesterday morning.
(1) (13) (2) (3) (12) (11) (10) (9) (7) (8) (6) (4) (5)

B. Yes, the heavy rain which had been falling since the day before yesterday caused the flood yesterday morning.
(1) (2) (3) (4) (15) (5) (14) (13) (12) (11) (10) (8) (9) (7) (6) (20) (18) (19) (16) (17)

A. How many houses were flooded in your city and its neighborhood?
(1) (2) (3) (11) (10) (6) (4) (5) (6) (7) (8)

B. There are about 4,000 houses inundated, about half of them having been flooded above the floor.
(1) (6) (2) (3) (4) (5) (9) (10) (8) (7) (16) (15) (14) (13) (11) (12)

A. Have the floods done much damage?
(6) (1) (2) (5) (3) (4)

B. Yes, many of the bridges hanging over the rivers were washed away and the embankments were destroytd at many points.
(1) (9) (8) (6) (7) (5) (4) (2) (3) (12) (10) (11) (13) (14) (15) (20) (19) (18) (16) (17)

A. Then considerable damage has been done to the
(1) (2) (3) (9) (8) (7) (6) (4)

rice-field?
(5)

B. Yes, as the result of the inundation of the rice-land, serious damage has been done to the rice-crops.
(1) (10) (8) (9) (7) (5) (6) (4) (2) (3) (11) (12) (18) (17) (16) (15) (13) (14)

A. Were there any casualties among men?
(6) (1) (4) (5) (3) (2)

B. Yes, three persons were buried and killed by a landslip, and two were seriously injured.
(1) (2) (3) (10) (7) (8) (9) (6) (4) (5) (11) (12) (15) (13) (14)

A. How was the railway traffic?
(1) (5) (2) (3) (4)

B. It was blocked at sereval places, and it is unknown at present when the traffic will be resumed.
(1) (6) (5) (4) (2) (3) (7) (8) (19) (18) (17) (16) (9) (15) (10) (14) (13) (12)

【註】 洪水の動詞、即ち「溢らす」は inun'date であるが、その名詞、即ち洪水は inunda'tion である。accent の所在の異なることに注意しなさい。

LESSON TWENTY-THREE

When I want to buy note-paper, a pen, ink, a
(21) (1) (20) (19) (18) (2) (3) (4) (5) (6)

newspaper, a box of matches, cigars, or anything
(7) (10)(11) (9) (8) (12) (13) (17)

I may require, I go to a shop in which I am
(14) (16) (15) (22) (39) (38) (23) (24) (37) (23) (25) (36) (27) (35)

likely to find the article in question.
(34) (33) (32) (30) (31) (29) (28)

It is the exception for an Englishman to say he
(12)(18)(16) (17) (15)(13) (14) (11)(10)(1)

is going to such and such a shop; as a rule he
(9) (8) (7) (2) (3) (4) (5) (6) (21)(19) (20)(22)

prefers to mention the name of the man who
(41) (40) (39) (37) (38) (36) (23)(24)(30)(25)(29)

keeps the shop, *i.e.* the shopkeeper or retailer.
(28) (26) (27) (31) (32) (33) (34) (35)

So he speaks of going to the grocer's or to Smith's
(1) (2) (24) (23) (22)(18)(16) (17) (19)(21) (20)

when he means to say that he is going to a
(15) (3) (14) (13)(12) (11) (4)(10) (9) (8) (5)

grocer's shop.
(6) (7)

Most people who are engaged in a business or trade,
(1) (2)(12)(3)(11)(10) (9) (8)(4) (5) (6) (7)

do so in order to make their living by it.
(20)(19) (18) (17) (15) (16) (14)(13)

The almost endless variety of business may roughly
(3) (4) (5) (6) (2) (1) (34) (7)

divided into two classes, *viz.*, shopkeepers who
(33) (32) (8) (9) (10) (11)(21) (12)(20)

mainly retail goods bought from wholesale dealers
(13) (19) (18) (17) (16) (14) (15)

and shopkeepers who chiefly sell their own
(22) (23)(31) (24)(30) (25) (29) (26) (27)

products.
(28)

To the first class belong the following: the book-
(4) (1) (2) (3) (7) (5) (6) (8) (9)

seller; the stationer; the tobacconist, the draper;
(10) (11) (12) (13) (14) (15)

the hatter; the glover; the hosier; the jeweller;
(16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23)

the mercer; the baberdasher; the perfumer;
(24) (25) (26) (27) (28) (29)

the outfitter; the gentleman's outfitter; the military
(30) (31) (32) (33) (34) (35) (36)

outfitter; the florist; the greengrocer; the
(37) (38) (39) (40) (41) (42)

cheesemonger and provision dealer; the dairyman;
(43) (44) (45) (46) (47) (48)

the fishmonger; the tea-merchant; the druggist;
(49) (50) (51) (52) (53) (54)

the chemist; the chinamerchant; the gilder and
(55) (56) (57) (58) (59) (60) (61)

picture frame maker; the ironmonger; the cutler;
(62) (63) (64) (65) (66) (67) (68)

the toy-dealer; the bird-fancier.
(69) (70) (71) (72)

Among those shop-keepers who mainly retail goods
(13) (1) (2)(12) (3) (11) (4) (10) (9)

of their own make, the following may be mentioned:
(8) (5) (6) (7) (14) (15) (18) (17) (16)

the baker ; the pastry-cook ; the confectioner ; the
(19) (20) (21) (22) (23) (24) (25)

butcher ; the brewer ; the boot and shoemaker ;
(26) (27) (28) (29) (30) (31) (32)

the milliner ; the furrier ; the optician ; the clock
(33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40)

and watchmaker ; the gunsmith ; the saddler ; the
(41) (42) (43) (44) (45) (46) (47)

upholsterer ; the furniture dealer ; the tinman.
(48) (49) (50) (51) (52) (53)

In London each special kind of business has its
(2) (1) (5) (6) (7) (4) (3) (11) (8)

particular centre. John Bull therefore has
(9) (10) (2) (3) (1) (8)

introduced the so-called "store-system." In a
(7) (4) (5) (6) (3) (1)

"store" the buyer finds almost everything he
(2) (4) (5) (18) (8) (9) (6)

want *e.g.* groceries, pins, brushes, flowers, hats,
(7) (10) (11) (12) (13) (14) (15)

outfits, *etc.* All stores trade on the cash-system,
(16) (17) (1) (2) (14) (5) (3) (4)

i.e. on the principle of ready money payments.
(6) (13) (11) (12) (10) (7) (8) (9)

The so-called "co-operative store" are trading
(1) (2) (3) (4) (24) (5)

associations which supply none but their members
(6) (23) (7) (22) (20) (13) (21) (12) (8) (9)

and shareholders with best goods at lowest price ;
(10) (11) (19) (17) (18) (16) (14) (15)

well-known are the Army and Navy Stores, and
(25) (36) (26) (27) (28) (29) (30) (31)

the Civil Service Stores both of which carry on
(32) (33) (34) (35) (39) (38) (37) (43)

an immense trade.
(40) (41) (42)

Other stores are "limited companies," formed by
(1) (2) (16) (14) (15) (8) (7)

a number of shareholders, and open to all visitors.
(5) (6) (4) (3) (9) (13) (12) (10) (11)

Two of the largest in London are William
(6) (5) (3) (4) (2) (1) (13) (7)

Whiteley's Ltd. and Harrod's Ltd. These two sell
(8) (9) (10) (11) (12) (1) (2) (21)

every conceivable thing, cigars and cod, pork and
(3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)

pomade, wigs and walking-sticks, china and cheese,
(11) (12) (13) (14) (15) (16) (17)

pianos and potatoes ; they call themselves butcher
(18) (19) (20) (22) (33) (23) (24)

and baker, bookseller and bootmaker, chinaman
(25) (26) (27) (28) (29) (30)

and chemist ; they will dress you, feed you, build
(31) (32) (34) (53) (36) (35) (38) (37) (43)

or hire a house for you, furnish it and fit it up
(44) (45) (41) (42) (40) (39) (47) (46) (48) (51) (49) (52)

comfortably ; and when your hour is come to set
(50) (54) (66) (62) (63) (65) (64) (61) (59)

out upon your last journey, they will punctually
(60) (58) (55) (56) (57) (67) (82) (68)

supply an undertaker and send horses, hearse,
 (71) (69) (70) (72) (81) (73) (74)
 and mourning coaches for your funeral, and will
 (75) (76) (77) (80) (78) (79) (83) (94)
 erect a monument with a touching inscription to
 (93) (91) (92) (90) (87) (88) (89) (86)
 your memory. In short they are "universal
 (84) (85) (1) (2) (5) (3)
 providers."

(4)

In order to supply the kitchen and table, markets
 (6) (5) (1) (2) (3) (4) (7)

are held every morning. Here the retailers buy
 (11) (10) (8) (9) (1) (2) (3) (20)
 about sunrise, or even earlier in the day, vegetables,
 (5) (4) (6) (11) (10) (9) (7) (8) (12)

fruit, meat, fish, poultry, game, and flowers. The
 (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (1)

most interesting London market is Covent Garden
 (2) (3) (4) (5) (9) (6) (7)

Market, and no visitor to London should miss
 (8) (10)(11)(22)(14) (13) (12) (21) (20)

paying it *at least* two visits; one, say at 6 a.m.
 (19) (18) (15) (16) (17) (23) (26)(28)(29) (27)

(for vegetables), the other, *later on* (for fruit and
 (25) (24) (20) (31) (36) (35) (32) (33)

flowers).

(34)

【註】 i, e. は拉典語 *id est* の略で、英語では *this is* 又は *to say* と読んで、「即ち」の意味。viz. は拉典語 *videlicet* の略

で、英語では *namely* 又は *to wit* と読み、「即ち」又は「こ
 れを名指せば」の意味。John Bull は the English people 即
 ち英國人のことである。e. g. は拉典語の *exempli gratia* の略
 で、英語では *for example* 又は *for instance* と読み、「例へ
 ば」の意。Ltd. は *limited* の略で、「有限責任」の意、即ち株式
 会社のことである。a. m. は拉典語 *ante meridiem* の略で、*in*
the morning 又は *before noon* 即ち「午前」の意であるが、
 この略字はこれをエイ、エムと Alphabet の名稱通りに読む
 習慣であつて、決して *in the morning* 又は *before noon* と
 は讀まない。序に「午後」は p. m. と書いて、やはりピー、エ
 ムと讀むことになつて居る。etc. は拉典語 *et cetera* の略で、
 英語では *and so on* 又は *and so forth* と読み、「等、など」
 の意である。bookseller (書店)、stationer (文房具商)、tobac-
 conist (煙草商)、draper (呉服商)、hatter (帽子商)、glover
 (手袋商)、hosier (莫大小商)、jeweller (寶石商)、me:cer
 (絹物、毛織物商)、harberdasher (小間物商)、perfumer
 (化粧用香具商)、outfitter (旅行用具商)、florist (花屋)、
 greengrocer (八百屋)、cheesemonger and provision dealer
 (乾酪其他食料品商)、dairy man (牛乳屋)、fishmonger (魚屋)、
 tea-merchant (茶商)、druggist (藥種屋)、chemist (藥劑師)、

china-merchant (陶器商)、gilder and picture frame maker (額縁屋)、ironmonger (鐵器商)、cutler (刀物商)、toy-dealer (玩具屋)、bird-fancier (小鳥屋)、baker (パン屋)、pastry-cook (饅頭屋)、confectioner (菓子屋)、butcher (肉屋)、brewer (醸造家)、boot and shoemaker (靴屋)、milliner (婦人用帽子商)、furrier (毛皮商)、optician (眼鏡屋)、clock and watchmaker (時計商)、gunsmith (鐵砲商)、saddler (馬具商)、upholsterer (室内裝飾商)、furniture dealer (家具商)、tinman (ブリキ細工商)。

LESSON TWENTY-FOUR.

During the year 1818, there came into the harbor of New York a British packet ship, among whose passengers was a young Irish lad. This lad was Alexander T. Stewart.

西曆一千八百十八年中に或る英國の郵船がニューヨークの港に入つてきた。この船の船客中に一人のアイランドの少年がゐた。この少年こそアレキサンダ、テイ、ステイウアートであつた。

Born in Belfast, Ireland, in 1802, the child had the misfortune to lose his father in his third year; but his grandfather took charge of the boy, and proved a

faithful and wise guardian. As this relative designed him for the ministry, and the boy seconded the design, he received a thorough education, and was put to college in furtherance of the plan.

一千八百二年にアイランドのベルファストに生れ、三歳の時不幸にも父を亡くしたが、この少年の世話をすることになつた祖父は忠實でかつ賢明な後見人であつた。この人はこの子供を將來宗教家にする考へを持ち、少年も亦祖父の意見に賛成したので、彼は十分な教育を受け、この計畫を進める爲に、大學に入學する身となつた。

In the youth's second college term, his grandfather died, and all plans were changed. He abandoned his ideas regarding the ministry, quitted college, and at the age of sixteen, crossed the Atlantic, to seek his fortune in the New World. He brought with him money enough for all his needs and ample credentials for business and social success. It was not the case of Franklin and his loaf, of Astor without a penny; it was the case of a young man coming to this country, as ten thousand other young men come every year not in abject poverty, but with some supply of ready

money, sufficient clothes, a good education, good friends, and opportunities for success.

彼が大學二年の時に、その祖父は亡くなつて、總ての計畫は變更されることになつた。彼は宗教界の人になる考を放棄し、大學を去つて、新世界に運命を求めて、十六歳の時に大西洋を渡つた。彼はその日その日の暮らしに不自由のないだけの金と且つ實業界に、社會的に、成功するに必要な信用書とを十分に具備してゐた。フランクリンが一塊のパンしか持たなかつたのや、アストルが一文なしであつたのとは事異つて、年々この國に渡來する幾千の青年と同様、全くの貧窮な状態ではなく、幾何かの現金と、十分な被服と、相當な教育と立派な友人と、成功の機會とを持つて來たのであつた。

Naturally turning his education to account, young Stewart, after remaining sometime without a situation, found one, at length, in a writing and navigation school in New York, where he was engaged as an assistant. This school he soon left for a similar school of more celebrity; and there he taught many boys who afterward had business relations with him. His salary was \$300, which was very good indeed for those times, in that occupation.

ステイウアート青年は、暫らく地位を得なかつたが、勿論その教育を利用して、終に紐育の或る商船學校に助教として雇はれることになつた。が、間もなくこの學校を辭して、もつと有名な同種の學校に轉じ、この學校で彼れが教へた人々の中、後に彼と實業上の關係を結ぶに至つたものは少くなかつた。彼れの俸給は三百ドルであつたが、この當時、この種の職業に對する報酬としては結構な金額であつた。

Believing, however, that he could do better, he opened a small dry goods business, which was not specially distinguished from the thousands of that sort to be met with in cities. Up to the age of twenty one, young Stewart had made no particular mark in business; certainly he had not developed the unusual capacity he possessed. However, at that age, he returned to Ireland, to look after the patrimony he was now entitled to inherit, and upon receiving it, invested it in goods, and returned with them to America.

然し、彼はこれに満足せず、獨力でもつと儲かると信じて、一小吳服店を始めた。が、店は都會地にあるこの種の幾千の商店に比し

て何等格別の特色を以て知られもしなかつた。ステイウアート青年は二十一歳の時までは、實業界に於て別に認められもせず、確かに彼の非凡な才能を發揮してゐなかつたのである。然るに、その年に今や彼が相続し得る父の遺産を整理するためにアイルランドに歸郷し、相続した遺産を以て商品を仕入れてアメリカに歸つて來た。

He began in a store 12 feet wide and 30 feet deep, for which he paid a rental of \$375 a year, and in this laid the foundation of the most successful business career of the time in which he lived. He began with four unchangeable "principles of trade," as he called them, from which he never swerved.

彼は間口二間奥行五間の一小店を年額三百七十五弗の家賃で借り受けて茲に當時に於て最も成功せる實業家の基礎を置いたのであつた。商業を始めるに際して、彼はその所謂「産業の原則」と云ふ不易の四綱領を作つて、一生涯この綱領に反したことはなかつた。

His first rule was *honesty* between seller and buyer. His career is a perfect exemplification of Poor Richard's maxim, "Honesty is the best policy," and of the poet's declaration, "Nothing can need a lie." His interest consorted with his inclination, his policy

with his principles, and the business with the man, when he determined that the truth should be told over his counter, and that no misrepresentation of his goods should be made. He never asked, he never would suffer a clerk to misrepresent anything.

彼の第一原則は實買當事者間の正直であつた。彼の経歴はフーアリチャード(フランクリン)の格言「正直は最良の政策なり」の完全な例證であり、又詩人(ゼオルヂ、ハーパート)の「世に虚言を必要とするものあることなし」といふ宣言の實證であつた。彼がその帳場に於ては眞實を語るべくその品物に關しては虚言を云ふことあるべからずと決心した時に於て、彼の利害はその性癖と合致し、彼の政策はその原則と一致し、彼の商賣はその人物と符合したのであつた。彼はその商品中の何物に關しても虚言を語ることをその店員に求めたことはなかつた。否これを店員に許すことを肯ぜなかつた。

A second innovation of the young dry goods dealer was, *selling at one price*—a custom which has continued without interruption, and which has spread to all the great houses. He fixed his price, after careful consideration, at what he thought the goods could and

would bring, and would not deviate from it. Of course, he followed the fluctuations of the market, and marked his goods up or down in accordance with it; but no difference in the price was made to different people.

この年若い呉服商の第二の革新は正札販賣であつた——この習慣は一度も破られたことなく、且つ遂に段々大商店に於て採用するやうになつた。彼れは熟考の後、彼がその品物に對して正當であると判断する代價を記した以上は決して變更しなかつた。勿論、時の相場の変動に注意して、これに依つて、正札の附けかへはしたけれども、客によつて商品の賣價を二三にするやうなことは斷じてしなかつたのである。

The third principle he adopted was that of *cash on delivery*. It is said that his own early experience in buying on credit and selling on credit, drove him to this rule; that he had, at one time, a large note to pay, and in order to meet it, was forced to sell goods at a loss.

彼が採用した第三の原則は現金賣であつた。彼が以前に自ら管めた借り買、掛け賣の苦い経験が遂に彼をしてこの規則を定めるに至らしめたものだと云はれて居る。或る時の如き、彼は多額の勘定を

支拂はなければならなかつた、そして彼はこれがために、みすみす損をして、その品物を賣却しなければならなかつたことがあつた。

A fourth principle with him was, to conduct business *as business*—not as sentiment. His aim was honorable profit, and he proposed to make it, whether his customer was his best friend or his worst enemy.

彼の第四の原則は、商賣として商賣すること——感情の上から商賣はせぬこと——であつた。彼の目指す處は正當の利益であつて、彼は、その顧客が無二の親友であらうとも、不倶載天の敵であらうとも、そんなことには拘らず、この正當な利益を得ようと主張したのである。

本課はA. B. C. から始めた讀者諸君には大分骨が折れることと思ふ。然し何分にも頁數の餘り多くない一卷の書物で、英語の「いは」から一通り英語の讀める處までやらうといふのであらから、諸君に於てもその覺悟で十分勉強して貰はなければならぬ。辭書の引き方もざつと説明して置いたから、英文の一節一節の終りにつけておいた大意譯を參考にして、辭書と首びきで讀んで見られたら、大體は分らぬこともなからうと思ふ。これが英語としての讀みものゝ終りである。次回からは章を改めて商業書簡文の講義に移ることにする。尤も商業書簡文もこれを詳しく研究することは一つの専門學

科として、相当長年に渡つて勉強しなければならぬものであるから、到底本書に於て、詳細を盡すことはできない、只一通り誰でも知つて置かなければならぬことを述べるばかりである。この點は豫じめ諸君の諒解を得て置きたい、然し本書に於て述べることを基礎として、諸君が自ら研究を進められる爲に不自由のないだけのことは説くつもりである。

後 編

商 業 書 簡 文

第 一 章 總 論

書簡はこれを大別して先づ三種に分類することができる。即ち、(A) 社交書簡 (Familiar Letter), (B) 商業書簡 (Business Letter) 及び (C) 公文 (Official Letter) である。この外に Note と稱するものがあるが、極く短かい手紙で、親しい友人に一二行の走り書きをするやうな場合、つまり日本語では「舌代」とか「口代」とかとして、極く短かい手紙を書くやうな場合に用ゐるもの、或は招待状、弔問状、祝賀状などにも用ゐることがある。けれども正式の招待状、慶弔書状は第三人稱を主語に用ゐて書くのが普通で、又これには特有の形式もあることであるから、この note は普通の分類外として考へた方がよいと思ふ。

上述三種類の書簡にはそれぞれみな特有の形式があるが、又書簡として一般的共通の點も多い。本書に於ては、この三種のうち殊に商業書簡の書き方及び綴り方について述べるのであるが、先づ一般的のこと、即ちどんな書簡にも共通の諸點から説き起さう

英文書簡の一般形式

① No. 10, Tōri Jimbocho, Kanda, January 15th, 1932.
② Dear sir,
③
④ Yours truly, ⑤ Taro Kato.

①は發信人の住所及び發信日附で、これを date 又は heading といふ。②は書き出しの敬語で恰度日本文の手紙の終りに書く「何々様」又は「何々殿」の「様」又は「殿」に當り、これを in reduction 又は complimentary address と云ふ。③は手紙の本文で、英語では the body of the letter と稱する。上圖中、本文の第五行目が少し右へ控へて始めてあるのは、新しい節を示すので、日本文の書き方で云へば、行を改めたところであつて、英語では行を改める時には、少し右へ控へて書き始めなければならぬ。④は手紙の結末

で、これを complimentary close 又は closing ともいふ。⑤は發信人の署名、即ち signature である。

これだけの要素はいかなる手紙にもなくてはならぬもので、この中一つを缺いてゐても正しい手紙の書式に叶はないものであるが、商業書簡には、この外に、superscription 又は address と云つて、手紙の左上端に受信人の住所氏名を書き入れることが必要である。又よく追録又は追白、即ち英語で postscript (P. S. と略記する) といふものが記入される。同封物の摘記 (Enclosures) は殆んど商業英語に特殊のことと云つてもよい。superscription 又は address は公用文にも普通記入されるし、社交書簡でも四角張つたものには普通記入されることがある。この場合には手紙の左下端に記入してもよい。商業書簡の場合には規則として左上端に記入するのは、左下端には、外に種々の記入すべきことがあり勝ちだからである。postscript は場合によつて、どんな種類の書簡にも書き入れなければならぬことは申すまでもないが、殊に商業書簡には P. S. と書くべき場合が多い。

最も普通の商業書簡の形式

①No. 10, Tōri Jimbocho, Kanda,
January 15th, 1932.

②Kotaro Ito, Esq ,
No. 5, Sakaemachi, Kobe.

③Dear, sir,

④.....
.....
.....
.....

⑤Yours truly
⑥Taro Kato.

⑦P. S.....
.....⑧T. K.

上圖中 P. S. の處に、同封物の摘記すべきものあらば、これを記入するのである。P. S. に対しては、署名は姓名の頭文字即ち initials だけを記すのが普通である。

上述の書簡の各要素に付てこれより逐次説明するのであるが、それに先立つて一目瞭然たるやうに、上述の要素を茲に並べよう。

英文書簡の一般的要素

- (1) The Date or Heading (發信人の住所及び日附)

- (2) The Introduction or Complimentary Address
(書き出しの挨拶)
- (3) The Body of the Letter (手紙の本文)
- (4) The Complimentary Close or Closing (手紙の結末)
- (5) The Signature (署名)

商業書簡の普通の要素

- (1) The Date or Heading (發信人の住所及び日附)
- (2) The Inside Address (受信人の氏名及び住所)
- (3) The Introduction or Complimentary Address
(書き出しの挨拶)
- (4) The body of the Letter (手紙の本文)
- (5) The Complimentary Close or Closing (手紙の結末)
- (6) The Signature (署名)
- (7) The Postscript (追録)
- (8) The Initials (頭文字)

第一節 發信人の住所及び日附

邦文の手紙では發信人の住所や日附は手紙の終りに書くが、英文の手紙では發信人の住所及び日附は、既に heading (頭書) といふ名に示してゐる通り、苟くも手紙を書くに際しては、何よりも第一

に書くべきもので、その位置は用紙の右上端である。

順序は、先づ^{はつしんたん}發信人の住所を書き、その次に日附を書くのであるが、例へば No. 15, Tori Jimbo-cho, Kanda, Tokyo (東京市神田區通神保町十五番地) のやうに^{きうたう}相當に長い住所の場合ゐは二行に^{わた}亘つて書いてもよい。又發信人の住所をよく知つてゐる人に出す familiar letter などでは、大抵町名番地等は省略して、單に Tokyo とか Kanda (東京市内の人に出す場合) とかだけ書いて、同じ行に日附を書くから、住所と日附と兩方で一行ですむことになる。即ち

No. 15, Tori Jimbo-cho Kanda,
Tokyo, January 15th, 1932.

又は

Kanda, January 15th, 1932.

といふ風に書くのである。

住所の書き方は細より大に及ぼす順序で、番地、町名、市名、國名の順序であるから、邦文とは^{ちやうど}恰度逆である。日附は先づ月の名を書き、その次に日の名前を^{じよすう}序數で書いて、その次に Comma を置いて、最後に年號を^{きすう}基數で書くのである。然し場合に依つては日の名を序數で記さないで、^{きすう}基數で 1, 2, 3, 15 の如く書くこともあり、又月の^{こいうめいし}固有名詞の代りに、1, 2, 3 のやうな^{きすう}基數で表すこともあるが、これは素より^た正しい書き方といふよりも、省略法であるから、

かういふ場合には年號も 19 だけは略して、'32 のやうに書くのが普通である。即ち(西曆が千九百三十二年三月十五日)を 15/3/'32 と^{しやうりやくてき}省略的に書くのである。

【註】上例中 15 の前の No. は number の略字であるが、これは Mister を何時でも Mr. と略して書いて、決して Mister Ito の如く書かず、必ず Mr. Ito とするやうに、(十五番地)は必ず No. 15 とすべきで、Number 15 とは書かない。

他人の家に^{きんぐ}寄寓してゐる場合には c/o とする。例へば(東京市麴町區飯田町二丁目十二番地加藤太郎殿方)の場合には、

c/o Mr. Taro Kato, No. 12, 2-chome, Iida-machi, Kōji-machi-ku, Tokyo とする又、Nihonbashi P. O. Box 10, Nihonbashi, Tokyo.

の如く書くこともある。これは「日本橋郵便局私書函第十號」の意で、返信は自宅に受けずに、郵便局へ行つて、自分で^{ししよ}私書函の^{かん}錠を開けて、その中に入れてある返信を自ら取出すのである。P. O. Box は Post Office Box の略字である。

月の名前は普通略字で記すことになつてゐるが、五月と六月と七月は略字を用ゐないで、May, June, July と書く。又三月もなるべく略字を用ゐない方がよい。

月の名前とその略字をここに^{なら}並べて書いて置く。

一月	January	Jan.	七月	July	—
二月	February	Feb.	八月	August	Aug.
三月	March	Mar.	九月	September	Sept.
四月	April.	Apr.	十月	October	Oct.
五月	May	—	十一月	November	Nov.
六月	June	—	十二月	December	Dcc.

【註】 Calender などにはよく June を Jun. と略し、September を Sep. と略してあるが、これは正しい略し方ではない。只十二ヶ月中大多数が三字 (three letters) に略されてゐるから、美觀的に揃へるためにすることに過ぎない。

以上述べたことに依つて、heading の書方は大體分つたことと思ふが、會社、銀行、商店等で使用する用箋には、大概この heading は用箋の左上部又は中央上部に印刷してあつて、手紙を書くものはただ日附だけ記入すればよいやうにしてある。かういふ風に印刷した heading は、單に發信者、即ち會社、銀行、商店等の名前と住所ばかりでなく、營業の細目、電話番號、電信略號、及びその會社で使用する電信暗號帳など、廣告的の文字まで並べて印刷してあるのが普通である。

社交上の手紙用箋にも、時としてはこの heading を印刷したものがあつたが、先づ大體は印刷して置かないやうである。

序ながら一言して置きたいことは、商業書簡に用ゐる用紙は大形のものであるが、社交上に用ふるものは小形のもので、英語では前者を letter paper と云ひ、後者を note paper と稱して區別してゐる。

社交上の手紙では、heading を書き終つたならば、直ぐ introduction 又は complimentary address 即ち書き出しの挨拶を書くのであるが、商業文では往々 introduction を書くに先つて、相手方の返事に關する指定や要求を記入することがある。これを reference といふ。即ち (見出し) の意味である。發信着信の數の非常に多い大會社、大商店等では、營業の部類を定めて、それぞれ係員が異つてゐたり、又發信簿寫簿や受信綴込帳の數も何十冊乃至何百冊にも上ることがあるから、咄嗟の場合に直ぐにいつ何處へどんな手紙を出したか、また何時何處からいかなることを照會して手紙が來たかを見出すことが困難であるので、それを早く見出し得るやうにするため、發信の度毎に、heading の下に發信簿寫簿の番號と帳簿内の頁數とを記入して置いたり、又はその手紙に關する事務の係りを記入したりして置いて、相手方から、返信を貰ふ場合に、特にその帳簿番號なり頁數なり、係の名なり、係員の名前なりを記入して貰ふやうに頼むのである。見出しの記入を要求する文句は、大抵下のやうなものである。

Please mark your reply K. 20.

In reply please quote K. 20.

Kindly refer to K. 20.

以上はいづれも同一意味で、當方より差出した手紙の寫しは、謄寫簿 K 號第二十頁に保存してあるから、返信にはその番號を記入して置いて貰ひたいといふことである。

Kindly mark your reply.....Dept.

としてある時は、帳簿の番號頁數ではなくて、何々係又は何々部といふことを示したもの、Dept は Department の略字である。

然しこの reference は決して書簡の要素ではない。これがなければ書簡が整つてゐないといふのではないのであつて、只發信人が自分の便宜上受信人に依頼する文句に過ぎないのであるから、精しく論ずる必要はない。

第二節 受信人の氏名及び住所

これは英語で Inside Address と稱するもので、社交文には滅多に書かないものである。既に狀袋の上に先方の宛名を書く以上、手紙の中にまでも相手方の宛名を書く必要はないやうなものであるが、大會社などでは手紙の中身を取扱ふ者は比較的高級な書記であるに反して、狀袋の上に先方の Address を書いて郵便に出す役割は下級書記にさせてあるので、一本の手紙が二三人の手を経て始めて完全になるといふやうなことが珍らしくない。そこで狀袋に誤記など

のないやうに中身にも精しく受信人の Address を記入して置くのである。また前節の終に述べた發信謄寫簿に謄寫して保存して置く場合などには、どうしてもこの中身の Address を記して置かぬと、何所の何人に出した手形かが後になつて分らなくなる恐れがある。それに又、萬一封筒が破損したり、汚損したりした時には、この中身の Address があれば手紙の不着を避け得る便宜がある。尤もこんなことは滅多に起らないことであるけれども、實業家にとってはこれくらゐ細心な注意が必要なのであるから、斯ういふことも考慮して置かねばならぬ。すべて商業文は社交文に比べると事務的のもので、社交文よりは四角張つたものであるから、Inside Address を記入することによつて、手紙の體裁と鹿爪らしきとを増すことになるのである。この意味からして、公文には Inside Address を記入することが多い。

Inside Address の位置は發信人の住所及び日附の次の行の左側用箋の左端から大凡四分の三インチくらゐの所から書き出して、大抵二三行以内に納めるやうにする。順序は矢張、氏名の次に住所を記すのである。

さて、日本の手紙でも、相手方の氏名に何等の敬稱を附けずに、ただ呼びすてにすることが出来ないのと同様、英文の書翰に於ても相當の敬稱を付けて他人の氏名を記さなくてはならぬ。尤も社交上の手紙で、親族、親友等に出すものには、特に親しみを表はすため

に敬稱を省き、たゞ單に相手方の姓だけを記したり、又一層親しい仲では、ただ名ばかりを記すこともあるが、商業文は事務上の書翰であるから、どんなに親しい人に出す場合でも相手方に對して一通りの禮を失はぬやうに心掛けなければならぬ。さりとて又あまりに丁寧すぎることも反つて失禮にあたり、先方の感情を害することがあるから、なるべく世間一般に用ゐられてゐる形式に従ふことが最も安全である。こんな事柄に關しては新機軸を發揮することは大禁物である。若い人々はよく自分の工夫力を示さうと思つて、新規を求めることがあるが、斯ういふことに就ては、すべて仕來りを踏襲する方がよろしいのである。故に習慣上一定した形式を次に説明して置かう。

受信人が男子ならば英國風では氏名の次にコンマを置いて、その次に Esquire (Esq. と略するのが普通である) と記し、米國風では氏名の前に Mister (常に Mr. と略記する) を加へるのである。例へば John Brown といふ人に手紙を出すものとすれば、

John Brown, Esq.(英國風)

Mr. John Brown.(米國風)

【註】 Esq. の次のピリオッド及び Mr. の次のピリオッドは略字符であるから、これを加へることを忘れてはならぬ。若し文章の終に略字符の附くべき語が來た場合には、文章の終に附すべきピリオッドとは同一符號であるから、一つで兩方を兼ねしめ

るので決して二つ並べて書いてはならぬ。が、その他の符號、例へばコンマの前に略字符の附いた語が來る時には略字符とコンマを並べて書くのである。この規則は今日稍々等閑にされて、往々略字符を省く人もあるけれども、諸君として嚴正にこの規則に従ふべきである。

Esquire や Mister は日本語の「殿」とか「様」とかにあたり、受信人がたゞ一人の紳士であるといふ以外に他に敬稱を有してゐない場合、即ち官職、學位、爵位等の無い場合の敬稱であつて、特別な敬稱を有する人々に對しては、それぞれ相當の敬稱を用ゐねばならぬ。是等の敬稱中、最も普通なものを下に列挙しよう。

公爵	Prince (英國では Duke)	公爵夫人	Princess (Duchess)
侯爵	Marquis	侯爵夫人	Marchioness
伯爵	Count (英國では Earl)	伯爵夫人	Countess
子爵	Viscount	子爵夫人	Viscountess
男爵	Baron	男爵夫人	Baroness

大臣 His Excellency

知事 His Excellency

判事 Judge

教授 Professor (Prof. と略記するのが普通である)

博士 Doctor (Dr. と略記する。醫師にもこの敬稱を用ゐる)

大將 General (海軍大將なら Admiral)

大佐 Colonel (海軍大佐なら Captain で、Capt. と略記する。)

【註】海軍大佐は Captain であるが、陸軍では Captain は大尉である。それであるから、例へば、John Brown といふ海軍大佐に手紙を出す時には必ず Capt. John Brown, R. N. と書かなければならぬ。R. N. は Royal Navy の略字である。又この Captain は商船の船長にも敬稱として用ゐる語であるから、ただ Capt. John Brown. としただけでは「船長 John Brown 殿」といふことか、「John Brown 大佐殿」といふことかよく分らないことになる。

僧侶^{そうりよ}に対しては Reverend といふ敬稱を氏名の前に加へる。これは通常 Rev. と略して書くので、例へば、山田太郎といふ宗教家に対しては Rev. Taro Yamada. とする。若し姓のみ分つてゐて名の分らない時には Rev. とそれから普通の紳士^{しんし}に対する敬稱即ち Mr. とを併記^{へいき}して Rev. Mr. Yamada. とするのである。大僧正等^{だいそうじやう}に対しては His Grace the Lord Archbishop of Canterbury の如く、姓名を記さぬこともあるが、姓名を記すとしたら His Grace の次に記すのである。

大臣、知事に限らず、すべて高位高官^{かうゐかうくわん}の人に対しては His Excellency といふ敬稱を第一に書き、次に姓名を記し、その次にコンマを置き、コンマの次に其の人の官職^{くわんしよく}を書くのである。

皇族方に対しては His Imperial Highness といふ敬稱を用ゐる。例へば、His Imperial Highness Prince Fushimi. といふやうに書く。His Imperial Highness は H. I. H. と略すこともある。

學位^{がくい}の所有者に対しては單に Dr. の敬稱を用ゐるのみでなく、氏名の後にその人の學位^{がくい}の略字を附記する習慣になつてゐる。英米に於ける學位の主なるものは次の通りである。

Bachelor of Arts	(B. A. または A. B. と略す)
Bachelor of Science	(B. Sc. と略す)
Bachelor of Divinity	(B. D. と略す)
Bachelor of Law or Laws	(B. L. または B. L. L. と略す)
Bachelor of Music	(Mus. Each. と略す)
Master of Arts	(M. A. または A. M. と略す)
Doctor of Medicine	(D. M. と略す)
Doctor of Science	(D. Sc. と略す)
Doctor of Divinity	(D. D. と略す)
Doctor of Music	(Mus. D. と略す)
Doctor of Laws	(L. L. D. と略す)
Doctor of Civil Laws	(D. C. L. と略す)
Doctor of Philosophy	(Ph. D. と略す)

受信人が女子の場合には、既婚^{きこん}の婦人に対しては Mistress (女

主人、夫人の意)の轉訛^{てんくわ}である Mrs. を用ゐる。Ms. は Mr. と同じくいつでも略字で書くことになつてゐる。未婚者^{みこんしゃ}に対しては Miss (これは略字ではない) を用ゐるのである。爵位^{しやくい}、官職^{くわんしよく}、學位^{がくとう}等を有する人の夫人はその夫に対する敬稱を受けるのであるが、ただ夫人なることを示すために、敬稱と氏名との間に、Mrs. の一語を加へる。尤も Her Imperial Highness とか Lady の敬稱を受ける女子で、Mrs. の略語がなくても、他の語によつて女子であることが分るものに対しては Mrs. を加へる必要のないことは勿論である。また未婚者^{みこんしゃ}の場合に於ては、その婦人が自ら Miss 以外の敬稱を受ける資格^{しかく}を所有してゐる場合には、その資格^{しかく}に相當する敬稱を受けることは男子と同様である。

以上は受信人が一個人の場合であるが、受信人が會社とか、團體とか、とにかく二人以上の人々である場には如何なる敬稱を用ふべきであるかといふに、これは男子に対しては Mr. の複數形である Messrs. を用ゐる。即ち下の例の如くに書くのである。

Messrs. Henry Johnson and James Watson.

Messrs. Henry Johnson & Co.

(Co. は Company の略字)

Messrs. James Watson Brothers.

Messrs. James Watson & Sons.

【註】 Messrs は佛蘭西語^{フランス語}の Messieurs (Monsieur の複數) の

略字であつて、元來英語ではないが、英語の Mr. をそのまま複數形に直して Mrs. とすると既婚婦人^{きこんふじん}に対する敬稱と混同してしまつて都合^{つがふ}がわるい、つまり英語に適當な語がないのである。そこで佛蘭西語^{フランス語}の Messrs. を借用することになつたのである。

既婚の女子に対しては Mmes. (これは M dames の略字で、Madames は佛蘭西語^{フランス語}の Madame の複數形である) を使ふのである。即ち

Mmes. Alice Addison and Grace Andrews.

未婚婦人^{みこんふじん}に対しては Miss の複數形 Misses を用ゐて

Misses Anne Wilson and Elizabeth Webster.

のやうに書くのである。

【註】 Miss が略字でないやうに Misses も略字ではない。この二語には略字はないのである。

會社の名前が「Henry Johnson 商會」とか「伊藤商店」とかいふ場合には、上例の如く Messrs. Henry Johnson & Co. 又は Messrs. Ito & Co. とするのであるが、例へば、The Rising Sun Company とか The Nippon Yusen Kaisha とかいふやうに、會社の名前の中に全然人名^{ふく}を含まない時に敬稱を省いて、

To the Rising Sun Company.

To the Nippon Yusen Kaisha. (To は省いても差支ない)

としてもよく、また

M. ssrs. Rising Sun Company.

Messrs. Nippon Yusen Kaisha.

としてもよい。これはちつと理由の無いことのやうに思はれるが元來手紙を書くのは會社そのものに對して書くのではなく、受信人は會社中の人々であるから少しも差支ない。日本文でも何々會とする。但し今日では英人でも Mr. を用ゐる人が少ない。ただ大切なことは人名を含まない會社、即ち「日の出商會」とか「日本郵船會社」などの場合に、

Messrs. Rising Sun & Company.

M. ssrs. Nippon Yusen & Company.

とは決して書いてはならぬといふことである。

會社中の或る人を特定受信人とする場合、例へば、その會社の支配人または重役に手紙を出すといふのであるならば、その意志を明記する必要があることは勿論である。即ち

To the Manager,

(of) (the) Nippon Yusen Kaisha.

To the Board of Directors

of the Nippon Yusen Kaisha.

とするのである。この場合には別に敬稱を用ゐる必要はない。

このほか、手紙の Address によく用ゐる略字がいろいろあ

るけれども、これば後に至つて封筒の書き方を述べる時に説明することとする。

第三節 書き出しの挨拶

これは先づ邦文書翰の『拜啓』とか『謹啓』とかにあたるもので英語では Complimentary Address または Introduction と稱する。つまり書き出しの挨拶であつて、これは手紙の本文にとりかゝるに先立つて、用箋の左上端 Inside Address の直ぐ下の行に左の端から大凡四分の三インチ、即ち Inside Address と並ぶ位置か、またはそれより少し右に寄つた位置から書き始める。これは極めて簡単な文句で如何なる場合にも、數語以上になることはないから無論一行に納つてしまふのである。

文句は發信人と受信人との關係の親疎、身分の高下等によつて種々に異なつたものを用ゐるが、商業文では相手方が個人の場合には男子に對しては Sir または Dear Sir を用ゐる。先方が二人以上であり、または會社であつたりする場合には、Sirs, Dear Sirs または Gentlemen を用ゐる。

【註】 受信人が個人の場合に決して Gentlemen としてはならぬ。

即ち Introduction には、「紳士」の單數形は絶対に用ゐることはないものと心得てゐて貰ひたい。

受信人が婦人の場合には、個人に對しては Madam または

Dear, Madame と書き、相手方が二人以上の場合には Mes-
dames, Dear Mesdames または Ladies と書く。即ち先方が
未婚者であらうと既婚者であらうとそんなことは一向區別しな
い。

【註】 Ladies の単数 Lady を用ゐないのは、男子に対して
Gentleman を用ゐないのと同然である。

挨拶の文句の次に打つべき句讀點は Comma が最も普通で
あるが、人によつては Semicolon を用ゐたり、Comma and
Dash を用ゐる人もある。Comma だけを用ゐるのが最も簡
単であるから、商業文に於ては、なるべくこの形を採つた方が
よいと思ふ。

【註】 商業文に用ふべき Introduction は上述の外に出でない
が、念のために、こゝに社交文に用ゐる Introduction の主な
ものを列記して置かう。

My Dear Father.	(父に対して)
My Dear Grandfather.	(祖父に対して)
(My) Dear Uncle John,	(叔父に対して)
My Dear Mother,	(母に対して)
My Dear Grandmother,	(祖母に対して)
(My) Dear Aunt Mary.	(叔母に対して)

場合によつては先方の名を加へず單に My Dear Uncle といふ

風にすることもあるが、これは何となく疎遠そゑんの感があるから
矢張先方の名を加へておく方がよい。先方の苗字は決して書い
てはらぬ。兄弟、姉妹きやうだい しまいに対する文句は大概叔父叔母おぢおばに対するの
と同様である。

遠い親族しんぞく、目上の人、ちよつとした、知合等に対しては、
次の如く。(My) Dear Mr. Johnson,

親友、目下等に対しては兄弟、姉妹に対するのと稍々同じに
書く。

婦人に対しては、

(My) Dear Miss Smith, My Dear Mrs. Brown,

とする。

軍人に対しては次の如くを書く。

Dear General Nogi,
Dear Admiral Togo, (社交文では大將、中將、少將に
對しては皆一様に General,
Admiral の敬稱を用ゐる。

Dear Colonel Ito.
Dear Captain Kato. (社交文では大佐、中佐、少佐に
對しては皆一様に Colonel,
Captain を用ひる。

尉官るくわん以下に対しては、陸海軍とも Mr. を用ゐればよろしい。

特に注意すべきことは、General, Admiral, Colonel, Captain 等
の敬稱と Mr. とを重用して、例へば、General Mr. Nogi としな
いことである。

高位高官かういゝくわんの人に対しては Mr. Lord または Your Lordship と書き出し、華族くわかくの婦人に対しては My Lady または Madam とし、知事ちじ、大、公使級こうしきふの人に対しては Your Excellency とするが、これは Sir としてもよい。皇族方くわうかくがたに対しては Your Highness とか Your Imperial Highness の敬稱を奉るのである。

第四節 手紙の本文

本文の書き出しには二通りの形式がある。第一の形式は Inside Address 即ち受信人の住所姓名を書かない場合の形式で、これは Sir、とか Dear Sir、とか Gentlemen、とか書いた次の行の Inside Address の終つたところあたりから書き出すのである。そして本文の二行目は Inside Address と平行に用箋の左から約四分の三インチくらゐのところから書き出すので、三行目四行目以下同様であるが、節、即ちパラグラフ (Paragraph) を改める時には前の行よりも心持右に寄せて書き始めなければならぬ。

第二の形式は Inside Address を書いた時の形式で、これは Dear Sirs、とか Gentlemen、とか書いた次に Semicolon を打つて、次に Dash を引いて、きてその次に本文を書き始めるのである。本文の二行目以下のところは第一形式の場合と同じである。

本文の左右には多少の餘白をあけて置くことが必要である。この餘白よはくはどれくらゐあけたらよいかと云ふに、それに対しては一定の

規則といふものがない。たゞ體裁ていさいのよいやうにすればよいので、用箋よせんが大きければ、餘白よはくも従つて大きくする必要のあることは申すまでもない。大概五六分ぐらゐと心得て置けばよろしい。この餘白よはくのことを英語では Margin といふ。

節 (Paragraph) は如何なる時に改めるかと云ふに、これは書くべき用件の種類が前節に書いてゐたものと異なるときには、必ず節を改めるのである。しかし用件の種類が同一である場合には徒らに節を改めることは大禁物たいきんぶつである。

大概の用向は用箋一枚で間に合ふものである。殊に商業文に於ては、近來殆んど大抵の場合にタイプライターを使ふやうになつたから、二枚以上にわたる手紙は極めて稀である。もし一枚に書き切れぬやうな場合があつても決して同じ紙の裏面に書いてはならぬ。

手紙の本文は云ふ迄もなく、手紙の實質じつしつであり中軸ちゆうぢくであつて、手紙の諸要素中最も大切なものであるから、手紙の本文に關しては言ふべきことが色々ある。併し、それは何も手紙だけに限つたことでなく、廣く英文を書く上の注意を話すことになるのであるから、手紙の書き方即ち手紙の形式を主として述べてゐるこの總論篇そうろんぺんでは詳しく述べることを避けて、後に各論に入つてから述べることにしたい。併し茲に特に諸君に注意して置かねばならぬ一事がある。それは日本の手紙では本文の書出しに長々と時候じかうの挨拶あいさつを述べたり相手方あんびの安否しやうわんを問うたりする習慣があるが、英文の手紙では、いきなり

用件を述べると云ふことである。即ち何事を書くよりも先づ第一に用向を記すといふことを忘れてはならない。このことは商業文に於ては別して注意を要するが、社交文に於ても、本文の書出しに、時候の挨拶などは書かないのが英文の手紙である。これとおなじ理由で、本文の結末に於て、下らないお定りの挨拶などは一切しないことである。

第五節 手紙の結末

英語で Complimentary Closing または単に Closing と稱するもので日本文の手紙の「草々敬具」^{そうそうけいぐ}とか「頓首再拜」^{とんしゆさいはい}などにあたるものである。商業文の Closing は大抵 Yours faithfully, Yours obediently, Yours respectfully 等であるが、四角張つた書き方では、三行に割つて、

I am,

Sir,

Your obedient Servant,

I remain,

Dear Sir,

Yours faithfully,

We are,

Gentlemen,

Your obedient Servants,

などと書くこともある。

また公文^{こうぶん}などとなると、一層堅くしく、

I have the honour to be, Sir,

Your most obedient Servant,

I have the honour to remain, Sir,

With the highest respect,

Your obedient Servant,

などと書くのが習慣である。

返事の手紙を書くに際しては、必らず先方の手紙に書いて来たのと同様の Closing を用ふことが肝要^{かんえう}である。例へば先方の手紙の Closing が Yours faithfully とあれば、こつちから出す返事にも必らず Yours faithfully と書き、先方の Closing が Yours obediently とあれば、こつちのも亦 Yours obediently とすべきである。徒らに奇^きを好み變化^{へんくわ}を求めて、先方の用ゐたものと異なつた Closing を使ふことはよろしくない。

Closing の位置は大抵用箋の中央より稍々右に寄つたところから書き始めるのが普通であるが、これは一律には行かない場合があつて、要するに全體の體裁^{いちりつ}から見て適當かと思ふところから書き出せばよいのである。つまり Closing の次の行に書き、自分の署名の終が用箋の右端から四五分くらゐのところに来るやうにすればよいわけである。

【註】 商業文以外の手紙で用ゐる Closing の主なるものは、

Yours truly, (あまり親しくない人に對して)

Yours very truly, (親密な人に對して)

Yours sincerely,

Yours very sincerely (婦人が好んで用ゐる文句)

なほ一層親しい間柄の人に對しては、

Yours affectionately, Yours very affectionately.

Yours ever most affectionately,

と段々と親密の程度を増した Closing を用ゐる。

書き出しの挨拶が Your Highness または Your Excellency である時には、Closing に於て Sir とか Dear Sir とか書くところに必らず Your Highness または Your Excellency といふ風に書き出しの挨拶と一致した英語を用ゐなければならぬことは言ふまでもない。單數複數の一致といふことにも注意を要する。

なほ、Closing に於ては Sir, Highness, Your Excellency, その他の敬語は勿論、Your Servant も常に Capital で書き始める習慣になつてゐる。

第六節 署名

日本では重要な書類には署名した上に捺印するのが習慣であるが、西洋では印形といふものを用ゐないから、自署だけで十分とされている。その代りに、この署名即ち自署といふことは非常に重要視

されてゐて、決して軽々しくは署名しないのである。特に商業文に於ては十分に念を入れて署名をしなければならぬ。名だけ書いて姓を省いたり、姓だけ書いて名を略したり、または姓と名との頭文字即ちイニシャルズ (Initials) だけを記して置いたりすることは絶対に不可である。タイプライターで打つた手紙にも自署だけは必ず本人の肉筆で書くことになつてゐる。

元來日本では昔からの習慣として重要な書類や手紙には必らず實印を捺することになつてゐて、例へば銀行で金を受取るにしても郵便局で爲替を受取るにしても印を捺さなければ現金を渡してくれないが、これはたゞ昔からの習慣にすぎないので無教育で全く文字の書けない人々の少くなかつた時代は自分の姓名を書くことの出来ない人々が印形を以て自署に代へたのである。この風習が今尚ほ残つてゐて、印形でなければならぬことになつてゐるのであるが、よく考へてみると、今日のやうに義務教育を受けてゐない人が殆んどないといつてよいくらゐになつた時代に於ては、こんな風習を何時までも大事に續けて行かなければならぬ理由は毫頭ないわけである。木や石に小刀を以て彫刻した印形は容易に偽造することが出来るが、本人の筆蹟は決して偽造の出来るものではない。この點に於ては自署ほど確かなものはない筈である。實印は役場に届けてあつて、極く重要なものに関しては印鑑證明書を添へることになつてゐるけれども、改印届さへ出せば、實印は何時でも更へることが出来るの

であるから、印鑑證明書を添へてあつても、うっかりすると詐欺に會ふことがないとも限らぬ。しかし、本人の筆蹟といふものはその人の一生涯を通じて變るものではない、どんなに異つた書風を真似てもよくよく検査すれば眞偽は直ぐ分かるのである。然るに滑稽なことには郵便局や銀行では、自署であつても捺印してなければ決して現金を渡さない。それでゐて、所謂三文判を近所で買つて来て捺しても、判さへ捺してあればそれでもういゝといふことになり、署名が自署であるかないかは深くも問はずに直ぐに現金を渡してしまふのである。こんな愚かな風習はもう止めにして、西洋のやうに自署に重きを置くやうにしたいものである。さうすれば、下らないことから生ずる問題を避けることが出来るばかりでなく、時間の上から言つても非常な經濟となる。一つの判を捺すために假りに一分間かゝるものとしても年々日本中で浪費される時間の總計は莫大なものである。

署名は上述の通り大切なものであるから、自分の名を書く時には注意せねばならぬことがある。その主なことを二三下に記さう。

先づ第一に明瞭に書くといふことが必要である。外國人の署名を見ると、随分讀みにくいがあるので、そこで早合點して何でも分りにくさへ書けばいゝやうに思つてゐる人もあるが、これは大いに間違つた考へ方であつて、そんな風な大ざつばな物の考へ方をしてはいけない。一體、西洋人の署名に讀みにくいのが時々あるのは

偽筆を防ぐためにするので、丁度日本でも昔用ゐた花押を書くやうな心持で書くのであるが、その代りには、何時でも一定の形をしてゐて、商業上の取引先などでは一見して何人の自署であるか分るやうに自分の署名の難形をあらかじめ届けて置くのである。さもなければ、天下の名士の署名で一字一字は何といふ字が書いてあるのだからさつぱり分らなくとも、あゝ、これは彼の名士の署名だと直ぐ他人に分るやうな場合である。名も無い青年などが自分の筆蹟を分りにくいやうに認めたならば、人はそれが何人の署名であるか判讀に苦しむのである。別して日本人の姓名は西洋人には珍らしい名前ばかりであるから、丁寧に分り易く書くといふことを第一主眼としなければならぬ。殊に初めての人に手紙を出す時などには一層明瞭に書かなくてはならぬ。さもないと、折角先方でも返事を出さうと思つても發信人の姓名がはつきりしないため不本意ながら、返事も出せないといふやうなことが無いとも限らぬのである。

次に注意すべきは署名の終にピリオットを打つことを忘れてはならぬといふことである。署名は手紙の最後の文章の終であるから、ピリオットの必要なことは申すまでもないが、このピリオットを動もすると忘れてしまふのである。元來、日本文に於ては、文章の終に句讀點を打つといふことは必然的のことではないから、日本の學生などは往々、文章の終のピリオットを忘れることがある。中には疑問文に對して疑問符(?)を付けなかつたり、感嘆文に對して感

嘆符 (1) を加へることを忘れてたりする人も少くないのであるが、これは十分注意してそんな手ぬかりのないやうにせねばならぬ。

若し署名の次に署名人の資格を表示する語が来るならば、その時には署名の次は Comma で資格を表示する語、即ち手紙の最後の語の次にピトオツドを打つべきことは申すまでもないことであるが念のためにこゝに申添へて置く。

それから、社交文には滅多に無いことであるが大会社、大商店などから出す商業文にはよく代理署名といふことがある。

大会社などでは事務の範囲も廣く、また種々雑多な事柄を取扱ふからその会社の重役なり、商店の主人なりが一々發信に際して署名することは到底不可能である。そこでその会社の支配人なり高級書記なりに、或る一定の事柄に関する代理署名權 (Power of Procuration) を與へ、このことは新聞紙上にも廣告し、また平素取引のある会社、商店へも報告して代理署名人の筆蹟を先方へ送つて置いて、代理署名人に署名させるのである。この場合には代理署名人は自分の代理する会社なり、商店なりの名前の前に Per Pro., P. Pro. または P.P. (すべて Per Procuration の略) 等の略字或ひは For, と記しその次に会社なり商店なりの名前を書き次に自分の姓名を認めるのである。

例へば John Brown と云ふ人が、James Watson & Co. の代理署名人であつて、会社の支配人であるとすれば、

Yours faithfully,

Pro. James Watson & Co.,

John Brown,

Manager.

と書くのである。

上例中、Yours faithfully は署名 (Signature) ではなくて、Closing 即ち手紙の結末の挨拶であることは勿論であるが、Signature と Closing との位置を示すために、わざと茲に記して置いたのである。つまり Signature と Closing の次の行の、Closing の真中あたりから書き出すものと心得てゐて貰ひたい。

もう一つ注意して置かなければならぬことは、發信人が女子である場合である。このことに就て次に少しく述べよう。

一體、男子に對する敬稱は、既婚者、未婚者の別なく、すべて一様に Mr. であるから、受信人に於て、發信人が既婚者であるか未婚者であるかを知らなくても、返事を出す上に於て、いさゝかの不都合もないわけであるが發信人が女子である場合には、さういふわけには行かぬ。即ち、既婚の女子に對しては Mrs. といふ敬稱を用ひ、未婚の女子に對しては Miss といふ敬稱を用ひなければならぬのであるから、返信を受取る人が Miss であるか、Mrs. であるかを前以て知つてゐなければ返事の出しやうがない。勿論敬稱を抜きにして先方の姓名だけ書いても手紙は確かに届くであらうが、そんな

失禮なことは出来ないから結局返事を出したくとも出せないといふことになる。だから發信人が婦人である場合には自分が既婚者であるか未婚者であるかを受信人に知らせるために、Mrs. または Miss を括弧に入れて自分の姓名の前に書いて置く必要がある。元より何回も手紙を交換して、自分の名前が先方によく知られてゐる場合には、その必要のないこと勿論である。

日本人の姓名の場合には、この必要は益大である。なぜかといふに、日本人の名は男の名であるか女の名であるかが西洋人には分らないからである。西洋人の名ならばまさか Mary といふ男や Anne といふ男もゐないし、John だの Henry だのといふ女もゐまいが Hana といふのが女の名で、Taro といふのが男の名であるといふことは西洋人には分らない。そこで日本人が始めての外國人に手紙を出す時には自分の姓名の前に (Mrs) とか (Miss) とか記して置く必要がある上に、男女の別を知らせるために (Mr.) と記すことも必要である。

第七節 追 録

一通り用件を終つて、署名までしてから書き漏らしたことを想ひ出すやうなことがある。その場合には日本の手紙では追啓とか二伸とか言つたやうな文句を入れて、想ひ出した用件を書き加へる習慣であるが、英語の手紙にもこれと全く同様のことがある。日本語の追白にあたる英語は Post Script (Post は後、Script は書である。

つまり「後書き」といふ意味)といふ。これは勿論手紙の要素としてなくてならぬものではない。否、なるべくはこの Post Script といふものはない方がよいのである。よく外國から來る手紙に Post Script があるからといふので、本文中に書くべきことを残しておいて、Post Script で書くといふやうなことは愚の至りである。こんなことは言ふまでもなく分り切つたことであるけれども、私は度々この Post Script の亂用されたのを見たことがある。ひどいになると本文中には大した用事も書かずに、主眼の用件を Post Script の中へ書き込んだ手紙をさへ見たことがあるので老婆心から一言を加へておく。

Post Script の位置は用箋の左下端、Signature の次の行に書くので、Post Script は常に P. S. と略字で書く。そして用箋の左の端からのあきは書き出しの挨拶、即ち Introduction と同じである。追白の終りにも自分の署名をするのが英文書翰の習慣であるが、これは Initials といつて姓名を全部書かず、ただ姓の頭文字と名の頭文字だけを記す。例へば John Brown といふ人が追録を書いてその次に署名するとすれば、J. B. とするのである。頭文字は無論 Capital letter でなければならず、また略字であるから、各文字の次に略字符たる . を打つことを忘れてはならぬ。

第八節 同封物の事

以上で書翰文の要素は一通り説き終つたのであるが、商業書翰に

はよく本文以外に同封物を封入することがある。つまり證明書、^{ふた}船荷證券、海上保險證券、仕切書等は最も普通に同封される書類であるが、この外にも、外國の取引先などへ出す手紙にはよく前に送つた書信の寫しを同封することがある。これは手紙の延着や不着に備へるためである。斯うした同封物のある場合には用箋の左下端の餘白にその旨を記入しておくことは、發信人、受信人双方の便利である。なぜ用箋の左下端を選ぶかといふに、用箋の上部の空所には、見出しを始め、記入すべきことがあり勝ちであるから、最も餘白の多かりきうな所を選ぶのである。だから、場合によつては用箋の上部の空所へ書いても一向差支はない筈である。しかし本文中に記された用件を知つてから後に、同封物のことを言つて貰つた方が受信人としては確かに一層便利であるに相違ないから、なるべく左下端の空所へ認めた方がよからう。

同封物記入の文句は大體下のやうなものである。三通り示さう。

同封物が證明書 (Testimonial) の場合には、

A. Testimonial enclosed. (「證明書相添候」の意)

B. 1 Enc'.
Testimonial. (Encl. は Enclosure (封入物) の略
字。(封入物一通、證明書) の意。)

C. Enclosed.

Testimonial. (A と同意、但、語が前後してゐる。)

若し同封物が證明書でなくて、他の書類であつたら例へば^{ふたにしよう}船荷證

券であれば Bill of Lading, ^{はけんしやうけん}保險證券であれば Insurance Policy, 書翰の寫しであれば Duplicate letter といふ文句を Testimonial といふ語の所へ置き代へればよろしい。また若し二通以上の封入物がある時には、普通 B の形式に従ふ方が便利がよいとしてある。この場合には勿論 1 Enc'. の 1 を封入書類の數に應じて、或ひは 2 或ひは 3 と事實によつて改めるだけのことである。Enc'. は Enclosure の略字であるから、その前に來る字が複數、即ち、2 以上の數字であれば、無論 Enclosure は Enclosures とならなければならず、従つて略字も Enc'. ではなくて、Enc's. であるべき筈であるから、Enc's. として複數の意味を示さなくてはならぬ。しかし^{はんじかんりやく たつと}萬事簡略を尙ぶ商業文のことであるから、そんな細かいことには^{じんちやく}頓着せずに、二通以上の書類を同封した場合でも、2 Encl., 3 Encl. といった風に單數のまま用ゐることも珍らしくはない。つまり 2 Encl. でも 2 Enc's. でもよい譯であるが、略字符は省略しないやうである。

第九節 手紙の折り方

以上で手紙の中身は出来上つたから、これを正しく折つて封筒に入れ、封筒の上書きをして、切手を貼つて郵便に托しきへすればよいのであるが、折り方や封筒の認め方は勿論、切手の貼り方にまで注意を要することが尠くない。以下に順次説明を加へて置かう。

手紙の折り方は用紙の寸法によつて同一でないから、先づ用紙のことから説かなくてはならぬが、西洋で用ゐる用箋には普通三種類あつて、最も小形のものゝ長さ八吋、幅五吋の octavo (八つ折判) と稱するもの、その次は長さ十吋、幅八吋の quarto (四つ折) と稱するもの、最も大きなものは長さ十三吋、幅八吋の foolscap と稱するものである。商業書翰には大抵 quarto か foolscap を用ひ、封筒もこれに相應した中形封筒、即ち横五吋半、縦三吋半くらゐのものゝ大形封筒とが用ゐられる。

【註】 社交上の書翰には大抵 note-paper といふ紙を用ひ二つ折にして封袋に入れるのである。封袋も丁度相應したものができてゐる。書翰用紙は社交上のものには絶対に罫紙けいしを用ゐてはならぬ。又決して折目のない一枚紙を用ゐてはならぬが、商業書翰には折目のない紙を用ゐることは極めて普通である。然し罫紙けいしは矢張用ゐない。

商業書翰の場合には如何に紙を折つて封袋に入れるべきかといふに、餘りに小さく折つては、封筒に空気が出来て不體裁ふていさいでもあり、また揉みくちやになつて封筒が破損はそんしたりする懼おそれがあつていけないが、さればといつて餘り一杯一杯に折つて封筒に入れて置くと、開封の時に過つて中身を破ることが多いから、餘程注意して程よく折らなければならぬ。octavo の用箋ならば下から三分の一の所を折り目として下から上に向けて折り上げ、次に折り上げた紙の端の

所即ち用箋の上から三分の一の所から下へ向けて折り下げて、前に上げた部分を蔽ふやうにするのである。quarto の用紙ならば中央を折り目として、下から上へ向けて折り重ねると丁度 octavo の大きさになる。それを右から三分の一の所を折り目にして、左へ向けて折り丁度左から三分の一の所を折り目にして右へ折りかぶせるのである。foolscap の場合には、下から上へ向けて二つ折りに折り重ねたものを、又右から左へ折り重ねるのである。

上述の説明を注意して讀まれる讀者諸君にはよく分つてゐることと思ふが、凡て手紙の折り方は下から上へ、右から左へといふことを忘れぬことが肝要かんえうである。なぜ斯様な折り方をするかといふに、それは受信人が開封して、封筒から手紙を取り出した際に自然に手紙の書出しから見る事ができるやうにするためである。若し折り方が反對であると受信人は用箋の下の方から見始めるさいふ不體裁ふていさいと不便を生ずる。これは丁度日本文の巻紙に書いた手紙を書き出しの方から巻き込んで封筒に入れたのと同じ結果になつて不都合この上もないことになるのである。

封筒に入れる時には、折りかへした開き目の方を封筒の表面に面するやうにする。さうすると、封筒の裏面の折り重なりと手紙の用箋の折り重なりとが一緒しよにならないから都合がよい、のみならず受信人が開封して手紙を取り出す時に、手勝手てがってが極めて自然に行く。

ついでながら、手紙の文句はなるべく一枚の用箋に納めるやうに

するがよい。また大抵の用件は一枚の用箋に納まるものである。殊に今日のやうに、タイプライターを用ふる時代に於ては、二枚以上の用箋を必要とするやうなことは滅多にない。が若し萬一二枚以上の用箋を用みなければならぬ場合には、各頁に一々頁数を記入して頁の順に重ね、紙の大きさに従つて、上述の通りに折り重ねる。

西洋紙は日本紙とは違つて、紙が厚いから、強ひて裏面に書けば書けないことはないが、用箋の裏面に手紙の文句を書くことは大禁物である。これは社交文に於ても、商業文に於ても絶対に許されないことである。それからインキは黒に限る。赤インキは斷然用ゐてはならぬし、紫インキなどもよろしくない。

第十節 封筒の認め方

英文書翰では封筒の認め方は日本文の手紙の場合とは正反對である。先づ封筒の中央か又は中央より少し下へ受信人の敬稱と姓名を記し、その下の行へ少し右へ寄せて、先方の住所を、番地、町名、の順序で書き、又その下の行へ少し右へ寄せて、市名なり、國名なりを記すのである。

例へば「東京市京橋區南鍋町二丁目五番地森川勇」といふ人にあてて手紙を出すとするれば、下の如くに認める。

Mr. Isamu Morikawa,
No. 5. 2-ch. me, Kyobashi-ku,
Tokyo.

又「北米合衆國カリフォルニヤ州サンフランシスコ市メイン街十八番地 James Watson」といふ人に發信するには下の如くに認める。

Mr. James Watson,
No. 18, Main Street, (Street は St. と略し得)
San Francisco, Cal.,
U. S. A.

【註】 Street は St. と略し Avenue は Ave. と略してもよい。Cal. は California の郵便略語で、これは大抵略字を用ゐる習慣である。U. S. A. は The United States of North America の略字。

以上の外普通に用ゐられる郵便略字は下の通りである。

北米合衆國の地名

Ala.	Alabama	Mass.	Massachusettes
Ariz.	Arizona	Md.	Maryland
Ark.	Arkansas	Me.	Maine
Colo.	Colorado	Mich.	Michigan
Ct.	Connecticut	Mo.	Missouri
Del.	Delaware	Mont.	Montana
Fla.	Florida	Neb.	Nebraska
Ga.	Georgia	Nev.	Nevada
Ia.	Iowa	N. C.	North Carolina

Ill.	Illinois	N. Dak.	North Dakota
Ind	Indiana	N. H.	New Hampshire
Ind. Ter.	Indian Territory	N. J.	New Jersey
Kas.	Kansas	N. O.	New Orleans
Ky.	Kentucky	N. Y.	New York
La.	Lousiana	N. Y. City	New York City
O.	Ohio	Or.	Oregon
Penn.	Pnensylvania	Phil.	Philadelphia
R. I.	Rhode Island	S. C.	South Carolina
S. Dak.	South Dakota	Tenn.	Tennessee
Ter.	Terrirory	Tex.	Texas
Va.	Virginia	Vt.	Vermont
Wash.	Washington	Wis.	Wisconsin
Wyo.	Wyommng		

英國及び英領の地名其の他

B. C.	British Columbia
C. P. R.	Canadian Pacific Railway
E. C. (London)	East Central 郵便區)
E. I.	East Indies

N. B.	Scotland (North Britain) (但し英國及び愛蘭 ^{あいらん} に於てのみ使用さる)。
N. B.	New Brunswick (但し主として北米に於て使用さる)。
N. F.	Newfoundland
N. S.	Nova Scotia
N. B. W.	New South Wales (Australia に於ける)
O. (Canada)	Ontario
W. C. (London)	West Central 郵便區

この外一般の略字としては下の如きものがある。尤も次に掲げた略字は、一般の書きものにも用ゐられるが、手紙の文には最も多く用ゐられるのである。

a. m.	ante meridiem (before noon)	午前
p. m.	post meridiem (afternoon)	午後
inst.	instant	本月
ult.	ultimo	先月
prox.	proximo	來月

同市内に住んでゐる受信人に手紙を出す場合には、先方の姓名の次に C mma を打つて、その次の行に City. と一語だけ書く。また同町内に住んでゐる人に手紙を出す時には、City. と書く代りに Addressed. (直譯すれば「所書きされて」であつて、所書は省略す

るの意) さか Presented. (直譯すれば「差出されて」であつて使者に托して直接呈上するの意) とか書いておくのが普通であるが、これ等の語の位置は封筒の右下の角でもよい。この City や Addressed や Presented は郵便で出す場合には應用していけないこと勿論である。

受信人の住所が一定しない場合には日本でも「郵便局留置郵便」として發信することもあるが、こんな場合には、英文書翰では、封筒の左の上部に次のやうな文句を記入して置く。尤も封筒の左上部に何か他の文句を書く場合には、左下部に書いてもよい。

post^{レスタート} Restante (佛蘭西語で、「留置郵便物」の意)

To be left (kept) till called for (「この手紙は受取人が受取りに来るまでそのままに留置されたし」の意)

Care Postmaster (「郵便局長氣附」の意で、Care の次に of を省略したものである。)

以上の中、最も簡単なのは、勿論 To be called for であるから、この形が最も普通に使用されるやうである。

受信人の住所が變つた場合などに用ふる日本語の所謂「御轉送を乞ふ」に當る文句は Please forward で、人に托して手紙を出す時には Kindly forward by Mr.—とか Kindness of Mr.—とか書く。紹介状には Introducing Mr.—とか To Introduce Mr.—とか書く。

外國から來る手紙によく Via Siberia とか Via Vancouver とか Per s. s. Haruna-maru とかの文句が封筒の左上端に書いてあるのがある。これは郵便物が誤つて遠廻りをしないために、豫めその經由する道筋を指定したり、最近の郵便物は何々丸に積まれるといふことを知つてゐる發信人がその船を指定したりする場合である。何でも珍らしい變つたことさへすればよいと思つて、英國行の書翰の封筒に、Via San Francisco と書いたり、米國行のものに、Via Siberia と記入したり、最近横濱出帆の汽船は箱根丸であるのに Per s. s. Haruna-maru とやつたり、^{はるなまる} 横濱^{おうしう}歐洲間の定期船であるのに、米國行の手紙の封筒へ Per s. s. Haruna-maru と書いたりすることは甚だ有害で、何の益にもならぬ。かゝる指定を書く人は汽車、汽船の道筋を始め航路のことや定期船發着の時間表などに精通した人でなくてはならぬ。そんなことを何も知らない人は封筒の上には何も指定の文句など書かぬ方がよい。さうすれば郵便局で適當に取扱つてくれるのである。

書留郵便で發信する時には、その「書留」といふ指定は Registered (略して Reg^l. としたり、又單に R といふ一字を判で捺したりする) である。自分で郵便物を郵便局の窓口へ持つて行つて出す時には別に指定は書く必要もないが、會社、銀行あたりで、小使や給仕に手紙を出させる時には必らず忘れぬやうにこの指定を記入して置かなければならぬ。さもないと大切な手紙が誤つて普通郵便

で差立てられるやうなことが往々あるのである。この語を記入すべき位置は大抵封筒の左の下部である。

日本では封筒の裏面に發信人の住所氏名を明記する習慣であるが西洋には一般にその習慣はない。受信人の住所が確實である場合には、發信人が何人であるかは、受信人の外には知る必要のないことであるから、發信人の住所も姓名も大抵封筒には記入しないのが禮である。それ故、社交書翰に於ては封筒に發信人の住所姓名が書いてあることは、或る特別な場合を除く外は絶対に無いといつてよい。しかし商業文の場合に於ては、往々住所の不確なところへ發信することもあるから、そんな時には、封筒の左上部に、

If not delivered in 10 days,

return to James Watson,

No. 18 Main St., San Francisco

Cal., U. S. A.

といふやうな文句を記すのである。これは若し十日以内に配達不能の場合には合衆國カリフォルニア州サンフランシスコ市メイン街十八番地 James Watson へ御返送を乞ふ」といふ意味である。それ故若し手紙を留置郵便。即ち *Poste Restante* で出すとすれば、上の文句は

If not called for in 10 days,

と變はなければならぬのは申すまでもない。この場合、十日間は普

通の習慣であるが、都合によつては一週間としても二週間としてもよい。つまり發信人と受信人の住所の距離と受信人居住地の大小によつて日限が伸縮される譯である。

英文書翰の封筒の左下端に “Personal,” “Private,” “Confidential” などといふ語が記入してあることがある。これは日本書翰の封筒の上に「御直披」とか「親展」とか書くのと同じ意味であるが元來信書は、他人の開封すべきものでないから、こんな文句は普通の場合には書く必要がない。従つて書いてはならぬ。日本人は習慣として「親展」や「直披」を亂用する傾きがある。甚しきに至つては、時候見舞の手紙を出すにも、かねて作つておいた「親展」といふ判を捺して出す人さへあるが、西洋人はそんなことはしない。それではどんな場合に、この Personal などの文句を記入するかといふに、大會社の重役だの、高官の人だので、毎日何十通何百通といふ多数の手紙を受取り、秘密を要しない普通の、會社や官廳に關する事務上の手紙は、大抵秘書官や秘書役に讀ませる人々に手紙を出して、特に秘密を要求する場合にこの文句を記入するのである。

至急を要する場合には、矢張り封筒の左下端に “Urgent” 若しくは “Immediate” と記入するのであるが、これも日本人のやうに亂用してはならぬ。つまり眞に至急を要しないものには書くべきでない。日本人の中にはこの「至急」といふ文字も判にしておいて、苟くも手紙を書けば必らず封筒に「至急」「親展」と並べて捺すこ

とに定めてゐる人もあるが、これは全く無意味のことである。

この節を結ぶに當つて一つ言つて置かねばならぬことは切手の位置である。西洋では切手は必らず封筒の右上端に貼ることにきまつてゐる、他の位置には決して貼つてはならぬ。日本では普通左上端となつてゐるが、人によつては左下部に貼つたり、三錢の郵便税を一錢五厘切手二枚にして、一枚は左上部、一枚は左下部に貼つたり、封筒の裏面の封じ目の上に貼つて切手を封印代りにする人もあるが、まことに滑稽なことで、こんな手紙は必らず延着するのである。三錢の郵税を要するものには三錢切手一枚を貼用し。外國へ出す手紙で十錢の郵税を要するものには十錢切手一枚を貼用するやうにしなければならぬ。一錢切手一枚と二錢切手一枚とで三錢の郵税にあてるなどは至つて見苦しいものである。

第二章 各 論

今までの説明で、手紙の形式即ち書き方の一般を述べた筈であるから、これから進んで、手紙の内容即ち作り方に就て述べなければならぬ。形式の整つた手紙でも内容が貧弱では申分のない書翰とは言はれない。従つて手紙の内容即ち作り方に就ては形式に就て述べたより以上に詳しく述べたいのであるが、商業文の内容をよく書くといふことはその人その人の英語の實力と商業上の知識如何によることでもあり、商業書翰文の内容に就て委しく研究することは立派な専門家の仕事であるから、到底、ABC から始めた諸君の容易に

企て及ぶべき事柄ではない。他日諸君の英語の實力の進むにつれて追々上達せられるより外に道はない。それ故、私は今後實業界に立つ諸君としてどうしても一通り心得ておかねばならぬと思はれる各種商業文の例を擧げて置くといふ程度に止めなければならぬ。

第一節 開業披露の文 (Circular)

先づ外國の商人と關係のある商賣を始めたとして、その開業披露の文を書くとする。この開業披露文のことを英語では Circular といふ。これは普通の廣告文即ち hand-bill とは異なるものである。廣告文は相手の見定めもなく、廣く一般に配布するものであるが、Circular は自分の考で相手を選び、その選んだ相手だけへ出すもので、もとより廣告文の性質を帯びてはゐるが、廣告文とは大分異なつたものである。(廣告文の例はいづれ章を更へて出すことにする)。

今、假りに伊藤太郎といふ人が開業して、取引を希望する先方の一人に桑港の Miller 商會といふのがあつたならば、伊藤太郎から同商會へ宛て、差出す Circular の例文は、次のとおりである。

Yokohama, April 10th, 1932.

Messrs. Miller & Co.,

San Francisco.

Dear Sirs,

Having established a commission agency

in this city under my own name of Taro Ito, for the sale of American goods in Japan and of Japanese goods in America, I should be pleased to enter into connection with your esteemed firm and would be glad to quote you terms or give you any other information on application.

Trusting to have the pleasure of hearing from you, I beg you take due note of my signature at foot and to regard no other as genuine.

Yours faithfully,

Taro Ito.

(Taro Ito Specimen signature)

拜啓 日本に於ては亞米利加品の販賣、及び亞米利加に於ては日本品販賣の目的にて、伊藤太郎なる自分名義を以て、當市に問屋業開業仕候に付ては、貴商會と取引開始相叶ひ候はゞ欣喜此事に候。御申聞け次第直ちに取引條件を申上げ、其他何なりとも御情報可申上候。

御返事頂戴の榮を得べきことと信じ、下記の小生署名御認め被下候様願上候。他の署名は一切眞正ならざるものと御承知置被下度候。

昭和六年四月十日

伊藤太郎

ミラー商會御中

Taro Ito (署名雛形)

【註】 Having established (設立した) 開業したから。My own name of Taro Ito = 伊藤太郎といふ自分の名、enter connection with = (と関係に入る) 取引を始める。your esteemed firm = (あなたの尊敬されたる商會) 貴商會。(your valued house としてもよい。) quote you terms = 條件を申上げる(條件とは申すまでもなく、取引條件のこと、分り切つたことであるから省略して取引といふ語は用ゐない。) on application = 御申越次第。take due note of = (……に就て適當な注意をとる)……は注意する。at foot = 下記の。regard = 見なす。

Having established a commission agency は Having commenced business as a commission agent としてもよい。又問屋業でなく、雜貨店ならば、Having established myself as a haberdasher. 穀屋ならば Having opened business as a corn merchant とするのである。又銀行ならば Having opened a banking business と書けばよろしい。under my own name of Taro Ito は under the Hinode Shokai; under the style of the Asahi Gumi などとするもよい。

第二節 注文狀 (order)

Gentlemen,

Please forward the undermentioned goods at your earliest convenience, per rail:

150 yards White Shoe Drills (No. 45) @ 20 sen.
 150 yards Cotton Drills (No. 34) @ 15 sen.
 as per patterns herewith.

Yours faithfully,

Saburo Kato.

拜啓 同封の見本通り、下記の商品、鐵道便を以て至急御發送被
 下度候。

製靴用白綾織 壹百五十碼尺 (見本帳第四十五號) 貳拾錢替
 雲齋織 壹百五十碼尺 (見本帳第三十四號) 拾五錢替

年 月 日 加 藤 三 郎

【註】 forward=發送する。undermentioned=「下に記せる」即
 ち「下記の」、at your earliest convenience=「貴下の最後の
 便宜に於て」即ち「なるべく早く」の意。per rail=鐵道便に
 て。by rail 又は by train としてもよい。as per=「の如き」
 で、as per patterns herewith で、同封の見本の通り。@ は
 at の記號、at は「替」の意。此の例文には發信人の住所や
 日附などは省略したのである。今後も場合によつては Closing
 も Signature までも省略して、ただ本文 (Body) だけを記す
 ことにするかも知れぬ。

第三節 同 返 事 (Answer to the Above)

Dear Sir,

We thank you for your esteemed favour of
 yesterday covering order for 150 yards, White Shoe
 Drills (No. 45) and 150 yards, Cotton Drills (No.
 34) @ 20 sen and 15 sen per yard respectively.

We regret, however, that we can not execute
 your order at your limits, at present, as the prices of
 these goods have been advancing day by day. Our
 lowest price for the former is 23 sen per yard and
 18 sen for the latter. We should like to hear by
 return of wire if we can send you the goods at the
 new price

Yours most obediently,

Johnson Brothers.

拜復 製靴用白綾織 第四十五號) 壹百五十碼尺、雲齋織 (第三
 十四號) 壹百五十碼尺、御指値、各一碼尺貳拾錢、拾五錢替にて御
 註文相成候昨日附貴翰難有拜讀仕候。

然る處同品の値段日々騰貴致候に付ては目下、遺憾ながら、御指
 値にては御註文に應じかね候。白綾織は最低値段貳拾參錢、雲齋織

は拾八錢に候。若し右新値段にて御引受け被下候は、折返し電報にて御返事願上候。 敬具

年 月 日 ジョenson兄弟商會。

【註】 covering=含める。 enclosing としてもよい。 per yard 一碼替。 a yard でもよろしい。 respectively = それぞれ。 execute your order = 御注文に應ずる。 fill (meet; book; cope with) your order ともいふ。 at your limits = 「貴下の制限にては」。 即ち「御指値にては」。 advancing = 騰貴しつゝ。 rising としてよい。 the former = 「前者」即ち「製靴用白絨織」。 the latter = 「後者」即ち「雲齊織」。 by return of wire = 折返し電報にて。 by return telegram ともいふ。

第四節 代金請求書

(Requesting Settlement of Account)

Gentlemen,

We enclose herewith Statement of Account to May 31st last, showing a balance in our favour of ¥. 1,924,50, and hope to receive a cheque in settlement in due course.

Yours faithfully,

.....

拜啓 去る五月三十一日迄の弊店勘定尻壹千九百貳拾四圓五拾錢也に對し計算書封入御送致候間至急小切手御送附御支拂被下度願上候。

敬具

【註】 statement of account = 勘定書。 a balance in our favour = 「吾々に有利な残高」即ち、差引計算の結果、當方の貸となるもの。 in settlement = 「極まりがつくやうに」即ち「決算」。 in due course = 「相當の時日がたつたら」即ち、「至急」。

この請求書に對して、借方の商店より直ちに貸方の商店即ち代金の請求者に送金すべきは、勿論のことであるが、往々、借り方商店の都合により、または事務の繁忙にとりまぎれて、送金を怠るやうなことがあるから、そのやうな場合には、再び請求書を發しなければならない。

Dear Sirs,

Permit us to remind you that our Account rendered to June 1st last, amounting to 1,924,50 is still outstanding, and to request an early settlement.

Yours faithfully,

.....

拜啓 去る六月一日御送附致候當店計算書金壹千九百貳拾四圓五

拾貳也未だ御決濟不相成爲念申上候付ては至急御送金相成度懇請
致候。 敬具。

年 月 日 何々商店

【註】 permit us to remind you = 「貴下に思ひ出させることを許せ」即ち、爲念申上候、(失禮ながら)、render t. = 貴下に送附されたる。June last の前に普通は on といふ前置詞を置いて on June 1st last とするのであるが、商業文ではよくこの on を省略する習慣がある。amounting to = 「何々に上る」即ち「何々也の」。to the amount of ととしてもよい。outstanding = 「其儘になつてゐる」即ち、「未だ決濟せぬ」。

上に掲げたる請求書は次のやうに書いてもよい。

Gentlemen,

Our letter of 1st June requesting an early settlement of your Account has probably been overlooked by you. We trust you will give same your prompt attention and forward payment at your earliest convenience.

Yours faithfully,

.....

拜啓 去る六月一日附拙書を以て御勘定至急御決濟被下候様御願

致置候處、今以て其儘に相成居り、右は多分御見落相成候事と存上候何卒至急御支拂懇願仕候。 敬具。

第五節 同返事 (Answer to the Above)

Gentlemen,

Enclosed please find cheque ¥ 1,924,50, in settlement of your Account rendered to June 1st, which you will kindly pass to our credit. The present delay is entirely due to an oversight on the part of our accountant and for which we make full apology.

拜復 去る六月一日御交附相成候貴店計算書に對する決濟として金壹千九百貳拾四圓五拾錢也の小切手一葉同封致置候間御查收相成度候尙同金額を當店勘定貸方に御入帳被下度願上候。今日の遅延は全く當店勘定係の手落ちに基因致候段御詫申上候。

【註】 enclosed please find = 同封しある故查收せられたし。value = (價值), amounting to の省略的な書き方。pass to our credit = 當方勘定の貸方に記帳する。oversight = 「見落し」即ち「間違」 on the part of = 「.....の側に於て」即ち「の」。accountant = 勘定係。full apology = 「十分なる詫言」。

第六節 受領證 (Forms of Receipts)

一口に受取證といつても、場合によつて種々異つた形式があるが、その中主なるものを下に掲げて置く。

先づ最も簡単なものは、「何某殿より金何圓を受領せり」との意味だけを記すもので金員受領の理由を記入しない受領證である。

Tokyo, June 10th, 1932.

Received of Jiro Kato, Esq.,

One thousand yen only.

¥ 1,000⁰⁰/₁₀₀

Goro Ito.

Tokyo, June 10th, 1932.

Received from Mr. Jiro, Kato, ¥1,000.....(Say
One thousand yen only.)

Goro Ito.

Jiro Kato Esq.,

Received

One thousand yen.

Goro Ito.

June 10th, 1932.

は何れも日本文に直すと次の通りである。

一金壹千圓也

右正に受領候也

昭和七年六月十日

伊藤五郎

加藤二郎殿

金員受領の理由を明記した受領證には次のやうなのがある。

Tokyo, June 30th, 1932.

Received of Messrs. Yamada & Co., One
thousand yen only in payment of the house-rent for
this month.

The Mitsubishi Estate Department.

受領證

一金一千圓也

右金額本月分家賃として正に受領候也

昭和七年六月三十日

三菱會社地所部

山田商會御中

これは申すまでもなく家賃の受領證であるが、貸金の受領證は次のやうに書く。

Received of Mr. Koichi Inoue, Five thousand
yen (¥ 5,000⁰⁰/₁₀₀) in full of settlement.

債権全額さいけいぜんがくの支拂として金五千圓也井上香一殿より受領候也

Received from Mr. Koichi Inoue, One thousand five hundred yen in past payment.

内金として金壹千五百圓也井上香一殿より受領也
小切手の送附を受けた時、手紙を以てこれを承認しょうにんする場合。

Tokyo, June 15th, 1932.

Mr. Koichi Inoue.

Osaka,

Dear Sir,

I beg to acknowledge with thanks receipt of a cheque, No. 10 of the Bank of Japan for ¥ 15,000 $\frac{00}{100}$ (Say Fifteen thousand yen only.)

Yours faithfully,

Goro Ito.

拜啓日本銀行宛小切手第拾號にて金壹萬五千圓也正に難有受領候也 敬具

昭和七年六月十五日

伊藤五郎

大阪市 井上香一殿

第七節 廣告文 (Advertisement)

廣告文はなるべく簡單明瞭に、しかも人の注意を惹くやうに工夫しなければならぬから、文章も文法上の規則かうていに拘泥せず寧ろ氣の利いた作り方を尙び、且つ活字の大小や字體なども適宜せんたくに選擇することが必要である。茲に二三の雛形ひながたを示して置く。

新聞、雜誌に出す廣告は別して意匠こを凝らし、挿畫さしゑをしたものさへ尠くないが、茲には極く簡單なものだけを掲げることにする。

SITUATION WANTED AS OFFICE

ASSISTANT.

Good speaker and writer of English, able to typewrite. Good commercial experience. * * *

Address "X. Y." Care of the Times Office

JUNE 15, 1932.

【註】 Situation wanted は「職を求む」である。 assistant=助手、店員。 typewrite は typewriter から來た言葉で、「タイプライターで文字を打つ」といふこと。 able to=can 「出来る」といふこと。 address "X.Y." care of the Times Office は「タイムス社氣附 "X.Y." に照會ありたし」の意。

WANTED: Cultured women to represent us in the sale of the New International Encyclopaedia. Extensively advertised. Name present employment and give reference. Previous experience not necessary. Fixed amount advanced weekly. Address.

DODD, MEAD AND COMPANY
49 Fourth Ave., NEW YORK CITY

【註】 wanted はこの場合に於ては「人を求む」の意。 cultured women = 教養ある婦人 to represent us in the sale of = 當店販賣人として。 extensively advertised = 「普く廣告されて居る」即ち世間によく知られてゐる。 previous experience not necessary = 「経験の有無を問はず」。 fixed amount advanced weekly = 「毎週一定額の報酬を前貸す」。 Ave. = Avenue の略で「通り」とか「街」とかいふ意味。

INTERNATIONAL BANKING CORPORATION

Owned by the
National Bank City of New York
Capital and Surplus U. S. \$ 10,000,000
Foreign Currency Deposits

The Bank accepts deposits fixed for periods of six and twelve months repayable in Pounds Sterling, Dollars, Francs and Rupees.

Terms may be ascertained from the Tokyo Office of the Corporation.

No. 12 NAKADORI MARUNOUCHI

【註】 International Banking Corporation = ^{こくき ぎんかろうみあひ} 國際銀行組合。
owned = 「所有」。 capital and surplus = ^{しほんきん つみたてきん} 「資本金及び積立金」。
foreign currency deposits = ^{つうくわ} 「外國通貨にて預け入れ」。 repay-
able in pounds sterling, dollars, francs and rupees = 「英貨ポ
ンド、米貨ドル、佛貨フラン及び印度銀貨ルーピーにて拂戻す」。
terms may be ascertained from the Tokyo Office of the
Corporation = 條件は東京支店にて御聞合せ下されたし。

“SEIYO-KEN”

“AERIAL” GARDEN RESTAURANT

Commanding a Bird's-eye View
of Greater Tokyo
Now Opened on the 9th Floor
of
Marunouchi Building

【註】 aerial garden = ^{おくじやうていえん} 屋上庭園。 roof garden ともいふ。 com-
manding a bird's-eye view of greater Tokyo = 大東京を一目
の下に見下ろす。

以上はすべて新聞、雑誌に出す廣告であるが、この外葉書又
はピラ等で轉居の廣告や新着荷の披露をすることもあるが、い

づれも皆普通の商業文の短かいものにすぎないから、すべて省略する。

第八節 地位を求むる文 (Application for Situation)

Gentleman,

In to-day's Japan Times you advertise for a junior clerk in your firm. May I offer my self as a candidate for the situation?

I am eighteen years of age, and have just completed the whole course of the Osaka Commercial School. Mr. Kato, Head-master of the school, has kindly allowed me to use his name as a reference respecting my character and abilities.

Should you favour me with an interview, I would be most pleased to call in person with my curriculum vitae, on any day and at any time you might appoint.

Trusting that this letter will find the situation

still vacant, and that I may be fortunate enough to meet your approval.

I am, Gentleman,

Yours faithfully,

.....

拜啓本日発行のジャパン・タイムス紙上に、貴商會に於て下級書記一名御入用の趣、御廣告有之候處、同地位に小生を御採用被下間敷候哉

小生は本年十八歳にて、今般、大阪商業學校全科を卒業致候。同校教頭加藤氏は小生の品性及才能に關し照會先として同氏の氏名を使用するも差支なき旨、御快諾被下候。

若し幸に御面會御許諾被下候はば、御指定通り、何日、何時にてりれきしよけいたいも、履歴書携帶の上拜趨可仕候。

本書御披見被下候際には、地位未だ塞ふさがり居らずして御採用の光榮に接するものと愚考仕居候。敬具

【註】 in your firm = 貴商會に於て。 [a junior clerk = 下級書記一名。 a candidate = 候補者。 offer myself = 私自身を捧げる。 即ち「申込む」。 have just completed = 丁度完了した。 the whole course = 全科。 as a reference = 照會先として。 respecting = に關して。 should you favour me with = if you

should favour me with=if you allow me. in person=親しく、即ち自身で。personally とすることもある。curriculum vitae = history of life 履歴書。trusting = 信じて。still vacant=今尙塞がらずに。approval=承認又は是認、こゝでは「採用」の意。

第九節 履歴書 (Curriculum Vitae)

CURRICULUM VITAE.

Midori Matsuno,

Born March 10th, in the
38th year of Meiji.

D. micile : No. 15, Ima-machi, Tsuyama-shi,
Okayama prefecture.

Present Address : c/o Kiyoshi Kato, No. 25, Omote-
Jimbo-cho, Kanda Ward,
Tokyo City.

Family Situation : The eldest son of Mikio Matsuno.

Education :

Entered the Tsuyama Elementary School on the
1st of the April of the 44th year of Meiji, and

completed its course on the 31st of March of the 6th
year of Taisho

Entered the Tsuyama Middle School of Okayama
Prefecture on the 1st of April of the same year, and
finished the whole course on the 31st of March of the
11th year of Taisho.

Admitted through examination to the Tokyo
School of Foreign Languages on the 16th April of
the same year, and graduated from the same school
in March of the 14th year of Taisho, completing its
English Course.

Occupation :

Entered the service of the Department for Foreign
Affairs as a chancellor on the 28th of April of the
14th year of Taisho. Resigned the post on the 5th
of October of the same year, owing to ill health.

Entered the Mitsui Bussan Kaisha on the 10th of
October of the same year as a clerk and am still in
the service.

Rewards and punishments:

None.

I hereby certify that the above statements are correct in every detail

Midori Matsuno

July, 1st the 7th year of Showa

履 歴 書

松 野 緑

明治三十八年三月十日生

本籍 岡山縣津山市今町十五番地松野幹夫長男

現住所 東京市神田區表神保町二十五番地加藤清方

學 事

- 一、明治四十四年四月一日津山小學校へ入學
大正六年三月三十一日全科修了
- 一、同年四月一日岡山縣立津山中學校へ入學
大正十一年三月三十一日同校卒業
- 一、同年四月十六日受験ノ上東京外國語學校へ入學許可
大正十四年三月同校卒業(英語科修了)

職 業

- 一、大正十四年四月二十八日外務省書記生ニ任ゼラル

同年十月五日病氣ノ故ヲ以テ辭職ス

- 一、同年十月十日三井物産會社書記ニ就職シ、現ニ勤務中

賞 罰

無シ

右之通り相違無之候也

昭和七年七月一日

松 野 緑

【註】 domicile は permanent domicile と書く。 family situation は家族中に於ける松野緑なる人の地位をいふ。 entered = I entered. I を略したのである。 finished = I finished. admitted to も I was admitted to の略である。 through examination = 試験の上で、入學試験を受けて入つたことを意味する。 hereby = 此に。 certify = 證明する、即ち「相違無之候也」。 in every detail = あらゆる點に於て。 in every respect としてもよい。「賞罰ナシ」は既に見出しに Rewards and Punishment としてあるので、ただ None と書いたのであるが、これは No reward and no punishment としても勿論よい。

(完 結)

主要外來語表

(特に何語と記さざるものは英語より來りたるものなり)

【ア】

アーク [arc] 弧。弓形。弧線。
アークライト [arc-light] 弧光。
アーケード [arcade] 屋根覆附商店街。
アース [earth] 接地する。
アーチ [arch] 迫持。縁門。
アーティスト [artist] 藝術家。特に畫家の意に用ひられてゐる。
アート・タイプ [art type] 寫眞をコロタイプ風にした艶消しの雅味ある印刷物。
アート・ペーパー [art paper] 寫眞網目板の印刷に用ふる光澤を出した西洋紙。略してアートとも云つてゐる。
アーベンド [abend] (獨) 夕。晚。(音樂會、映畫會等の催ふし物に用ふ)。
アーム・チェア [arm-chair] 肘掛椅子。
アーメン [Amen] 基督教徒が祈禱の終りに唱へる語。従つて、基督教、又は基督教徒。
アイヴォリ(紙) [ivory-paper] 上品な西洋紙で、名刺用紙等にするもの。
アイコノクラスト iconoclast, iconoclasm] 即ち偶像破壊主義、個性の自由と權利を極度に主張する人。
アイス(クリーム) [ice (cream)] 乳脂に砂糖、(普通)雞卵を加へ凍らせし菓子。高利質(氷菓子)。
アイス・セーリング [ice sailing] 氷上をヨットにて疾走する冬のスポーツ。
アイ・ダブルユー・ダブルユー I.W.W. [Industrial Workers of the World] 世界産業労働者同盟。
アイ・ピー・アール [Institute of Pacific

Relaitons] 太平洋問題調査會。
アイロン [iron] 熨斗。
アウト [out] 野球戦の死者。庭球ではボールが線外に出たこと。
アウト・カーブ [out curve] (野球用語) 打手の附近で投手から見て左に曲線を描くやうに投げるボール。
アウトライン [outline] 輪竈。梗概。
アウトドロップ [out drop] (野球用語) 投手から見て左に曲がるやうに投げて急に落下せずボール。
アウフヘーベン [aufheben] (獨) 揚棄。(二つの對立闘争に在る状態の古きを棄て、新しく正しきものへの高揚)。
アヴェック [avec] (佛) 「…と共に」の意であるが、「同伴」の意に用ひられてゐる。
アヴェニュー [avenue] 大通り。並木路。
アヴェレージ [average] 平均。海損。
アカウント [account] 計算(書)。
アカシア [acacia] 幹高く小さい白い花の咲く木、多くは並木として植えられる。
アカデミー [academy] 専門學校、大學校、學士院、(中學校)。
アカデミック [academic] 街學的。
アクセント [accent] 音節、語調、強音。
アクター [actor] 俳優。
アクティヴィティー [activity] 活動、敏捷。
アクトレス [actress] 女優。
アグラマン [agrément] (佛) 同意。
アグリーメント [agreement] 協定。
アステリスク [asterisk] 星標(印刷用語)。
アスファルト [asphalt] 土壘膏。よく道路の舗装等に用ふ。
アスパラガス [asparagus] 西洋ウド。
アスピリン [aspirin] 解熱鎮痛藥。

アスベストス [asbestos] 石綿。
 アスリート [athlete] 競技者。
 アスレチック・スポーツ [athletic sport] 運動競技。特に陸上競技。
 アセチリン(ガス) [acetylene(gas)] 無色有臭の氣體で燈火用。化學式は C_2H_2 。
 アヂト [agitation point の畧]。(左翼用語) 煽動部、(非合法運動に於ては普通秘密委員会)。
 アヂ・プロ [agitation and propaganda の畧]。(左翼用語) 煽動と宣傳。
 アッコモデーション・ノート [accommodation note] 融通手形。
 アシスタント [assistant] 助手。
 アソシエーション [association] 組合。交際。聯想。
 アット・サイト [at sight] 一瞥拂。
 アット・パー [at par] (株)額面同額で。
 アピール [appeal] 抗告。
 アップスタート [upstart] 成金。
 アップ・トゥー・デート [up-to-date] 最新式。
 アテナ [Athena] 學術、技術、智慧、戦争の女神。
 アディュー [adieu](佛) 御氣遣よう。
 アトモスヒア [atmosphere] 四圍の事情。
 アトラクション [attraction] 人目を引くやうなこと。魅力。
 アトリエ [atelier](佛) 畫室、彫塑室。
 アドニス [Adonis] 愛の女神ヴィナスに愛されたる美少年の名から、一般に美少年の意に用ひられてゐる。
 アドレス [address] 宛名。宿所。
 アナーキズム [anarchism] 無政府主義。
 アナウンサー [announcer] ラジオの告知係。
 アナクロニズム [anachronism] 時代錯誤。畧してアナクロとも云ふ。
 アナステグマツト 無収差透鏡(寫眞用語)。
 アナナス(パイナップル)[the pine apple; the ananas] 鳳梨。
 アニリン [aniline] コールターより製する色素。

アネクドート [anecdote] 逸話。
 アネモネ [anemone] 翁草。新しい歌人などの喜ぶ草花であるから、歌人のことをアネモネ黨など云ふ。
 アノダイン [anodyne] 鎮痛劑。
 アバタ [abuda](サンスクリット語) 痘瘡。
 アパートメント [apartment] 割貸家。
 アフロディテ [Aphrodite] 希臘神話中の戀と美の神。
 アブサン(ト) [absinth(e)](佛) 一種の強烈なる酒。
 アブ(ブ)ト式 [abt system] 急坂を昇降する汽車の危険を除く爲めレールの間に齒の附いたレールを敷いて機關車に備へた齒車と噛み合つて徐行する装置。
 アプリコット [apricot] 杏。
 アポロ [Apollo] 希臘神話中の美術藝術の神。
 アマチュア [amateur] 職業としてでなく道樂的にする技術家。
 アマルガム [amalgam] 水銀と他の金屬との合金。
 アマルガメーション [amalgamation] 合併、合同。
 アミーバ [ameba; amoeba] 最下等なる顯微鏡的動物。
 ア・ラ・カール [a la carte](佛) 一品料理を選ぶこと。
 ア・ラ・バージュ [a la page](佛) 最新流行の。尖端的。a la mode より一層新しい言葉であることは勿論、それより後に出來た dernier cri よりも新しいもので、まだ字引にもない言葉である。
 アラベスク [arabesque] 唐草模様(裝飾の一様式)。
 ア・ラ・モード [a la mode](佛) 流行の。
 アリア [aria] (伊)歌曲。
 アリザリン [alizarin] 染料用紅色素。
 アリстокラシー [aristocracy] 貴族政治。貴族社會。
 アルカリ [alkali] 苛性曹達、苛性カリ。
 アルカロイド [alkaloid] 植物中に存する鹽基性化合物。
 アルコール [alcohol] 酒精。酒の意にも

用ひられてゐる。
 アルデヒド [aldehyde] アルコールの酸化生産物。
 アルト [alto] 中音部、(音樂用語で女性の低い音を云ふ)。
 アルトルイズム [altruism] 愛他主義。
 アルバム [album] 書畫帳、寫眞帳の類。
 アルパカ [alpaca] 南米ペルー國に多く棲息する羊と駱駝の混血兒のやうな動物の名。この毛を用ひて織りたる織物(特に服地)の意に用ひられることが多い。
 アルピニスト [alpinist] 登山家。
 アルファ [alpha] 希臘字母の最初の字。「最初」の意に用ふ。
 アルヘイター [alfetoo](葡)有平糖(菓子)。
 アルペン・ストック [alpenstock](獨) 金剛杖(登山用の)。
 アルボース [arbois] 防腐、防毒劑。
 アルミニウム [aluminium] 輕銀。略してアルミ又はニウムとも云ふ。
 アレグレット [allegretto] (音樂用語) やや急速に。
 アレグロウ [allegro] (音樂用語) 急速に。
 アレンヂ [arrange] 整理。
 アン・エンプロイメント [unemployment] 失業。
 アンカー [anchor] 錨、從つて、力になるもの。
 アンクル [anchor] 錨と同字であるが、錨形の爪が順順に齒車の齒に噛み合ひて其運動を制御する装置の時計。
 アンコール [encore](佛) 再演所望。
 アンスラサイト [anthracite] 無煙炭。
 アンダー・シャツ [under shirt] 下着。下シャツ。
 アンダー・ライン [underline] 下引線。從つて、水平以下の意味から低能者をアンダラインと云ふことがある。
 アンダルーシヤン [Andalusian] 鷄の一種(スペインのアンダルーシヤ地方の原産)。
 アンチ・ウォー・パクト [anti-war pact] 不戰條約。
 アンチ・エア・クラフト・ガン [anti-air-

craft gun] 空中射撃砲。
 アンチ・エア・クラフト・ライト [anti-aircraft light] 照空燈。
 アンチ・ピリン [antipyrine] 解熱藥、化學式は $C_{11}H_{12}N_2O$ 。
 アンチ・フェブリン [antifebrin] 解熱藥。
 アンチ・モダン [anti-modern] 舊式。
 アンチモニー [antimony] 金屬元素の一、主にも合金を作るに用ふ。
 アンテナ [antenna] 無線電信發受線。
 アンデバンダン [independent](佛) 獨立の意から Salon de Independant の略として用ひてゐる。
 アンバイア [umpire] 審判者。仲裁人。
 アンプリファイヤー [amplifier] (ラヂオ) 増幅器。
 アンペア [ampère] 電流の強さの實用單位。
 アンペラ [lepironia mat] (編片)
 アンモニア [ammonia] 臭氣を放つ氣體であるが、普通はアンモニア水の意味に使はれてゐる。

【イ】

イージー・マネー [easy-money] 低利資金。
 イーゼル [easel] 畫架。
 イーブ [eve] 祭日の前晩、(クリスマス、イーブの如き)。夕(映畫の夕の如き)。
 イオン [ion] 電氣分解に依つて生ずる原子。
 イタリック [Italic] イタリツク體の活字、傾斜文字。
 イット [it] 情癡的にキワドイ物事を指して云ふ。
 イディオム [idiom] 慣用語。
 イデオロギー [ideologie](獨) 主義、觀念、(イデオロギーを持つてゐる人をイデオログと云ふ)。
 イドー [Ido] 大體エスペラントに基づいた一種の世界語。
 イニシアチーフ [initiative] (左翼用語) 創意。

イニシアル [initial] 頭字 (姓名の初めの文字, 例へば Taro Ito の T. I.)
 イリジウム [iridium] 金属元素の一。
 イリュージョン [illusion] 幻影。
 イルミネーション [illumination] 點燈装飾。
 イルリガートル [irrigator] 灌水器。
 インヴェントリ [inventory] 案内書、目録。
 インヴォイス [invoice] 積荷證書、送状。
 イン・カーヴ [in curve] (野球用語) 打手の附近で急に打手の内方に曲るボールの投げ方。
 イン・カンテッセント・ランプ [incandescent lamp] 白熱燈。
 インキ [ink] 墨汁。
 インクライン [inclined plane] の略。斜面路輸送設備。
 イング [ing] (野球用語) 盗塁の時のすべり込み。
 インシュランス [insurance] 保険。
 インシュレーター [insulator] 電気の絶縁器、碍子。
 インスピレーション [inspiration] 靈感。
 インター・ナショナルイズム [internationalism] 国際主義、世界主義。
 インターリオ [intaglio] (伊) 凹刻術。
 インチ [inch] 吋。
 インチゴ [indigo] 藍。
 インテリ [intelligentsia] (露) インテリゲンチヤの略で、智的労働者階級。
 インテル [leads] (印刷用語) 活字の行間に挿入する挿鉛。
 インディヴィデュアリズム [individualism] 個人主義。
 インディヴィデュアル・ヘドニズム [individual hedonism] 個人的享樂主義。
 インディケーター [indicator] 表示器。
 インデックス [index] 索引。
 イントネーション [intonation] 音調、抑揚。
 インニング [inning] (野球用語) 回。野球の一試合は九インニングの定めである。

インバネス [inverness] 一種の外套。
 インバスト [impasto] 洋畫描法の一。カンバスの面に繪具を盛上げて高低を感じさせる描法。
 インフルエンザ [influenza] 流行性感冒。
 インペースト [impaste] 畫を描く時に色を濃目にかけること。
 インペリアリズム [imperialism] 帝國主義。

[ウ・ヴ]

ウーマン・サフレーヂ [woman suffrage] 婦人參政權又は選舉權。
 ウーピー [whoopie] 底抜騒ぎの愉快。
 ウールン [woollen] 毛布、フランネル等の如き毛織物。
 ウィーク・エンド [week end] 週末。
 ウィークリー [weekly] 週刊雑誌又は新聞。
 ウイスキー [whisky] ウイスキー酒。
 ウィケット [wicket] 改札口。
 ウィンク [wink] 色目。
 ウィンター・セール [winter sale] 冬期賣出し。
 ウィンドウ [window] 陳列窓。
 ウエーブ [wave] 洋髪で髪を波形にうねらすこと又はその髪。
 ウエーヴ・レングス [wave length] (ラジオ用語) 波長。
 ウェスト・ボール [waste ball] (野球用語) 三壘に走者のある時投手が打手に投ずる無駄なボール。
 ウエーター [waiter] 給仕人(主として西洋料理店の)。
 ウエートレス [waitress] 女給(主として西洋料理店、カフェ等の)。
 ウェーファー [wafer] 薄い煎餅のやうな菓子。
 ウェルカム [welcome] 歡迎。
 ウォーター・シュート [water-chute] 高い所から斜に低い所へ船を滑走させて下の水上に移す遊び。
 ウォーター・プルーフ [water-proof] 防水

布。
 ウォーター・クロセット [water-closet] 便所。畧してダブルユー、シー(W.C.)とも云ふ。
 ウォーター・ポロ [water-polo] 水中競技の一種、陸上のフットボールと同様の競技法のもの。
 ウォーミング・アップ [warming up] 競技の前に身體の總ての機關に軽い刺激を與へる豫備運動。
 ウォッチ [watch] 懐中時計。
 ウラニウム [uranium] 金属元素の一、ウランとも云ふ。
 ウラボン [ullambana] (サンスクリット) 盂蘭盆。
 ウール [wool] 羊毛、毛織物。
 ウルトラ [ultra] 極端の、過度の。
 ウルトラ・マリナー [ultramarine] 群青。
 ウンシャン [unch'an] (獨) 醜婦。
 ウンテル [unter] 地下鐵道。(獨逸語から來た畧語)。
 ヴァージン [virgin] 處女、處女マリヤ。
 ヴァーミリオン [vermillion] 朱色。
 ヴァイオリン [violin] 提琴。
 ヴァイオレット [violet] 菫。
 ヴァキュウム・クリーナー [vacuum cleaner] 吸塵掃除器。
 ヴァキュウム・チューブ [vacuum tube] (ラジオ用語) 真空管。
 ヴァキュウム・ブレーキ [vacuum brake] 真空制動器。
 ヴァニラ [vanilla] 米國熱帶地方に産する蘭科植物。
 ヴァリアティオン [variation] 變體、變調。
 ヴァンダル(イズム) [Vandal(ism)] 文藝破壞者(主義)。
 ヴァンテージ [(ad)vantage] (庭球用語) サーヴの方がデュースの後に最初の一撃を得た時にヴァンテージ・インと云ひ、サーヴに非ざる側が一撃を擧げた時にはヴァンテージ・アウトと云ふ。
 ヴィーナス [Venus] 希臘神話の愛と戀の神。
 ヴィール [veal] 犢の肉。

ヴィオラ [viola] (伊) 大提琴。
 ヴィオロンセロ [violoncello] (伊) セロ。低音提琴。
 ヴィジヤン [vision] 幻影。映畫などの夢の場。
 ヴィスタ [vista] 通景(並木等の間の)。
 ヴィタミン [vitamine] 生活素。A.B.C.D.Eの五種あり。
 ヴィテリン [vitellin] 卵黃素。
 ヴェール [veil] 頭と顔を覆ふ薄い絹織物。
 ヴェスト [vest] 胸衣、メリヤスシャツ類。
 ヴェッチェン [velveteen] の訛。別珍(模造天鵝絨)。
 ヴェランダ [veranda(h)] 縁側。
 ヴェルヴェット [velvet] 天鵝絨。
 ヴェルモット [vermouth] ヴェルモット酒。
 ヴォーカリスト [vocalist] 聲樂家。
 ヴォードヴィル [vaudeville] 流行唄。踊や唄入り喜劇。又はその劇場。
 ヴォール [vol.] (volume) 巻。
 ヴォールト [vault] 圓天井。地下室。
 ヴォイル [voile] (佛) 薄地の綿(又は羊毛)織物。
 ヴォキャブラリ [vocabulary] 個人又は社會の人々の知り用ふる語數。
 ヴォッカ [vodka] (露) 露西亞の火酒。
 ヴォルト [volt] 一オームの抵抗に對して一アンペアの電流を運ぶ力。
 ヴォレー [volley] (庭球、蹴球用語) 球が落ちない間に打ち又は蹴り返すこと。
 ヴォレー・ボール [volley-ball] 排球。

[エ]

エアール・ガール [air girl] 飛行機中にて給仕する女性。
 エア・ブレーキ [air-brake] 空氣制動機。
 エアール・ポート [air port] 運輸交通用飛行機の離着陸所。
 エアール・メール [aerial mail] 飛行郵便。
 エーカー [acre] 我が四反十八歩。
 エーシーイズム [atheism] 無神論。
 エーテル [ether] 光熱發散の精氣。(極

微にして宇宙に彌漫し光、熱、電氣等の傳播を媒介す)。
エール [yell] 應援歌。
エイス [ace] かるたの點又はサイの目の一から、最上等、一品。
エイリート [elite] (佛) 社會の中樞、精華。
エキストラ [extra] (1) 新聞の號外。(2) 補助俳優(スターに對して)。
エキストラ・インニング [extra inning] (野球用語) 補回戦。
エキスパート [expert] 玄人。
エクスプレッション [expression] 表情。
エクス・レー [X ray] X光線、レントゲン光線。
エキゾチック [exotic] 外國情調。
エゴ [ego] 自我。
エゴイスト [egoist] 自己主義者。
エゴイズム [egoism] 自己主義。
エスカレーター [escalator] 電力自動階段。
エス・オー・エス [S.O.S] 遭難船が救助を求めるときに發する萬國共通信號。それから轉じて危険な場所と云ふ意に用ひてゐる。
エスケープ [escape] 逃げるの意から學校を休むこと(學生用語)。
エスペラント [Esperanto] ポーランド人ザメンホフが世界共通語として大に宣傳した言葉。
エディター [editor] 新聞、雑誌の主筆。又は記者。
エックス [extract] の畧。(1) 越後斯。素、精。(例へば牛肉エックスの如し)。(2) 疑問、未定なること。
エッセンス [essence] (1) 精、粹。(2) 揮發油。
エッチング [etching] 金屬、硝子、木、竹等になす腐蝕法。
エチル [ethyl] (化) エチル。
エチル・アルコール [ethyl alcohol] 飲用酒の主成分。(畧して、單にアルコールとも云ふ)。
エチレン [ethylen] (化) エチレン(生油氣)。

エデュケーション [education] 教育。
エデン [Eden] 樂園。
エトセトラ [etcetra] 等々。etc. と畧して書く。
エトランジェ [etranger] (佛) 外國人。門外漢。
エナメル [enamel] 珪瑯。
エネルギー [energy] 精力、活氣、元氣。
エバー・シャープ [ever-sharp] 繰出鉛筆。
エピソード [episode] 挿話。
エフィシエンシー [efficiency] 能率。効果。
エプロン [apron] 白前掛。
エボナイト [ebonite] 硬護謨。
エポック [epoch] 時代、時期、新紀元。
エポック・メーカー [epoch-making] 劃期的。
エポレット [epaulet] 軍人の肩章。
エマンシペーション [emancipation] 解放。
エム [em] (印刷用語) 活版の全角。
エム [money] の頭文字。金錢。
エメラルド [emerald] 綠玉石。
エラー [error] (野球用語) 試合中競技者の失策。
エル・ドラド [El Dorado] 黄金郷、寶の山(マルコ、ボロの想像から、南米の)。
エレヴェーター [elevator] 昇降機。
エレヴェーター・ガール [elevator girl] 女子昇降機掛り。
エレキ [electricity] 電氣。
エレクトロン [electron] 電子。
エロス [Eros] (戀愛の神)の訛。戀愛的、色情的、性慾的、浮氣、色氣クツプリ。
エロー・ペーパー [yellow paper] 煽動的新聞。
エン [en] (印刷用語) 活字の半角。
エンゲージメント [engagement] 婚約(畧して、單にエンゲージとも云ふ)。
エンゲージ・リング [engagement-ring] 婚約指環。
エンサイクロペディア [encyclopedia] 百科全書。
エンジニア [engineer] 技師。機關手。

エンジン [engine] 機關車。
エンゼル [angel] 天使の意より、守護神愛人。
エントランス [entrance] 入口。

[オ]

オーヴァー・スロー [over throw] (野球用語) 腕を上から下へ振つて投げる投球法。
オーヴァ(コート) [over(coat)] 外套。
オーヴァ・シュー [overshoes] 雨天等に靴の上に穿く護謨製の靴履。
オーク [oak] 樺材。
オークション [auction] 競賣。
オークル [ochre] 塗料、印刷インキ等に用ふる黄土。
オー・ケー [O.K.] よろしい。
オーケストラ [orchestra] 管絃樂。
オーソリティー [authority] 權威。當局。
オート・ヂャイロ [outogyro] 自動旋回飛行機。
オート・バイ [autobi] (cycle) 自動自轉車。
オート・ポロ [auto-polo] 自動車上の打球戲。
オート・マット [automat] 自動機。
オート・マテイク [automatic] 自動式の。
オート・マトン [automaton] 人動人形。
オートミール [oatmeal] 燕麥から作った西洋食料品。好みに應じて砂糖又は鹽と牛乳を混じて食す。
オードーブル [hors d'oeuvre] (佛) 食慾を進める爲めに初めに出す料理。
オープン [open] (1) 幌型自動車の幌をたゝんだもの。(2) スポーツにては、飛入り競技。
オーボエ [oboe] 管樂器の一種。
オーム [ohm] 電氣抵抗の實用單位。
オーライ [all right] よろしい。
オール [all] 全體又は總ての意。
オール [oa:] 權(ボートの)。
オール・トーカー [all talkie] 全發聲映畫。
オールド・ミス [old miss] 老嬢。
オール・バック [all back] 頭髮を延ばし

て分けずに皆後へ撫でつける刈り方。
オーロラ [aurora] 極光。
オアシス [oasis] 砂漠中の綠地の意味から、憩いの場所。
オイスター [oyster] 牡蠣。
オイル [oil] 油。
オヴン [oven] 竈。
オキシヘラー [oxyhealer] 酸素治療器。
オクタヴォ [octavo] 一枚八折型の紙又は之れと同一の大きさの書物。
オクテ(タ)ーヴ [octave] (音樂用語) 第八音。
オステパシー [osteopathy] 骨病療法。
オスミウム [osmium] 金屬元素の一。
オスラム・ランプ [Osram lamp] オスミウムとタンダステンとの合金オスラムを發光線に使用せる電球。
オゾン [ozone] 變形酸素で其一分子 O_3 なるもの。
オパール [opal] 蛋白石。
オフィス [office] 事務所。
オフィス・アワー [office hour] 執務時間。
オフィス・ガール [office girl] 女事務員。
オフィス・ボーイ [office boy] 給仕。
オフィス・ワイフ [office wife] 會社の重役や課長の給仕女(和製英語で、往々悪い意味に用ひられる)。
オフセット [offset] 印刷術の一種、平面の原版から一度ゴムに寫し、ゴムから紙に轉寫印刷するもの。
オブコニカ [primula obconica] 櫻草屬の植物。
オブザーヴァ [observer] 觀察者の意であるが、國際聯盟に於て該聯盟に加入せざる大國の派遣員を無資格の儘聯盟會議に参加せしむるものをいふ。
オブラート (oblate); [wafer] 薄葉紙の如きものにて散薬を包んで飲むに用ふ。
オプション [option dealing] 選擇取引。定期取引。
オペラ [opera] 歌劇。
オペラ・グラス [opera-glass] 兩眼鏡。
オペラ・コミック [opera comique] (佛) 喜歌劇。

オペラ・バッグ [opera bag] 婦人持の手提げ袋。
 オペラ・バンド [opera-band] 歌劇團。
 オペレット [operette] 小歌劇。
 オムレツ [omelette] (佛) 西洋料理の一種。牛肉、鶏肉、又は魚肉の小片に葱の小片などを加へ之れを鶏卵にて包みて焼きたるもの。
 オメガ [omega] 希臘字母の最終字、之れより最終の意。
 オラクル [oracle] 神託。
 オラトリオ [oratorio] 聖樂。
 オリーヴ [olive] 橄欖色。
 オリент [Orient] 東洋。
 オリ(ライ)オン [Orion] 星座の名、一般に三つの星と稱して居るもの。
 オリヂナリチー [originality] 獨創力。
 オリンピック [Olympic] 昔ギリシヤのオリンピア村に祀つてあつたゼウスの神の祭典に國內から選ばれた選手が競技をしたことから、世界の各都市に時々催される選手権競技大會。
 オルガン [organ] 風琴。
 オルグ [organizer] の畧 労働組合本部より指令を受けて、未組織大衆の獲得と組織化とを職分とするもの。
 オルゴル [orgol] (蘭) 自鳴琴。
 オルフラム [wolfram] タングステンの別名。
 オレイン [olein] 脂油の主成分。
 オレゴン・パイン [Oregon pine] 米松。
 オレンジ [orange] 橙。
 オン・ザ・マーク [on-the-mark] 競技に於て出發に際し、競技者に掛ける號令。「各自出發點に就け」の意。
 オンス [ounce] イギリスの衡量。
 オン・セイル [on sale] 發賣中。

[カ・ガ]

カー [car] 電車。
 カーキー [khaki] (印) 茶褐色。
 カー・ストップ [car stop] 電車停留場。
 カーツン [cartoon] 戯畫。

カーテン [curtain] 窓かけ。
 カーニヴァル [Carnival] 謝肉祭。(ローマ教四旬齋[Lent]前の祭)。
 カーネーション [carnation] 和蘭石竹。
 カーマイン [carmine] 洋紅。
 カーリング・アイロン [curling iron] 頭髪を縮らすに用ゐる鑢。
 カーレント・アカウント [current account] 當座預金。
 カーヴ [curve] 野球ではボールが曲線を畫いて飛ぶこと。鐵道等の彎曲。
 カーゴ [cargo] 船荷。
 カード [card] 名刺。
 カード・ボード [card-board] 厚紙、板紙。
 カーバイド [carbide] 炭化石灰。
 カーペット [carpet] 絨氈。
 カーボナイズド・プレート 炭素板。
 カーボン [carbon] 炭素。
 カーボン・ペーパー [carbon paper] 炭酸紙。
 カイゼル [Kaiser] 獨逸又は奧太利の皇帝。
 カウンター [counter] 計數器。帳場臺。
 カヴィアー [caviare] 魚の卵を鹽漬にしたもの。
 カカオ [cacao] チョコレート樹。
 カクタス [cactus] 仙人掌。
 カクテル [cocktail] 混成酒。
 カシミヤ [cashmere] 山羊の毛の織物にして印度のカシミヤ地方にて多く産す。
 カスカラ [cascara sagrada] 鼠李の皮、(緩下劑として用ふ)。
 カスタード [custard] 牛乳、卵、砂糖を混じて煮詰めた菓子。
 カスタネット [castanets] 紫壇の木片を二つ合せて歌舞の調子を取る樂器、四竹の類。
 カスティラ [Castilla] 西班牙の Castilla で出来る菓子で卵と砂糖と麥粉にて作れるもの。
 カストマー [customer] 顧客。
 カストム・デューティ [custom duty] 關稅。
 カゼイン [casein] 乾酪素。

カタバルト [catapult] 艦載飛行機射出機。
 カタル [catarrh] 加答兒。
 カタログ [catalogue] 目錄、型錄。
 カタン(絲) [cotton thread] 木綿絲。
 カッシュ・レジスター [cash register] 金錢登錄器。
 カッター [cutter] 艦載短艇。
 カット [cut] 小さな版畫。
 カット・グラス [cut glass] 磨硝子。
 カット・バック [cut back] (映畫用語) 甲の場面から乙の場面へ急に場面轉換をすること。
 カッパ [capa] (西) 合羽(雨外套)。
 カツレツ [culet] 薄片の肉をラード又はヘットで揚げたもの。
 カテーテル [catheter] 導尿管。
 カテゴリ [category] 部屬、類の意より範圍、最も基本的な概さ。
 カドミウム [cadmium] 金屬元素(合金に用ふ)。
 カドミウム・エロー [cadmium yellow] 美しい橙黄色。
 カナリヤ [canarie] 金絲雀。
 カナル [canal] 運河。
 カネキン [canequin] (蘭) 金巾。
 カノン [cannon] 大砲。
 カバー [cover] 上包。書物の表紙。
 カバレー [cabaret] (佛) 歌舞音曲附の料理店。
 カビネ [cabinet photograph] カビネ型寫眞(二枚掛と四つ切との中間の大きさのもの)。
 カピタン [capitan] (蘭) 船長。
 カフ [cuff] 洋服の袖口。
 カフェー [cafe] (佛) 珈琲店。
 カフェイン [caffeine] 茶、珈琲等に含まるアルカロイド。
 カフェテリア [cafeteria] 自給食堂。
 カフス・カヴァー [cuffs cover] 洋服の袖口が汚れぬために掛ける覆ひ。
 カフス・ボタン [cuff-studs (links)] 洋服の袖口の釦。
 カボチャ [Cambodia] 南瓜(カンボジヤ

國から來た瓜の意)。
 カミツレ [camonile] 菊科植物にして、健胃劑、興奮劑として用ふ。
 カムフラージ [camouflage] (佛) 欺瞞術。
 カメオ [cameo] (伊) 浮彫を施したる寶石又は貝殻。
 カメラ [camera] 寫眞機。
 カメリア [camellia] 山茶花。
 カラー [collar] 襟。
 カラー [colour] 繪具。
 カラット [carat] 金銀寶石等を量る量目。(一カラットは約三・五グレイン、我が約六厘) 金質を表はすに用ふ。純金は二十四カラット。
 カラメル [caramel] 燒糖。
 カラリスト [colourist] 色彩を目的とする畫家。
 カリカチュア [caricature] 諷刺畫。
 カリウム [kalium] 金屬元素の一。
 カルクス [calx] 礦物の燒渣。
 カルシウム [calcium] 金屬元素の一。
 カルシウム・カーボネート [calcium carbonate] 炭酸カルシウム。
 カルセル [carcel lamp] カルセル燈。
 カルタ [carta] (蘭) 歌留多。
 カルチュア [culture] 教化、修養。
 カルテル [cartele] (經濟用語) 同一の生産に従事する企業家が同一市場を占めんとする目的で各自の事業を侵さぬ程度で結ぶ同盟。
 カルトン [carton] 紙函。(主として勘定場用の紙盆)。
 カルピス [karpis] 希臘の三本柄の水瓶。當今清涼飲料の名に用ゐられてゐる。
 カルルス [Karlsbad] チェコスロバキヤの世界第一の温泉地の名稱から鑛泉の意に用ひらる。
 カルミン [calmint] 口中清涼用の菓子錠。
 カレー [curry-powder] カレー粉。
 カレンダー [calendar] 曆。
 カロメル [calomel] 甘汞。
 カロリー [calorie] 熱量。(水一瓦の溫度を攝氏一度だけ高めるに要する熱量を一カロリーと云ふ)。

カンガルー [kangaroo] 濠洲産の有袋動物。(袋ネズミ)。
 カンタループ [cantaloup] 一種の甜瓜。
 カンティーン [canteen] 酒保。
 カンテラ [candeia] (蘭) プリキ製の點燈具。
 カンナ [canna] 壘華屬の西洋草花。
 カニング [cunning] ずるいこと。不正をすること。
 カンバス [canvas] 帆布。畫布。
 カンフォア [camphor] 樟腦。
 カンプ [camp] 野營。
 ガーゼ [gauze] 柔かな粗木綿。
 ガーター [garter] 靴下止め。
 ガーデン [garden] 庭園。
 ガード [girder-bridge] 鐵道線路の跨橋。
 ガーネット [garnet] 柘榴石。
 ガイド [guide] 案内者。
 ガイド・ブック [guide-book] 案内書。
 ガウン [gown] 法衣、上衣、大學教授服。
 ガスマントル [gas-mantle] 瓦斯燈火覆ひ(網状のもの)。
 ガソリン [gasoline] 石油瓦斯。
 ガソリン・ガール [gasoline girl] 自動車にガソリンを供給する女。
 ガソリン・スタンド [gasoline stand] ガソリン販賣所。
 ガドリニウム [gadolinium] 金屬元素の一。
 ガム [gum] 護謨。
 ガラクトース [galactose] 結晶糖(酸を乳糖に作用させて作りたるもの)。
 ガラス [glass] 硝子。
 ガランテン [galantine] 鶏、鴨等の骨を抜きて細切り肉を詰めて煮て後に冷したるもの。
 ガリィー [galley] (印刷用語) 組盆(ゲラともいふ)。
 ガリウム [gallium] 金屬元素の一。
 ガレーヂ [garage] 自動車庫、飛行機格納庫。
 ガレリー [gallery] 美術展覽會。
 ガロン [gallon] 英計量。我が二升五合。

[キ・ギ]

キール [keel] 船の龍骨。
 キスメット [kismet] 運命。
 キセル [外來語ナルモ不詳] 煙管。
 キック [kick] (蹴球用語) ボールを蹴ること。
 キック・オフ [kick-off] (蹴球用語) 競技開始に當り何れか一方が球を最初に蹴ること。
 キス [kiss] 接吻。(撞球用語) 球と球との接觸。
 キッド [kid] 仔山羊の皮。
 キニーネ [quinine] 視那の皮より採つた解熱劑、強壯劑。
 キネマ [kinematograph] 活動寫眞。
 キネマ・カラー [kinema-colour] 天然色寫眞。
 キネマ・ファン [kinema-fan] 活動寫眞狂。
 キャスティング・ボート [casting vote] 投票決定權。(兩者の投票同一なる時最後の決定的一票)。
 キャッシャー [cashier] 出納係。
 キャッシュ [cash] 現金。
 キャッチ [catch] (野球用語) 受球。捕手。(キャッチャーを略して云ふことあり)。
 キャッチ・ボール [catch ball] 捕球戲。
 キヤディー [caddy] ゴルフ場で球を拾つたりゴルフアアのクラブを持つたりする使丁(多くは子供)。
 キャノン [cannon] (撞球用語) 手球が第一第二の目的球に續いて當ること。
 キヤバレー [cabaret] (佛) バー等にてステージの設備があつて、餘興としてダンス・レヴューを見せる所。
 キャビン [cabin] 船室。(ケビン又はカビンとも云ふ)。
 キャプセル [capsule] 膠囊。
 キャプテン [captain] (運動用語) 一團體の主將。船長。
 キャベツ [cabbage] 玉菜。
 キャラコ [calico] 白金中に似た光澤ある

布。
 キャンデー [candy] 砂糖菓子。
 キャンデー・ストア [candy store] 菓子店。
 キリシタン [Christao] (葡) 吉利支丹(基督教徒)。
 キリスト [Christ] 基督。
 キルク [cork] コルク樹から作つたゴムの如き柔かくて丈夫なもので栓、瓶の口等に用ふ。コルクとも云ふ。
 キロ [kilo] 千の義。(キロメートル、キロワット等)。
 キュー [cue] (撞球用語) 撞球棒。
 キュービー [Cupie] キュービッドより出でて、滑稽な顔をした人形のこと。
 キュービッド [Cupid] ローマ神話の愛の神。
 キュラソー [curacao] 西印度キュラソー島にて創造した酒の名。
 キング [king] 王。
 ギヤ [gear] 齒車。聯動機。裝置。
 ギター [guitar] 六弦琴(南歐の樂器)。
 ギブス [gypsum] 石膏。
 ギヤマン [diamant] (蘭) ガラス。金剛石。
 ギヤング [gang] アメリカの無賴團。
 ギルド [guild] 同業組合。
 ギンガム [gingham] 棒縞又は辨慶縞の綿布。

[ク・グ]

クー・デター [coup d'etat] (佛) 果斷政治。
 クーボン [coupon] 利札。切取割符。
 クイン [queen] 女王。トランプの女王。社交界の花形。
 クォーターリ [quarterly] 年四回發行の雜誌。
 クォーテット [quartette] 四人合奏。四部合唱。
 クック [cook] 料理人。
 クッション [cushion] 座蒲團。
 クラーク [clerk] 番頭。手代。銀行、會

社の社員。
 クライマックス [climax] 最高潮。頂點。
 クラシカル [classical] 古典的。
 クラシック [classics] 古典。
 クラス [class] 級。組。社會の等級。
 クラス・メイト [class-mate] 同級生。
 クラッチ [crutch] ボートの櫂を挟む又。松葉杖。
 クラブ [club] 俱樂部。
 クラリ(オ)ネット [clarionette] 一種の縦笛。
 クラリオン [clarion] 細管喇叭。
 クラレット [claret] 佛國産の赤葡萄酒。
 クランク [crank] 曲軸。
 クリー [coolie] 苦力。人足。
 クリーアランス・セール [clearance sale] 蕪拂。
 クリーニング [cleaning] 乾燥洗濯法。
 クリーム [cream] 乳脂。精髓。
 クリーヤリング [clearing] 手形交換。
 クリオソート [creosote] 煙脂。(殺菌劑防腐劑)。
 クリスチャン [Christian] 基督教徒。
 クリスマス [Christmas] 基督降誕祭。
 クリケット [cricket] 木製の球を長いステッキで小門へ打ち込んで勝敗を決する遊戲。
 クリップ [clip] 紙挟み。萬年筆などの抱子。
 クルー [crew] 船員、乗組員。短艇乗組の選手。
 クルーセイド [crusade] 社會的害惡に反對する熱烈な運動。
 クレー [clay] 粘土。白土。
 クレープ [crape] 紗縮緬。
 クレーン [crane] 起重機。
 クレイドル [cradle] 搖籃。
 クレジット [credit] 信用。債權。
 クレトン [cretonne] (佛) 帷帳等に用ふる一種の更紗。
 クレヨン [crayon] 色鉛筆。
 クレンザー [cleanser] 掃除器。
 クローヴァー [clover] つめくさ屬の草花。
 クローカス [crocus] きふらん。

クロス [cloth] 表紙布又は表紙用紙。
 クロス・ゲーム [close game] (競技用語) 接戦。
 クローズ・アップ [close up] (活動寫眞) 大寫し。
 クローネ [krone(獨)] 獨逸の金貨(十マルク)。
 クローム [chrome] 金屬元素の一。
 クローム・アラム [chrome alum] クローム明礬。
 クローム・エロー [chrome yellow] 霽金色。
 クロール [crawl stroke] (水泳用語) 現今競泳に最良と認められてゐる水泳法。(身體を水平に水に浮べて、足を真直に伸し膝は絶対に曲げないで、手掌で水を掻いて進む)。
 クロシェー [crochet] (佛) 鈎針編み。
 クロス [cross] 十字架。十文字。
 クロス・スティッチ [cross-stitch] 十字縫。
 クロケット [croquet] 一種の打球遊戲。
 クロノグラフ [chronograph] 秒時計。
 クロノメーター [chronometer] 時辰儀。(音樂用語) 節度計。
 クロライド [chloride] 鹽化物。
 クロロフィル [chlorophyll] 感光劑。
 クロロフォルム [chloroform] 麻醉劑。
 クーパー [coiffeur] (佛) 髮の結ひ方。
 クッドリール [quadrille] 四組舞踏。
 グァヤコール [guayacolum] 劇薬(澄明無色の液)。
 グタ・ペルカ [gutta-percha] ペルチャ護膜。
 グライダー [glider] 滑翔飛行機。
 グラウンダー [grounder] (野球用語) 匍球(ごろ)。
 グラウンド [ground] 運動場(グラウンドとも云ふ)。
 グラウ [glove] 手袋。野球又は拳闘用手袋。(グローブとも云ふ)。
 グラス・ワーク [glass-work] (映畫用語) トリックの一種で、硝子面に畫を描いて畫面を變へること。

グラデオラス [gladiolus] 唐菖蒲。
 グラフ [graphic] (グラフィックの畧) 畫報。
 グラファイト [graphite] 石墨。
 グラム [gram] 瓦(佛國衡量)。
 グラモホーン [gramophone] 平面盤蓄音機。
 グランチャー・ヒルム [grandeur film] (映畫用語) 大型フィルム。
 グランド・オペラ [grand opera] 大歌劇。
 グランド・ピアノ [grand piano] 音樂會用ピアノ。
 グランマー [grammar] 文法。
 グリーン [green] (ゴルフ用語) 草原。
 グリーン・ハウス [green-house] 温室。
 グリーン・ピース [green peas] 青豌豆。
 グリセリン [glycerine] (りすりん)。
 グリップ [grip] (庭球用語) ラケットの握り方を云ふ。
 グリル・ルーム [grillroom] 即席食堂。焼肉即席料理室。(近來カフェー、料理店と同義に用ひてゐる)。
 グリンドー [grinder] 研磨機。
 グループ [group] 集團、仲間。
 グルテン [gluten] 粘液素。
 グレーン [grain] 一封度の七千分の一。
 グレープ・フルート [grape-fruit] ちやばんの一種。
 グロ [grotesque] (グロテスクの畧) 奇怪なこと。奇怪な動作をするもの。
 グロス [gross] 一グロスは十二打。
 グロス・トンネージ [gross tonnage] 總噸數。
 グッッシュ [gouche] (佛) 不透明なドロドロの繪。(圖案家などのよく用ふるもの)

[ケ・ゲ]

ケース [case] 箱。彈丸の裝藥管。
 ケーデンス [cadence] 韻律。(音樂にて) 靜止法。
 ケーブル [cable] 錨索。海底電線。
 ケーブル・カー [cable-car] 索條車(登山

鐵道等に用ふるもの)。
 ケーン [cane] 藤の葦。鞭。
 ケイヴ・ヴォート [cave voute] 飛行機の投下爆彈を避ける爲めの安全地下室。
 ケイブ [cape] 肩マント。短い廻し外套。
 ケチョップ [ketchup] 食卓用香味ソース。
 ケチン [kitchen] (キッチン) 臺所。
 ケット [blanket] (ブランケット) 毛布。
 ケビン [cabin] キヤビン参照。
 ケフィール [kefir] 牛乳製の沸騰飲料。
 ケレオソート [creosote] クレオソート参照。
 ケロセン [kerosene] 燈火用の石油。(ケロシン、オイルと同じ)。
 ケント [Kent] 英國ケント州に於て製られる厚紙にて質よく雅致ありて名刺等に用ふるもの。
 ゲージ [gauge] 標準器。計器。鐵道のレールの幅。
 ゲートル [gaiter] 脚絆。
 ゲーム [game] 競技、仕合。
 ゲーム・セット [game set] 競技終了。
 ゲーヤ [gear] ギヤ参照。
 ゲイザー [geyser] 間歇泉。
 ゲット・セット [get set] 競走技で出發の時競走者にかかる第二の號令。
 ゲラ [galley] (ガリーの畧) 活字の棒組盤。
 ゲルマニウム [germanium] 金屬元素の一。
 ゲルンデー [guernsey] 毛絲編の厚ジャケット。

[コ・ゴ]

コークス [cokes] 焦炭。
 コース [course] 走路。競技場。競馬場。
 コースター [coaster] 内航船。
 コースティング・ヴェッセル [coasting vessel] 近海航路船。
 コースティング・トレード [coasting trade] 沿海貿易。
 コーチ [coach] (運動用語) 競技の指導。

コーチャー [coacher] 運動競技其他の指導者。
 コーチン [kochin] 鶏の一種(交趾支那産)。
 コーデリア [corderia] 羅紗紙に似た堅い紙で書物の表紙等に用ふるもの。
 コート [coat] 洋服の上衣。
 コート [court] 庭。テニス競技場。
 コード [cord] 紐線(電線の)。
 コーオペレーション [cooperation] 協力。共同組合。
 コーヒー [coffee] 西洋人が茶の代りに飲むもの、今日では日本人も殆んど誰れにても飲用する。
 コーヒー・シロップ [coffee-shirop] コーヒーと砂糖などを調合したもので湯又は水を注いで飲用する。
 コーム [comb] 櫛。
 コーラス [chorus] 舞踏唱歌隊。合唱。
 コーラス・ガール [chorus-girl] 歌劇等の唱ひ女。端役の踊子。
 コーラン [Koran] イスラム教の聖典。
 コーリフラワー [cauliflower] 花甘藍。
 コール [coal] 石炭。
 コール [corduroy] コール天のズボン。
 コールター [coaltar] 有煙石炭より採りたる黒色の液體(アエリン染料を生じ防腐劑として用ふる)。
 コールド・ゲーム [called game] 野球仕合で五回まで仕合續行の後止むを得ざる事情にて審判者が仕合終了を宣した場合兩チームの攻撃回数同数の時の得點を以て勝負を定めること。
 コールド・ビーフ [cold beef] 冷牛肉(西洋料理の一種)。
 コール・マネー [call-money] 仲介業者への當座貸付金。
 コール・ローン [call-loan] 當座貸付金。
 コーン [cone] 圓錐。
 コーン・ビーフ [corned beef] 鹽漬の牛肉。
 コーン・フレーキ [cornflakes] 玉蜀黍を薄片にせるもの。
 コイル [coil] 捲線(絶縁線を螺旋状に巻

いたもの。
 コカcola [cocacola] コ、アの一種(飲料)。
 コカイン [cocaine] コカの葉から採つた局部麻酔剤。
 コキール [coquille] (佛) 西洋料理の一種。
 コクテル [cocktail] 混成酒(カクテルとも云ふ)。
 コケチッシュ [coquettish] あだつばい。
 コケット [coquet] 嫵媚者。
 ココア [cocoa] カ、オの種子から採つたもので、コーヒーに似た飲料。
 ココアナット [cocoa-nut] 椰子の實。
 コサック [Cossack] 露國コサック地方の民で輕騎兵として有名である。
 コシン [cushion] (撞球用語) クッションのこと。
 コスメチック [cosmetic] 化粧品の種類で、頭髮及び口髭等を美しくする煉り油。
 コスモス [cosmos] 淡紅色又は白色の西洋花(秋櫻)。
 コスモポリタン [cosmopolitan] 世界を家とする人。
 コダック [Kodak] 米國イーストンマン會社製のフィルム入寫眞機の名稱なるも、今日にては寫眞機の總稱。
 コック [cock] 活栓。からん。
 コック [cook] クックと同じ(料理人)。
 コックスン [coxswain] 舵手(端艇競漕の)。
 コットン [cotton] 木綿。綿。
 コットン・ヤーン (cotton yarn) 綿糸。
 コッパー [copper] 銅。銅貨。
 コピー [copy] 寫し。
 コピー・プレス [copying-press] 複寫器。
 コップ [kop] (蘭) 硝子製の湯呑又は盃。
 コニヤック [Cognac] 葡萄から作つた一種の西洋酒。
 コバルト [cobalt] ニッケルに似た金屬。コバルト色(濃青色)。
 コヒーラー [coherer] 無線電信用の檢波器。
 コブラ [cobra] 印度産の毒蛇。
 コブラ [copra] 椰子の實の乾したもの。

コベック [copeck] 露國の銅貨。
 コミック・オペラ [comic opera] 喜歌劇。
 コミック・ダンス [comic dance] 滑稽舞踏。
 コミンテルン [kommintern] (獨) 國際共產黨、第三インターナショナル。
 コメデイ [comedy] 喜劇。
 コメディアン [comedian] 道化役者。
 コラム [column] 欄(新聞紙の一段)。
 コリーグ [colleague] 同僚。
 コルク [cork] キルクと同じ。
 コルセット [corset] 西洋婦人が姿勢を整へる爲め腹部を締めるに用ふるもの。
 コルネット [cornet] 樂器で喇叭の一種。
 コレクション・ビル [collection bill] 取立手形。
 コレスポネント [correspondent] 通信員。
 コレラ [cholera] 虎列刺。
 コロイド [colloid] 膠狀物。
 コロシント [colocynth] ころしんと下劑。
 コロタイプ [collo type] 化學線にて蝕刻せる膠の薄層より印刷したる一種の寫眞版。
 コロケ [croquette] 細切肉、馬鈴薯等を圓めて煎焼したる西洋料理。
 コロップ [croup] 格魯布(喉頭又は氣管の炎症で咳が出て呼吸の甚だ苦しい病氣)。
 コロップ [cork] コルクの訛。
 コロナ [corona] 太陽の白光。
 コロロダイン [chlorodyne] 麻酔劑、鎮痛劑として用ふるもの。
 コワイヤ [choir] 唱歌隊。
 コンヴァーセーション [conversation] 會話。
 コンクール [concours] 繪畫等の共進會。
 コンクリート [concrete] 混凝土。
 コンコイド [conchoid] 螺錐線(數學用語)。
 コンサート [concert] 音樂會。
 コンソメ [consomme] (佛) 肉のスープ。
 コンタクト・ブリーカー [contact breaker]

電流遮斷器。
 コンダクター [conductor] 音樂の指揮者。
 コンチェルト [concerto] (伊) 協奏曲。(管絃樂の伴奏を有するピアノ、ヴァイオリン又はセルロ等の獨奏曲)。
 コンテスト [contest] 競技、争闘。
 コンテナ [container] 荷造函。
 コンテンツ [contents] 目次。
 コンデンサー [condenser] 凝縮器。蓄電池。
 コンデンス・ミルク [condensed milk] 牛乳を煮つめたもの(多くは罐詰めにして賣る)。
 コント [conte] (佛) 短篇小説。
 コントゥール [contour] 輪廓。
 コントラスト [contrast] 對照。
 コントロール [control] (野球用語) 投手が投球に際しその高低緩急等を自由自在に統御すること。産兒制限。
 コンパートメント [compartment] 列車の車室。
 コンパクト [compact] 簡易化粧品。
 コンパス [compass] 羅針盤。
 コンパニー [company] 會社(カンパニーとも云ふ)。
 コンビネーション [combination] 組合せ。
 コンフェクショナリー [confectionery] 菓子類。菓子店。
 コンプロマイズ [compromise] 妥協。
 コンフェイター [confeitos] (葡) 金平糖(菓子)。
 コンポート [compote] 砂糖漬又は砂糖漬の果物。
 コンマ [comma] 小數點。
 コンマーシャル・エージェント [commercial agent] 貿易事務官。
 コンミッション [commission] 手数料。祕密に頭をハネルことをも云ふ。
 コンミテュー [committee] 委員又は委員會。
 コンミュテーター [commutator] (電氣用語) 整流子。

コミュニケー [communique] (佛) 公報。
 コミュニズム [communism] 共產主義。
 コンモンセンス [commonsense] 常識。
 ゴー [go] 進め、行け。
 ゴーダウン [godown] 倉庫。
 ゴール [goal] 決勝線(競走)。蹴球、ホッケーの壘門。
 ゴール・キーパー [goal-keeper] (蹴球用語) 壘門守備者。
 ゴールド [gold] 黄金。金錢。
 ゴシック [gothic] ゴシック活字體。
 ゴシップ [gossip] 雜談。
 ゴノ [gonorrhoea] 淋疾。
 ゴノコッケン [Gonococcen] (獨) 淋菌。
 ゴブラン [gobelin] (佛) ぶらん織。巴里産の花紙。
 ゴム [gum] 護紙(ガムと同じ)。
 ゴリラ [gorilla] 大猩猩。
 ゴルフ [golf] 廣き平野に各百ヤード以上宛の距離を置き、十八ヶ所以上三十ヶ所位穴を設け最も打球數少くて順々に球を打込みたるを勝とする競技。
 ゴルファー [golfer] ゴルフをする人。
 ゴルフ・リンク [golf links] ゴルフ競技場。
 ゴロフク [grofgrein] (蘭) 一種の毛織物。
 ゴンドラ [gondola] (伊) 伊太利のヴェニスで有名な小船。

[サ・ザ]

サーヴ [serve] (庭球用語) 球を打ち出す。
 サーヴィス [service] 奉仕。
 サーヴィス・ガール 女給。
 サーカス [circus] 曲馬團。曲馬場。
 サージ [serge] 洋服地又は和服地として用ふるセル。
 サーチライト [search-light] 探照燈。
 サーディン [sardine] 鰯。
 サードニックス [sardonix] 赤縞瑪瑙。
 サーバント [servant] 下僕。
 サーフェース・プリンチング [surface-

printing 凸版印刷。
 サーベル [sabre] (佛) 軍刀。
 サーペント [serpentine] 外国に行く人を埠頭にて見送る時、見送人が贈る幅の狭い五色の巻紙。
 サーモス [thermos] 魔法罐。
 サイエンス [science] 科學。
 サイクログラフ [cyclograph] パノラマ的寫眞機。
 サイズ [size] 寸法。
 サイダー [cider] 一種の清涼飲料。
 サイド・ウォーク [side-walk] 歩道。
 サイド・カー [side-car] 自動自轉車の側に人の乗れる座席のあるもの。
 サイド・ストローク [side-stroke] 横泳ぎ。
 サイフォン [siphon] 曲管。吸水管。
 サイレン [siren] 號笛。
 サイレント [silent] 無聲映畫。
 サイン [sign] 相圖。符號。
 サウンド・ピクチャー [sound picture] 發聲映畫。
 サウンド・ボックス [sound box] 蓄音器の發聲部。
 サキソホーン [saxhorn] 洋樂器の一種でV字形の喇叭。
 サクラメント [sacrament] 聖晚餐。
 サクリファイス・ヒット [sacrifice hit] (野球用語) 犠牲打。
 サシズ [sausage] 腸詰(豚の腸に味を附けた肉類を詰めたもの)。
 サタン [satan] 惡魔。
 サッカリン [saccharin(e)] コールターより得るもので其甘味砂糖の三百倍。
 サック [sack] 鞆。囊。
 サック・コート [sackcoat] 背廣服。
 サック・レース [sack-race] 袋跳競走。
 サドル [saddle] 自轉車などの鞍。
 サナトリウム [sanatorium] 療養所。
 サファイヤ [sapphire] 青玉。藍寶石。
 サフラン [saffron] 蕃紅花(染料、解熱劑等に用ふ)。
 サフレーション [suffrage] 選挙。選舉權。
 サブスクリプション [subscription] 寄附金。

サボタージュ [sabotage] (佛) 怠業。
 サマリウム [samarium] 金屬元素の一。
 サラサ [saraca] (葡) 更紗。
 サラダ [salad] 生菜料理。
 サラリー(マン) [salary(man)] 月給(取り)。
 サリシン [salicin] 柳皮素。
 サルーン [saloon] 大廣間。食堂。酒場。(普通サロンで通つてゐる)。
 サルバルサン [salvarsan] 六〇六(微毒注射薬)。
 サルタン [Sultan] 土耳其皇帝。
 サルチルサン [salicylic acid] サリチル酸(解熱劑又は利尿劑として使用せらる)。
 サルベーション・アーミー [Salvation Army] 救世軍。
 サロン [Salon] (佛) 客間。佛國巴里に於て毎年開催する美術展覽會。
 サンスクリット [Sanskrit] 梵語。
 サンタクロース [Santa Claus] クリスマスの前夜煙突から入つて来て子供等の贈物を靴下の中に入れて行くこと云ふ老人。
 サンチーム [centime] (佛) 佛國の貨幣、フランの百分の一。
 サンチ(メートル) [sentimetre] (佛) 厘(サンチメートル)。
 サンデー [Sunday] 日曜日。
 サンディカリズム [syndicalism] (佛) 勞働共産主義。
 サントニン [santonin] 菊科植物サントニカより採取せる寄生蟲驅除劑。
 サンド・ウィッチ [sandwich] パンとパンとの間に肉片などを挟んだ食物。
 サンド・ウィッチ・マン [sandwichman] 廣告屋(廣告板を身體の前後にして歩くから斯く云ふ)。
 サンプル [sample] 見本。
 サンマー・スクール [summer school] 夏季學校。
 サンマー・ハウス [summer-house] 避暑地の別荘。
 ザー [Czar; Tsar] 舊露國皇帝。
 ザボン [zabon] 朱樂。

[シ・ジ]

シーク・ガール [chic girl] 粹な娘(モダン・ガールより上品な近代的の娘)。
 シーク・ボーイ [chic boy] 粹な青年(モダン・ボーイのあくどさを抜いたスマートな近代的青年)。
 シース [sheath] 鞘。
 シーズン [season] 季節。
 シーソー [see-saw] T字形上の板の両端に跨りて交互に上下する遊戯。
 シート [seat] 座席。
 シート [sheet] 敷布。(シーツとも云ふ)。
 シート・ノック [seat knock] (野球用語) 試合開始前に行ふ守備練習。
 シー・プレーン [sea-plane] 水上飛行機。
 シール [seal] 海豹の毛皮。
 シーン [scene] (映畫用語) 場面。
 シーン・プロット [scene plot] (映畫用語) 場面の豫定設計。
 シアトリカル [theatrical] 劇場的。
 シアトリカルズ [theatricals] 素人劇。
 シャボン [jabon] (西) 石鹼。
 シューカー [shaker] カクテルを作る爲めに振蕩する調合器。
 シューク・ハンド [shake-hands] 握手。
 シェード [shade] ランプの笠。
 シュミーズ [chemise] 婦人の肌衣。
 シェリー [sherry] 西班牙産の一種の酒。
 シェル [shell] 最も軽い競漕用端艇。
 シガー [cigar] 葉巻煙草。
 シガレット [cigarette] 紙巻煙草。
 シクラメン [cyclamen] 一種の西洋草花。
 シグナル [signal] 信號。
 シチュー [stew] 肉類に野菜などを取り交ぜて煮た西洋料理。
 シップ [ship] 船。
 シトリック・アシッド [citric acid] 枸橼酸($H_2C_5H_6O_7$)。
 シトロネ [citron] 清涼飲料水。
 シネホーン [cinephone] 發聲映畫器。
 シネマトグラフ [cinematograph] 活動寫眞。

シネマ・ドラマ [cinema drama] 映畫劇。
 シネラリア [cineraria] 西洋草花の一種。
 シネリオ [scenario] (伊) 劇の筋書。
 シネンシス [primula chinensis] 櫻草屬の西洋草花。
 シャース [chasse] (佛) 口直し酒(コーヒー又は煙草の後で飲む一杯のリキユー酒)。
 シャーミーズ [chemise] 婦人用肌衣。
 シャーラバーン [char-a-banc] (佛) 遊覽用大型馬車又は自動車。
 シャーロット [charlotte] 果物、クリームをパンで包んだ一種のプディング。
 シャツ [shirt] 襯衣。
 シャッター [shutter] 開閉器。
 シャッポー [chapeau] (佛) 帽子。
 シャバ [saba] (梵) 娑婆。
 シャフト [shaft] 廻轉軸。
 シャベロン [chaperon] (佛) 附添(若い未婚婦人が公會の席に出たり外出したりする時に附添ふ婦人)。
 シャボテン [cactus] 仙人掌。
 シャモ [Siam] 鶏の一種(始め暹羅國から來たもの)。
 シャリベツ [syrup] 舍利別。
 シャワー・バス [shower bath] 灌水浴。
 シャン [schön] (獨) 「美しい」と云ふ意の獨語の訛り、美人の意にて用ふ。
 シャンプー [shampoo] 頭を洗ふこと。
 シャンペン [Champagne] 三鞭酒。
 シュー [shoe] 靴。
 シュー・クリーム [chou à la cream] (佛) 牛乳、メリケン粉、鶏卵、砂糖を原料として作った一種の西洋菓子。
 シュート [chute] 荷滑り(高い所から物を滑らして移す器)。
 シュミーゼット [chemisette] 婦人用胸衣。
 ショー・ウィンドー [show window] 商品陳列窓。
 ショート・ケーキ [short-cake] 麥粉と多量のバター、砂糖で作った輕脆パン。
 ショート・ストップ [short-stop] (野球用語) 遊撃手。

ショール [shawl] 肩掛。
 ショット [shot] (競技用語) 鐵彈。
 ショット・ putt [shot put] (競技用語) 鐵
 彈投げ。
 ショッファー [chauffeur] 自動車運転手。
 ショップ [shop] 商店。工場。
 ショップ・ガール [shop-girl] 女店員。
 シヨベル [shovel] 鋤。
 シラブル [syllable] 音節。綴り音。
 シリーズ [series] 文庫。叢書。
 シリカ [silica] 珪土。
 シリス [cilice] 山羊の毛で作った毛布、
 シャツ。
 シリン [cylinder] 時計機械の一種 (シ
 リンドルとも云ふ)。
 シルヴァー [silver] 銀。
 シルヴァー・スクリーン (映畫用語) 銀幕。
 シルエット [silhouette] 影繪。
 シルク・ハット [silk-hat] 禮式用の絹帽子。
 シルケット [silket] 人造絹織。
 シルフ [Sylph] 氣仙(空中に棲むと云ふ
 妖精)。
 シ(ル)リング [shilling] 英貨、一ポンド
 の二十分の一。
 シロッコ [sirocco] 熱風(特にアフリカ
 の)。
 シロップ [syrup] 濃厚糖汁。(飲料)
 シンガー [singer] 元來、歌手のことなれ
 ど藝妓の意に用ふ。
 シングル [single] (庭球用語) 單試合。
 シングル・レール [single rail] 鐵道用軌
 道。
 シングレット [singlet] 肌衣。裏なしチ
 ヨッキ。
 シンジング [singeing] 理髮後に毛焼き
 をすること。
 シンチカリズム [syndicalism] 産業革命
 主義。(サンヂカリズムとも云ふ)。
 シンヂケート [syndicate] 企業組合。
 シンバル [cymbal] 饒鉦の類。
 シンパサイザー [sympthizer] 一般には
 同情者の意であるが、我國では「左翼運
 動に對して理解と同情を持つもの」の意
 に用ひられてゐる。略してシンパと云つ

てゐる。
 シン・フェーン [Sinn Fein] アイルラン
 ド革命派。
 シンホニー [symphony] 交響樂。
 シンホニー・オーケストラ [symphony
 orchestra] 交響樂團。
 ジャスターゼ [diastase] 消化劑。
 ジャテルミー [diathermy] 電氣應用治療
 法の一環、透熱術(デアテルミーとも云
 ふ)。
 ジゴマ [Gigoma] 探偵小説中の悪漢の
 名から、極悪非道の人。
 ジバン [giban] (葡) 襦袢。
 ジフィリス [syphilis] (獨) 梅毒。
 ジフテリア [diphtheria] ぢふてりマ。
 ジブシー [gypsy] 漂浪種族の女。
 ジャーナリスト [journalist] 新聞、雑誌
 記者。
 ジャーナリズム [journalism] 新聞記者
 業。
 ジャーナル [journal] 新聞、雑誌。
 ジャヴェリン [javelin] (競技用語) 槍投
 げ。
 ジャケツ [jacket] 短い上衣。
 ジャズ [jazz] アメリカ印度人から流行し
 た一種の騒々しい音樂又は踊。
 ジャズ・ソング [jazz song] ジャズ式の歌。
 ジャズ・バンド [jazz-band] ジャズ音樂隊。
 ジャック [Jack] 水夫、船乗。
 ジャック・ナイフ [jack-knife] 大形の畳み
 小刀(水夫のよく用ふるもの)。
 ジャム [jam] 果汁に砂糖を加へて煮詰め
 たる食料品、パンなどにつけて食す。
 ジャムボリー [jamboree] 少年團運動競
 技會。
 ジャンク [junk] 支那の小船。
 ジャンパー [jumper] 頭中附の毛皮のジ
 ケツ。作業服。
 ジャンプ [jump] 跳躍。
 ジラフ [giraffe] 麒麟。
 ジルコニウム [zirconium] 金屬元素の
 一。
 ジュー [Jew] 猶太人。(慈の深い人)。
 ジュピター [Jupiter] ローマ神話中の主

神。
 ジュリー [jury] 陪審員。
 ジョーゼット [georgette] 目のつんだ極
 薄地の組くれーぶ。
 ジン [gin] 麥より蒸溜し杜松子の汁を以
 て味付けした強烈な酒。
 ジンク [zink] 亜鉛。
 ジンゴイズム [jingoism] 極端侵略主義。
 ジンジャ・エール [gingerale] 生薑で味を
 つけた一種の炭酸飲料。

[ス・ズ]

スーヴニール [souvenir] (佛) 恵み出、追
 憶。
 スーツ [suit] 洋服一着。
 スート・ケース [suit-case] 洋服が二三着
 入る位の旅行鞆。
 スープ [soup] 吸物(ソップとも云ふ)。
 スイート・ハート [sweet-heart] 情人。
 スイミング [swimming] 水泳。
 スウィート・ピー [sweet pea] 罌香豌豆。
 スウィッチ [switch] 電氣接觸器。
 スカーツ [skirt] 裾。女袴。
 スカーフ [scarf] 襟巻。肩掛。
 スカ(一)ル [scull] 両手に一本宛持つて
 漕ぐ短い櫂。並にその漕法。
 スカイ・サイン [sky sign] 空中廣告。
 スカル [skull] 頭蓋。
 スカunk [skunk] 米國産の鼯鼠に似た
 動物。
 スカンボルド・エッグス [scrambled eggs]
 鶏卵を煮ながら掻き交ぜた料理。
 スキー [skii] 雪滑り。
 スクナー [schooner] 縦帆装置の帆船。
 スクラッチ・ヒット [scratch hit] (野球用
 語) 野手のエラー又は不規則なバウンド
 等の爲めにセーフとなつた打球。
 スクラップ・ブック [scrap-book] 抜萃帳。
 スクリーン [screen] 活動寫眞の映寫幕。
 スケート [skating] 氷滑り。
 スケート・リンク [skating-rink] 氷上滑
 走場。
 スケジュール [schedule] 汽車などの時間

表。
 スケッチ [sketch] 寫生。小品。
 スコア [score] 總得點。
 スコア・ブック [score-book] 競技點數
 記入帳。
 スコア・ボード [score-board] 競技點數
 揭示板。
 スコッチ [Scotch] 蘇格蘭の。
 スコッチ [tweed] すこつち織。(スコット
 ランドの南部より多く製出されるもの)。
 スコップ (scoop); [shovel] 鋤。
 スコンク [skunk] 競技の零敗。
 スター [star] 人氣俳優(特に活動寫眞
 の)。
 スタート [start] (競技用語)。出發。出
 發點。
 スタイル [style] 風采。様子。
 スタジアム [stadium] 競技場。
 スタジオ [studio] 畫家又は寫眞家の製
 作室。
 スタンド [stand] 觀覽臺。物賣臺。
 スタンド・ガール [stand-girl] 和製英語。
 百貨店前、郊外電車終點驛前等其他市内
 の要所に粹なユニフォームを着け小さな
 鞆を下げて立つてゐて、五錢、十錢の料
 金を貰つて手紙の取つぎをする新職業婦
 人。「生きた告知板」とでも云ふべきもの。
 スタンプ [stamp] 郵便局の消印。
 ステーション [station] 停車場。
 ステージ [stage] 舞臺。
 ステアリン [stearine] 硬脂(石鹼等の原
 料)。
 ステートメント [statement] 陳述書。教
 書。
 スターム [steam (heating)] 蒸氣暖房。
 ステインド・グラス [stained glass] 裝飾
 硝子。
 ステッキ [stick] 杖。植字用器。
 ステトスコープ [stethoscope] 聽診器。
 ステロ(タイプ) [stereotype] 紙型鉛板。
 ステンシル [stencil] 形付板。刷り込み
 型。
 ストーフ [stove] 暖爐。
 ストック [stock] 在庫品。

ストップ [stop] 止れ。
 ストップ・ウォッチ [stop-watch] 競技などに用ふる、何秒何十分の一まで分る時計。
 ストライキ [strike] 同盟罷業。
 ストリキニーネ [strychnine] 興奮劑、心臟強壯劑として用ふる藥物。
 ストローク [stroke] (水泳の)一掻き。(端艇の)一漕。
 ストロップ [strop] 磨筆。
 ストロベリー [strawberry] 苺。
 スナップ・ショット [snapshot] 早取寫眞。
 スノー・セット [snow set] 防雪設備。
 スパイ [spy] 探偵。間諜。
 スパイク [spike] 滑り倒れることを防ぐために裏面に特殊の釘を打ち付けたる競技者の穿く靴。
 スパッツ [spats] 布製の短いゲートル。
 スパッド [spad] 小型の複葉飛行機(快速力のもの)。
 スパナー [spanner] 螺旋廻し。
 スバルタカス [Spartacus] 獨逸の過激主義者の團體。
 スピード [speed] 速力。速度。
 スピード・アップ [speed-up] 超特急。
 スピンドル・アーム [spindle arm] 自動車の制動器。
 スフィンクス [sphinx] 謎。
 スプーン [spoon] 匙。
 スプリンター [sprinter] 短距離競走手。
 スプリント [sprint(race)] 短距離競走。
 スペース [space] (印刷用語)活版組版用の小さな込物。
 スペード [spades] トランプのすべード。
 スペクトル [spectrum] 三稜鏡などの分光器にて分解した光線によつて成る色帯。
 スペクトロスコープ [spectroscope] 分光器。
 スペシメン [specimen] 見本。
 スペル [spelling] 綴字。
 スポーク [spoke] 車輪の輻。輪止め。
 スポーツ・コート [sports-coat] 競技者用上衣。

スポーツマン [sportsman] 運動家。
 スポット [spot] 運動競技。
 スポイト [spuit](蘭) 注入管。
 スポンジ [sponge] 海綿。
 スマート [smart] 「利巧な」、「如才のない」と云ふ意であるが、我が國に於ける流行語としては「モダンな」、「當世風の」と云つたやうな意で用ひられてゐる。
 スマッシュ [smash] (庭球用語)高く來た球を非常な力で打ち下す打ち方。
 スモーキング [smoking] 喫煙。
 スモッキング [smocking] 婦人用のシャツ。
 スモール・パイカ [small pica] (印刷用語)五號活字。
 スライダー [slider] 端艇の滑席。
 スライド [slide] 幻燈板。
 スランプ [slump] 人氣落、物價暴落等の意から、野球選手が何かの調子で當らなくなつたこと。
 スリー・バルブ・セット [three bulb set] (ラヂオ)三球装置。
 スリッパ [slipper] 上靴。上草履。
 スリル [thrill] ゴつとする思ひ、戰慄。
 スレート [slate] 石板。
 スレッパー [sleeper] 鐵道の枕木。
 スローガン [slogan] 標語。
 ズック [duck] の訛。丈夫な麻織物。
 ズロース [drowers] 積股。

【セ・ゼ】

セーヴル [sèvre] 佛國セーヴル産の陶器。
 セーフ [safe] (野球用語)投手が安全にベースに入つたこと又はベースを保つたこと。
 セーフ・イン [safe in] (野球用語)投手が走塁して生還すること。
 セーフティー・ゾーン [safety zone] 安全地帯。
 セーフ・ヒット [safe-hit] (野球用語)安打(安全に一壘を得た打球)。
 セーブル [sable] 黒貂の皮。

セーラー [sailor] 水夫。海兵。
 セキスタント [sextant] 六分儀。
 セクション・ペーパー [section-paper] 碁盤目のある製圖用紙。
 セCOND [second] 秒。(住々、懐中時計の意に用ふ)。
 セステット [sestet] 六重唱。六重奏。
 セセクション [secessionism] 分離論。
 セッター [setter] 一種の獵犬。
 セット [set] (庭球用語)一方が六ゲームを勝つて、勝負のついたこと。
 セット [set] (映畫用語)舞臺設計。
 セット [set] 一組。
 セビヤ [sepia] セビヤ色。
 セミソフト・カラー [semi-soft collar] 半ソフト、カラー。
 セミナリー [seminary] 大學の研究科。養成所。
 セミファイナル・ラウンド [semi-final round] 準決勝戦。
 セメント [cement] 粘土と石灰石の混合物を焼いて粉碎したもの、水で捏ねると自然に硬化する。
 セラー [cellar] 地下室。
 セリウム [cerium] 金屬元素の一。
 セル [serge] の畧。
 セルローズ [cellulose] 纖維素。
 セルロイド [celluloid] 綿火薬と樟腦にて作れる物質。
 セレネード [serenade] 小夜曲。
 セレリー [celery] おらんだみつば。
 セロ [cello] 樂器の名。
 センセーション [sensation] 大評判。
 センター [centre] (野球用語)中堅手。
 センチグラム [centigramme] 厘(一グラムの百分の一)。
 センチメートル (centimetre) 厘(一メートルの百分の一)。
 センチメンタル [sentimental] 感傷的な(畧してセンチとも云つてゐる)。
 センチュリ [century] 世紀。
 セント (cent) 米貨一仙(一弗の百分の一)。
 ゼッパ [zephyr] 刺繍用の毛織。

ゼネ・スト [general strike] の畧。總罷業。
 ゼノン [xenon] 氣状元素(セキノンとも云ふ)。
 ゼラチン [gelatin] 膠。
 ゼラチン・ペーパー [gelatin paper] 印畫紙。
 ゼラニウム [geranium] 四季を通じて咲く西洋草花。
 ゼリー [jelly] 果漿。
 ゼルシー [jersey] ゼルシー島原産の一種の乳牛。メリヤスのシャツ。
 ゼロ [zero] 零。
 ゼントルマン [gentleman] 紳士。

【ソ・ゾ】

ソーサー [saucer] 下皿。
 ソース [sauce] 西洋醬油。
 ソーセージ [sausage] サシズの項参照。
 ソーダ・ウォーター [soda-water] 曹達水。
 ソーダ・ファウンテン [soda fountain] 曹達水噴出機。
 ソープ [soap] 石鹼。
 ソールト [salt] 鹽。
 ソヴィエット [Soviet] 露國の過激派政府。
 ソケット [socket] 電球受け。
 ソッカー [socker] ア式蹴球。
 ソップ [soup] スープの項参照。
 ソディウム [sodium] ソディウム。ナトリウム。
 ソナタ [sonata] 奏鳴樂。
 ソネット [sonnet] 短詩。
 ソファー [sofa] 長椅子。
 ソフト・カラー [soft collar] 柔かい襟。
 ソフト・ドリンク [soft drink] アルコール氣の無い飲料。
 ソフト・ハット [soft hat] 中折帽子。
 ソフト・フォーカス [soft-focus] 軟焦點(寫眞のピントの合つてゐないこと、ぼんやりした人間、狐につままれたやうなこと)。
 ソプラノ [soprano](伊) 最高音。
 ソマトーゼ [somatose] 肉類から採製し

消化營養劑。
 ソロ【solo】(伊) 獨唱曲。獨唱。
 ソロイスト【soloist】 獨唱家。

[タ・ダ]

ターキッシュ・バス【Turkish bath】 土耳其風の蒸風呂。
 タータン【tartan】 格子縞羅紗。
 ターニング・ポイント【turning point】 轉換期。
 ターツ【tart(s)] 果實入りのパイ。
 ターバン【turban】 回教徒の頭巾。
 タービン【turbine】 渦輪(客船用の發動機として用ひらる)。
 ターミナス【terminus】 終點驛。
 ターム【term】 期限、術語、學期。
 ターリマン【tallyman】 見本品を持つて歩き註文を取り品物を後で届ける商人。
 タール【tar】 煙脂。
 ターン【turn】 (競技用語) 圓盤投に於て圓盤を投げる刹那體を廻して足を交はすこと(ターニングとも云ふ)。
 タイ【neck-tie】 の髷。襟飾り。
 タイタン【Titan】 巨人。
 タイトル【title】 資格。競技等の覇權。映畫の字幕。
 タイピスト【typist】 タイプライター使用者。
 タイプ【type】 雛形。様子。活字。
 タイプライター【typewriter】 印字機。
 タイム【time】 時。
 タイムズ【Times】 時報、新聞(特にロンドン。タイムズ。ニューヨーク。タイムズ等)。
 タイム・テーブル【time-table】 時間表。
 タイム・ボール【time-ball】 表時球。
 タイムリー【timely】 野球のタイムリー、ヒット(適時安打)の如く、時宜を得た。
 タイヤ【tyre; tire】 自轉車、自動車等の空気入りゴム輪。
 タイル【tile】 瓦。敷石。
 タオル【towel】 の記。西洋手拭。

タカ・ジスターゼ【Takadiastase】 高峰博士が米國に於て發見した消化劑。
 タキシード【tuxedo】 晩餐に用ふる背廣型の禮服。
 タクシー【taxi】 辻自動車。
 タクト【tact】 (音樂用語) 拍子。
 タッチング【tattooing】 縁取りなどに多く用ふる一種の編物。
 タックル【tackle】 (蹴球用語) ラ式蹴球で球を持つて走る敵の脚を目掛けて自分の身を投げかけ、敵を倒してその活動を妨げること。
 タップ【tub】 鐵車。
 タッフィー【faffy】 一種の糖果。
 タバコ【tobacco】 煙草。
 タブー【taboo】 禁忌。
 タブレット【(tablet); staff】 鐵道に於て用ふる表示器。
 タブレット【tablet】 錠劑。
 タマニー・ホール【Tammany Hall】 腐敗的政治團體。
 タリウム【thallium】 金屬元素の一。
 タワリシチ【tawarisch】 (露) 友達、仲間の意から、社會運動者や勞動運動者間に於て「同志」の意に用ひてゐる(タワリシとも云ふ、又女性に對してはタワールカ(tawarka)といふ)。
 タン【tongue】 料理用の牛の舌。
 タンク【tank】 瓦斯、水、油等を溜めて置く槽。陸軍では裝甲車。
 タングステン【tungsten】 元素、(電球の發光線に廣く用ひられてゐる)。
 タン・シチュー【stewed tongue】 トロ火で蒸煮にした牛の舌の料理。
 タンタラム【tantalum】 金屬元素の一。
 タンニン【tannin】 櫛の皮等の單寧酸に富んだ樹皮から採つた無色塊狀の染料。
 タンブーリン【tambourine】 ダンサーが手に持つて踊る鈴附の團扇太鼓。
 ダーウィニズム【Darwinism】 ダーウィン説。進化論。
 ダーク・チェンジ【dark change】 暗轉(演劇中明りを消して暗中に場面を作り變へること)。

ダース【dozen】 一打(十二個)。
 ダービー【derby】 ダービー競馬(一七八〇年、倫敦近郊に於てダービー伯が始めた有名な競馬)から廣く競馬と云ふ意に用ふ。
 ダイアナ【Diana】 ジュピターの子でアポロの妹。月の神である。
 ダイアリ【diary】 日記。
 ダイブ【dive】 (水泳用語) 飛び込み。
 ダイナマイト【dynamite】 硝酸グリセリンを硅藻土、鋸屑等に吸収せしめて造れる烈しき爆發藥。
 ダイナモ【dynamo】 電氣發動機。
 ダイニング・カー【dining-car】 食堂車。
 ダイニング・ルーム【dining-room】 食堂。
 ダイム【dime】 米貨十仙。
 ダイアボロ【diabolo】 鼓の胴を細くしたやうな一種の獨樂で、二本の棒の先に絲をつけ獨樂の細い部分に絲をやり二本の棒を左右の手に持ち之れを廻はし時々高く放り上げ又受けたりして遊ぶ遊戯用のもの。
 ダイヤモンド【diamond】 金剛石。野球場の内野。
 ダイネ【dyne】 (物理用語) 力の絕對單位。
 ダック【duck】 一種の麻織物(ツックとも云ふ)。
 ダッシュ【dash】 よく挿話などの前後に入れることのある句讀符、(一)のこと。
 ダブル【double】 二重。二倍。
 ダブル・カラー【double collar】 二重になつたカラー。
 ダブル・シー【W.C.】 兩便所。
 ダブル・プレー【double play】 (野球用語) 重殺。
 ダブル・ベース【double-bass】 最大型のバイオリン。
 ダブル・ベッド【double bed】 二人寝臺。
 ダムダム【dumdum】 ダムダム彈。柔鼻彈。
 ダラ【dollar】 弗(米貨一弗は我が二圓餘に當る)。
 ダライ【darai(ban)] 旗盤(ダライ盤とも云ふ)。

ダリア【dahlia】 天竺牡丹屬の西洋草花。
 ダンサー【dancer】 踊子。
 ダンス【dance】 踊。
 ダンス・ホール【dance hall】 舞踏場。
 ダンナ【danna】(梵) 施主の意より轉じて一般に主人のことを檀那と云ふやうになつた。
 ダンピング【dumping】 投賣。
 ダンベル【dumb-bells】 亞鈴。

[チ・ヂ]

チーク【teak】 印度支那より多量に産する木(多く船材等に用ふ)。
 チーズ【cheese】 乾酪。
 チーチャー【teacher】 先生(學校の)。
 チーツ【chit(s)] (東洋英語) 手紙(チットとも云ふ)。
 チープ【cheap】 値が安い。
 チーム【team】 隊。團(例へば野球チーム)。
 チェア【chair】 椅子。
 チェース【chase】 活版を組んで一個の版としこれを印刷機にかける時この版を組みつける枠。
 チェーン・シヨウ【chain-show】 同一系統の小屋が連絡を取つて同時に同一映畫を興行すること。
 チェーン・ストア【chain-store】 聯鎖商店。
 チェス【chess】 西洋の將棋。
 チェッカーズ【checkers】 西洋將棋の一種。
 チ(エ)ッキ【check】 小切手。割符(チェックとも云ふ)。
 チェック【check】 格子縞。
 チェリー【cherry】 櫻桃。
 チェンヂ・ラウンド【change round】 (庭球用語) 交番試合。
 チキン【chicken】 鶏肉。
 チキン・カツ(レツ)【chicken cutlet】 鶏肉をラードで揚げた西洋料理。
 チキン・ライス【chicken and rice】 鶏肉の小切れの煮たものと飯とを交ぜ合せトマトソースにて味を附けたもの(日本特

有の和洋混合料理)。
 チキン・ロース [roast chicken] 燻鶏肉 (ロースチキンとも云ふ)。
 チッカー [ticker] 株式相場表示機。
 チック [cosmetick] 化粧品, 脂粉 (コスメチックの畧)。
 チケット [ticket] 切符。
 チット・ブック [chit-book] (東洋英語) 判取帳 (手紙受取りの)。
 チップ [tip] 祝儀。(野球用語) 打者の打った球がバットに僅かに觸れて後方に逸すること。
 チブス [typhus] 瘧疾。
 チャーター [charter] 契約書。
 チャーチ [church] 教會。
 チャーム [charm] 魅力、愛嬌。
 チャコ [chalk] 白堊。
 チャット [chat] 閑談。
 チャップ [chop] 骨附の肉片。
 チャップリン [Chaplin] 活動俳優の名 (轉じて道化者の綽名となつた)。
 チャン [pitch] 麗青。
 チャンピオン [champion] 選手。
 チャンピオン・シップ [champion-ship] 選手権。
 チャンピオン・フラグ [champion flag] 優勝旗。
 チューイングガム [chewing-gum] ゴム製の噛み菓子。
 チューブ [tube] 管、筒。
 チューリップ [tulip] 鬱金香。
 チョーク [chalk] 白堊。
 チョコレート [chocolate] コ、アの實を碎きこれに砂糖と香味等を加へて作った菓子。
 チョッキ [waistcoat] 胴衣。
 チョップ・スイ [chop-suey] 支那料理の一種 (油で揚げ又は煮る小肉片に野菜類を混じて煮るもの)。
 チョップ・ハウス [chop-house] 小料理店。
 チンキ [tincture] 丁機劑。
 チアテルミー [diathermy] 電気應用治療法の一種 (透熱術)。
 チェナーレーター [generator] 發電機。

チステンパー [distemper] 犬瘟 (幼犬病)。
 チストマ [distoma] 二個の吸盤を有する寄生蟲、(肝臓チストマ、肺チストマ等あり)。
 チニアス [genius] 天才。
 チヤスミン [jasmine] 素馨屬の植物。チヤスミン香水。
 チレンマ [dilemma] 板挟み。進退谷まれる。
 チューエット [duet] 二重奏。
 チュース deuce (庭球用語) 双方各三點宛となつた場合。
 チョーク [joke] 洒落。

[ツ]

ツース・ステップ [two-steps] 舞踏の一種。
 ツーバルブ・セット [two bulb set] (ラジオ用語) 二球装置。
 ツーリスト・ビューロー [tourist bureau] 旅行案内所。
 ツベルクリン [tuberculin] 結核菌注射液。
 ツベルクローゼ [tuberculosis] 結核症。
 ツリーティ [treaty] 條約。
 ツレード [trade] 貿易。
 ツレード・マーク [trade mark] 商標。

[テ・デ]

テーゼ [these] (獨) 論題。
 テーブル [table] 洋卓。
 テーブル・クロス [table-cltoh] テーブル掛け。
 テーブル・スピーチ [after-dinner speech] 晩餐會等に於て食事後の五分間演説。
 テーブル・トーク [table-talk] 座談。茶話。
 テーマ [thema] (獨) 主題, 中心問題。
 テール・ライト [tail-light] 尾燈 (自動車等の)。
 ティー [tea] 茶。

ティー・スプーン [tea-spoon] 茶匙。
 ティー・ダンス [tea dance] 晝間に催される一種の社交ダンス。
 ティー・ハウス [tea-house] 喫茶店。
 ティフィン [tiffin] 朝食と正餐との間の軽い中食、ランチと同意。
 ティー・パーティー [tea party] 茶會。
 ティラー [tailor] 洋服屋。
 テイル [tael] 支那の貨幣 (我が一圓位)。
 テキサス・リーガー [Texas leaguer] (野球用語) バットの餘り利かない打者が打った内野と外野との間に落ちる軟飛球。
 テキスト [text] 本文。論題。
 テキスト・ブック [text-book] 教科書。
 テクニク [technique] (佛) 繪畫の手法。音樂の手練。
 テクニカラー [technicolour] 天然色映畫。
 テクニクス [technics] 術語。(テクニカル・タームとも云ふ)。
 テープ [tape] 眞田紐。巻尺。調革。決勝線上に張る紐。細巻開付布又は紙。(テープとも云ふ)。
 テニス [tennis] 庭球。
 テニス・コート [tennis court] 庭球場。
 テノル [tenor] (音樂用語) 次中音 (男子の最高音)。
 テラコッタ [terra-cotta] (伊) 陶瓦。陶瓦像。
 テリアー [terrier] 愛養犬の一種。
 テルモス [thermos] 魔法壺。
 テレヴィジョン [television] 電視。
 テレグラフオン [telegraphone] 蓄音電話機。
 テレピン [turpentine] 松柏科植物の分泌する樹脂を水と共に蒸溜して作れる液。(テレメン油とも云ふ)。
 テレフォトグラフ [telephotograph] 電送寫真。
 テロリスト [terrorist] 兇暴主義者。
 テロリズム [terrorism] 兇暴政治。兇暴主義。
 テンション [tension] (物理用語) 伸張力。
 テント [tent] 天幕。

テンパン [tin-pan] 天板。
 テンブラ [fried fish] 天麩羅。
 テンポ [tempo] 樂曲進行の速度の拍子。
 デージー [daisy] 野菊。
 デート [date] 棗椰子の實。
 デビュー [debut] (佛) 初舞臺。初見參。
 デイコー [decor] (佛) 裝飾。舞臺裝置。
 ディスカウント [discount] 割引 (手形等の)。
 ディスカス [discus] 競技用の圓盤。
 ディスカス [discuss] 論究する。
 ディスカス・スロー [discus throw] (競技用語) 圓盤投げ。
 ディスク [disk] (ラジオ用語) 平圓盤。
 デイスト [deist] 自然神論を唱ふる人。
 ディスプレース・メント [displacement] 船の排水噸數。
 デイズム [deism] 自然神論。
 デイゼル・エンジン [diesel engine] 船舶等に裝置されてる優秀な發動機。
 デイダンス [dedans] 庭球の觀覽席。
 ディテクター [detector] (ラジオ用語) 檢波器。
 ディナー [dinner] 晝又は夕の正餐。
 ディナー・ジャケット [dinner jacket] 背廣型の禮服 (タキシードと同じ)。
 ディナー・パーティー [dinner party] (晩餐會) (午餐會)。
 ディレクター [director] 重役、支配人。
 デヴィス・カップ [Davis cup] 庭球世界爭覇戰の賞牌 (デ盃とも云ふ)。
 デヴィル [devil] 惡魔。
 デヴィルド・ビーフ [devilled beef] 截肉鹽漬。
 デカグラム [decagramme] (佛) 十瓦。
 デカタン [decadent] (佛) 廢頹派藝術家。
 デカメートル [decametre] (佛) 十米。
 デキストリン [dextrin] 糊精 C₁₂H₂₀O₁₀
 デコレーション [decoration] 勳章。裝飾。
 デザート [dessert] 洋食の最後に出る菓子又は果物。
 デザート・コース [dessert course] 洋食に於てデザートの出た時を デザート・コ

ースに入つたと云ひ、この時主人側の挨拶、來賓の祝辭等を述べるを普通とす。
 デザイン [design] 意匠。圖案。
 デシグラム [decigramme] 十分の一瓦。
 デシメートル [decimetre] 十分の一メートル。
 デシリットル [decilitre] 十分の一リットル。
 デシン(フェクトル) [disinfector] 防腐劑。
 デスク [desk] 机。
 デスマスク [death mask] 死人の顔を蠟にて型を取つたもの。
 デセール [dessert biscuit] デザートに出すビスケット。
 デターミナント [determinant] (數學用語) 定列式。
 デターミニズム [determinism] 決定論。
 デッキ [deck] 甲板。
 デッキ・ゴルフ [deck-golf] 甲板ゴルフ。
 デッキ・チェア [deck-chair] 甲板用の椅子。
 デッキ・パッセンジャー [deck passenger] 下等船客。
 デッサン [dessein] (佛) 素描。下繪。
 デッド・ボール [dead ball] (野球用語) 死球。
 デテール [detail] 明細。委細。
 デパートメント・ストア [department store] 百貨店。
 デマゴグ [demagogue] 煽動家。
 デメンチア [dementia] (獨) 癡呆。
 デモクラシー [democracy] 民主主義。
 デモンストレーション [demonstration] 示威運動。
 デヤボロ [diabolo] ダイヤボロと同じ。
 デューオー [duo] 二部曲。二重奏(デュエットと同じ)。
 デュース [deuce] ジュースと同じ。
 デュエット [duet] ジュエットと同じ。
 デリケート [delicate] 慎重を要する。
 デリック [derrick] 動臂起重機。
 デルタ [delta] 河口に於ける三角洲。
 デルマトール [dermatol] 皮膚塗付劑。

デレゲート [delegate] 代表者。委員。

[ト・ド]

トーキー [talkie] 發聲映畫。
 トースト [toast] 焼パン。健康を祝して杯を擧げること。
 トースト・マスター [toast-master] 乾杯の主人役をする人。
 トーダンス [toe-dance] 爪先踊。
 トーナメント [tournament] 選手権保有者を決定する爲めに催ふす大會。
 トーテム [totem] 未開人が自己に深い因縁あるものとして非常に崇拜する動物又は天然物。
 トイレット [toilet] 便所。
 トッパーズ [topaz] 黄玉石。
 トップ [top] 頂上。尖端。
 トニック [tonic] 強壯劑。
 トピック [topic] 話題。
 トマイン [ptomaine] 死體毒。
 トマト [tomato] 赤茄子。
 トライオ [trio] 三部合唱。三重奏(トリオとも云ふ)。
 トライポッド [tripod] 三脚架。
 トラヴァーサー [traverser] (鐵道用語) 還車臺。
 トラクター [tractor] 牽引器。(トロツコと同じ)。
 トラスト [trust] 企業組合。
 トラスト・コンパニー [trust company] 信託會社。
 トラック [track] 競走路。
 トラディション [tradition] 傳統。
 トラビスト [Trappist] キリスト教の一派。
 トラホーム [trachoma] 強い傳染性の眼病。
 トランク [trunk] 旅行鞆。
 トランス・ミッター [transmitter] (ラヂオ用語) 送話器。
 トランプ [trump] 西洋カルタの切札から轉じて歌留多そのものを云ふ。
 トラネット [trumpet] 喇叭。

[ナ]

トリック [trick] (映畫用語) 撮影に於ける欺瞞手段。
 トリプシン [trypsin] 唾液中に含まれてゐる酵素。
 トルソー [trousseau] (佛) 嫁入仕度。
 トレーシング [tracing] 覆寫。追跡。
 トロール [troll] 魚を捕ふること。
 トロッコ [truck] 荷車。荷物自動車。
 トロフィー [trophy] 競技の優勝記念品。
 トロンボン [trombone] 一種の喇叭。
 トン [ton] 噸。
 トンチン [tontine policy] 伊太利銀行家 Tonti 氏養老組合法。
 トンネル [tunnel] 隧道。
 ドア [door] 扉。
 ドーナツ [doughnut] 生パンを油で揚げた菓子。
 ドクトル [doctor] 醫師。
 ドック [dock] 船渠。
 ドミノ [domino] 木、骨又は象牙で作つた長方形の札二十八個で行ふ遊戯。
 ドライヴ [drive] 自動車や馬車に乗ること。
 ドライヴ・ウエー [drive way] 自動車道。
 ドライ・クリーニング [dry cleaning] 乾燥洗濯。
 ドライ・セル [dry cell] 乾電池。
 ドラッグ [drug] 藥劑、特に賣藥。
 ドラフト [draft] 爲替手形。
 ドラマ [drama] 脚本。芝居。
 ドラム [drum] 太鼓。
 ドル [dollar] 米貨(我が二圓餘)。(ダラとも云ふ)。
 ドレッド・ノート [dreadnought] 弩級艦。
 ドロップ [drop] (野球用語) 打者の前で急に下るやうに投げる投球法。(映畫用語) 特に畫いた背景。
 ドロップス [drops] 砂糖を糞詰めて作つた菓子。
 ドローン・ワーク [drawn work] レースの繰抜模様細工。
 ドローン・ゲーム [drawn game] 無勝負。
 ドンタク [zondag(蘭)] 日曜日、休日。

[ニ]

ナイーヴ [naive] 素朴な、天真な。
 ナイト [knight] 勳爵士(英國の爵位で Sir の稱號を受く)。
 ナイト・ドレス [night-dress] 寝間着。
 ナイフ [knife] 小刀。
 ナイン [nine] 野球團。
 ナスターシャム [nasturtium] 金蓮花。
 ナチュラリスト [naturalist] 自然主義者。
 ナチュラリズム [naturalism] 自然主義。
 ナップ [Napf] Nippon Artist Proletarian Federation の畧。赤色藝術團體。ナツブと云ふ雑誌が発行されてゐる。
 ナトリウム [natrium] 曹達。
 ナフタ [naphtha] 石腦油、揮發油。
 ナフタリン [naphthalene] なふたりん。
 ナフトール [naphthol] なふとーる。
 ナブキン [napkin] 食卓用の拭布。
 ナルコム [nalkom] (露語ナロードヌイコミツサールの畧) 人民委員。
 ナン・センス [nonsense] 馬鹿げたこと。無意味のこと。
 ナン・センス・コメデー [nonsense comedy] 馬鹿げたことで見物を笑はせる喜劇。
 ナンバー・ワン [number one] 第一番。第一人者。
 ニグロ [negro] 黒人。
 ニコチン [nicotine] 煙草の活動素 (C₁₀H₁₄N₂)。
 ニス [varnish] の説。樹脂をアルコールエーテル、テレピン油で溶かした塗料。
 ニックネーム [nickname] 綽名。
 ニッケル [nickel] 金屬元素の一。白銅質。
 ニッティング [knitting] 編物。
 ニトログリセリン [nitroglycerine] 硝酸グリセリン(激烈なる爆發性を有する淡黄色の液體)。
 ニトロベンゼン [nitrobenzene] 硝酸ベ

ンゼン。

ニヒリスト [nihilist] 虚無主義者。
 ニヒリズム [nihilism] 虚無主義。
 ニュース [news] 新聞。報道。映畫のプログラム。
 ニュースマン [newsman] 新聞賣子。新聞配達。新聞によく載せられる人。
 ニンフ [Nymph] 神話中の山林水邊に棲む女神。水の精。

[ヌ]

ヌーガー [nougat] (佛) 佛國の菓子(巴旦杏と蜂蜜より作るもの)。
 ニューボー [nouveau] (佛) 同一の線で畫いた餘り變化のない圖案から動作の少ない無口の人を云ふ。

[ネ]

ネヴァル・ホリデー [naval holidays] 列國の製艦休止。
 ネーパーリ [napery] テーブル布。拭布。
 ネーブル [navel] (orange) 一種の柑橘。
 ネインスーク [nainsook] 厚織綿布。
 ネオディム [neodymium] ねおぢみらむ。
 ネオブ [niobium] におびらむ(金屬元素の一)。
 ネオン [neon] 最近発見された雰囲気中の一種のガス。(ネオンとも云ふ)。
 ネオン・サイン [neon sign] ネオン燈廣告。
 ネガティブ [negative] 否定の意から寫眞の陰板。
 ネクタイ [necktie] 襟飾り(暑してタイとも云ふ)。
 ネクタイピン [scarf-pin] 襟飾りピン。
 ネゴシエーション [negotiation] 交渉。商議。談判。
 ネット [net] 網。
 ネット・ワーク [net-work] 網細工物。
 ネット・プライス [net price] 正札。
 ネル [flannel] の暑。

[ノ]

ノー [no] 否。不同意。不賛成。
 ノーチス [notice] 注意。通知。
 ノート [note] 音符。備忘録。手形。紙幣。
 ノー・パーキング [no parking] 自動車停車を禁ず。
 ノート・ブック [note-book] 筆記帳。手帳。
 ノヴェル [novel] 小説。
 ノクターン [nocturne] 夜曲。夜想曲。夜景畫。夜の祈り。(佛蘭西讀みでノクチュルヌとも云つてゐる)。
 ノック [knock] 叩く。打つ。
 ノック・アウト [knock-out] (拳闘用語) 對手をグウの音も出ないやうにペチヤンコにすること。
 ノン・ストップ [non-stop] 無停車。無着陸。
 ノン・センス [nonsense] ナンセンスと同じ。
 ノン・パレール [nonpareil] (印刷用語) 活字の名稱(六ポイント活字に當る)。
 ノンブル [number] 番號。

[ハ・バ・バ]

ハー・イプシロン [H. Y.] 獨逸語のヒステリーの陰語。
 ハート [heart] 心。情。
 ハート [hearts] 歌留多のハート。
 ハードル [hurdle] (競技用語) 障害物。
 ハードル・レース [hurdle race] 障害物競走。
 ハーフ・タイム [half-time] (蹴球用語) 試合時間を前後二つに分けて其間五分間休息する、之れをハーフタイムと云ふ。
 ハーフ・バック [half-back] (蹴球用語) 中堅(前線の次に居るもの)。
 ハーモニウム [harmonium] 小風琴。
 ハーモニカ [harmonica] 口風琴。
 ハイ・カラ [high collar] 一時高いカラーの流行せし頃より出来た和製英語で、流行の尖端を行く人、従つて氣障な男。
 ハイ・スピード [high-speed] 高速度。
 ハイ・テンポ [high-tempo] 高速度。
 ハイポ [hyposulphate] 次亜硫酸(ハイ

ポサルフォートの暑)。
 ハイヤー [hire] 賃貸自動車。
 ハイ(ロー)・ハードル・レース [high(low) hurle race] 高(低)障害物競走。
 ハusband [husband] 夫(暑して單にハズとも云ふ)。
 ハタ [pata] (梵) 機。
 ハッシュ・ビーフ [hashed beef] 細かく刻んだ牛肉の料理(ハヤシ・ビーフとも云ふ)。
 ハッチ [hatch] 船の昇降口。船口。
 ハット [hat] 帽子。
 ハット・ケーキ [hat cake] 焼餅の一種。
 ハット・ピン [hat-pin] 婦人が帽子をとめる爲めに差す飾りピン。
 ハバナ [Havana] キューバの首府ハバナより、ハバナ葉巻煙草。
 ハム [ham] 豚の腿肉を鹽に漬けて燻製にしたるもの。
 ハル [Halt!] 止め。
 ハルマ [halma] 二百五十六目がある盤上にて二人又は四人で行ふ遊技。
 ハレーション [halation] 寫眞の露影。
 ハレルヤ [halleluja(iah)] 神に對する讚美。
 ハロー(ヘーロー) [halo] (物理用語) 光輪。
 ハンカチーフ [handkerchief] ハンケチと同じ。
 ハンガー [hangar] 飛行機格納庫。
 ハンガー・ストライキ [hunger strike] 絶食同盟罷業(暑して、ハン・ストとも云ふ)。
 ハンケチ [handkerchief] 巾巾。
 ハンスト [hunger-strike] の暑 絶食同盟。(労働爭議が極端に悪化した場合や又は共産黨員などが獄内で用ひる戰術)
 ハンディキャップ [handicap] 競技等に於て優劣を平均させる爲めに優者の利を殺ぐこと。不利。困難。
 ハンド・バッグ [hand-bag] 手提鞆(婦人の)。
 ハンド・ビル [hand-bill] 引札。ビラ。
 ハンド・ブック [hand-book] 手帳。
 ハンドル [handle] 柄。手。

ハンマー [hammer] 槌。
 ハンモック [hammock] 網で作つた吊床。
 バー [bar] 酒場。
 バーゲン・デー [bargain-day] 安賣日。
 バーゲン・セール [bargain slae] 大賣出し。大安賣。
 バース・コントロール [birth control] 産兒制限。暑してバスクンとも云つてゐる。
 バーチン [virgin] 處女。
 バーズ・アイ・ビュー [bird's eye view] 鳥瞰圖。
 バード・マン [bird-man] 飛行家(鳥人の意)。
 バーバー [barber] 理髮店。
 バイブル [bible] 基督教の聖書。
 バウ [bow] 船。前櫓漕手。
 バウンド [bound] (野球用語) ボールが地上で飛びはねること。
 バカ [baka] (梵) 馬鹿。(青鸞の意、印度に於て青鸞を愚者の標準とせるより)。
 バキューム・クリーナー [vacuum cleaner] 真空掃除器。
 バクテリア [bacteria] 微菌。
 バケツ [bucket] 手桶(ブリキ製の)。
 バザー [bazaar] 慈善市。
 バス [bass; base] 低音。
 バス [bath] 温浴。風呂。
 バス [bus] 乗合自動車。
 バス・ガール [bus-girl] 乗合自動車の女車掌。
 バスケット [basket] 籠。
 バスケット・ボール [basket-ball] 籠球。
 バスト [bust] 胸像。
 バスビー [busby] 毛帽子。
 バス・ローブ [bath-robe] 浴衣。
 バタ [butter] 牛酪。
 バタカップ [buttercup] 金鳳花。
 バチエラー [bachelor] 獨身者(男子の)。
 バチルス [bacillus] 桿狀細菌。
 バック [back] 背景。背面。
 バック [background] 背景。遠景。
 バッター [batter] (野球用語) 打手。
 バッテラ [bateira(蘭)] 端艇。
 バッテリー [battery] (野球用語) 投手及捕

手。電襪。
 バット [bat] 野球に於て球を打つ棒。
 バッファー buffer (鐵道用語) 緩衝器。
 バテレン [padre] (蘭) 伴天連(宣教師)。
 バトン [baton] リレー競走に於て走者が手に持つて走る棒。合奏を指揮する棒。
 バナナ [banana] 芭蕉の實。
 バプティズム [baptism] 基督教の洗禮。
 バリエター [variety] 諸藝大會。
 バラスト [ballast] 敷砂利。
 バラック [barracks] 假小舎。兵營。
 バラッド [ballad] 小唄。
 バラライカ [balalaika] ギターに似た露國の絃樂器。
 バランス [balance] 釣り合。均衡。
 バリウム [barium] 金屬元素の一。
 バリカン [Bariquand] 佛國バリカン會社より賣出したる散髪器より廣く一般に散髪器。
 バリトーン [baritone] 男性次低音。
 バルーン・デッセー [balloon dessai] (佛) 試揚氣球。
 バルヴ [valve] 錠。
 バルコニー [balcony] 露臺。
 バレー [ballet] 舞踊。
 バロメーター [barometer] 晴雨計。
 バンガロー [bungalow] 文化住宅。
 バンク [bank] 銀行。
 バンコ [banco] (葡) 長椅子。
 バンジョー [banjo] 三味線狀の五絃樂器。
 バント [bunt] (野球用語) 犠打。
 バンド [band] 帶、紐。樂隊。
 バンナー [banner] 旗。軍旗。
 パーク [park] 公園。
 パーセル [parcel] 小包。
 パーセリ [parsley] 和蘭セリ。
 パーセンテージ [percentage] 百分の割合。
 パーセント [percent] 一パーセントは一分。
 パーチメント・ペーパー [parchment paper] 擬羊皮紙。硫酸紙。
 パーテー [paté] (佛) 饅頭の様な肉食物。
 パーティ [party] 社交的會合。仲間。

パートナー [partner] 組合員。舞踏などの相手。
 パーラー [parlour] 談話室。客間。
 パール [pearl] 眞珠。印刷にては、ばーる型の小活字。
 パイ [pie] 肉又は果物を捏粉に入れて焼いた菓子。
 パイカ [pica] 活字の大きさ(四號と五號との中間)。
 パイナップル [pineapple] 鳳梨。(パイナップルとも云ふ)。
 パイパン [paipan] 麻雀の「白板」から轉じて、色白でノツペリした男、にやけた男。
 パイプ [pipe] 煙管。其他凡て管の類。
 パイプ・オルガン [pipe-organ] 管柱式大型風琴。
 パジアント [pageant] 時代行列。野外劇。
 パジャマ [pajama] 男子用の寝衣。
 パス [pass] 無賃乗車券。定期乗車券。
 パスティール [pastille] (佛) 香料。香錠。
 パステル [pastel] 著色墨筆。
 バスボール [puss ball] (野球用語) 投手のボールを捕手が逸した事。
 パスポート [passport] 旅券。
 パターン [pattern] 雛形。見本。模倣。模型。
 パジャマ [pajama] 太いズボンとチャケツとよりなる西洋寝衣。
 パック [puck] 惡戯好きの豆仙人。
 パッド [pad] 一綴りの用箋。
 パズル [puzzle] 謎。判じ物。
 パテント [patent] 專賣特許。
 バトロン [patron] 保護者。後援者。最貴客。旦那。
 パナマ [panama] パナマの若葉を材料にした夏帽子。
 パニック [panic] 經濟上の恐慌。
 パネル [panel] 畫板。
 パノラマ [panorama] 全景。
 パパ [papa] お父さん。
 パパイア [papaya] (西) 木瓜又は乳瓜。
 パラシュート [parachute] (佛) 落下傘。
 パラソル [parasol] (佛) 日傘。

バラダイス [paradise] 天國。樂園。
 バラチプス [paratyphus] ばらちぶず。
 バラディウム [palladium] 金屬元素の一。
 バラフィン [paraffin] パラフィンに同じ。
 パラフィン [paraffin] 石蠟。
 バリア [pariah] 南印度の最下級土人。非人。
 バルティザン [partizan] 黨類又は別動隊の意なるもロシヤの赤化軍の意に用ひ又は極惡非道の人の意にも用ひてゐる(尼港事件以來)。
 バルブ [pulp] 製紙原料。
 バルムオイル [palm-oil] 棕櫚油。
 バレード [parade] 觀兵式。行列。行進。
 バレット [palette] 洋畫に用ふる調色盤。
 パン [pan] (佛) 小麦粉より製したる歐米人の常食品。
 パン [pan] 種々の語の前に冠して、「汎」の意に用ふ。例へば pan-Pacific=汎太平洋の如し。
 パンク [punk] 自動車、自轉車のタイヤに孔の穿くこと。
 パンクチュアル [punctual] 時間を正確に守ること。
 パン・ケーキ [pan-cake] 燒餅の一種(ハット・ケーキに似たもの)。
 パンチ [punch] 穿孔器。
 パンテオン [Pantheon] 希臘アテネの神殿。
 パントグラフ [pantograph] 伸縮寫圖器。
 パントマイム [pantomime] 無言劇。所作事。
 パンフット [pamphlet] 小冊子。

[ヒビビ]

ヒーター [heater] 暖爐。
 ヒーロー [hero] 英雄。小説等の主人公。
 ヒアシンス [hyacinth] 西洋草花の一種。
 ヒステリー [hysteria] 病氣發作の興奮。
 ヒット [hit] (野球用語) 安打。
 ヒット・エンド・ラン [hit and run] (野球用語) 打而走。

ヒヤ・ヒヤ [hear! hear!] 謹聴謹聽。贊成。
 ヒレ [fillet-de-boeuf] (佛) ヒレ肉。
 ヒロイン [heroine] 劇、小説等の女主人公。
 ヒンター・ランド [Hinterland] (獨) 奥地(海岸より奥の土地)。
 ヒント [hint] 暗示。
 ビーア・スタンド [beer-stand] ビール賣臺。
 ビーヤ・ホール [beer-hall] ビール酒場。
 ビーカー [beaker] 化學實驗用にては硝子器。
 ビードロ [vidro] (葡) 硝子。
 ビーフ [beef] 牛肉。
 ビーフ・テー [beef-tea] 牛茶。
 ビール [beer] 麥酒。
 ビジネス [business] 商業。營業。事務。
 ビジネス・マン [business-man] 實業家。
 ビスケット [biscuits] 小麦粉を原料とした西洋菓子的一種。
 ビフテキ [beefsteak] 脂肪油にて牛肉を厚焼にした西洋料理。
 ビューロー・クラシー [bureaucracy] 官僚政治。官僚主義。
 ビリケン [Billiken] 米國の福の神(我が國の恵比壽様の如きもの)。
 ビリヤード [billiards] 撞球。
 ビル [bill] 勘定書。張札(ビラ)。
 ビル(ディング) [building] 建築物。
 ビル・ブローカー [bill-broker] 手形仲買人。
 ビロース [bellows] 寫真機の蛇腹。
 ビロード [veludo] (葡) 天鵝絨。
 ビーア [pier] 棧橋。埠頭。
 ビー・オー・ビー [P.O.P.] 寫真印畫紙の一種。
 ビース [peace] 平和。
 ビーチ [peach] 桃。
 ビーナット [peanuts] 南京豆。落花生。
 ピアニスト [pianist] ピアノ演奏家。
 ピアノラ [pianola] 自動ピアノ。
 ピオニー [peony] 芍藥。
 ピクニック [picnic] 花見遊山。
 ピクリン [picric acid] びくりん酸。

ビケー [piqué] (佛) 綿布の一種。
 ビジャマ [pyjama] 男子用寝衣(英) (パジャマ参照)。
 ビストル [pistol] 拳銃。
 ビストン [piston] 唧子。
 ビック・アップ・チーム [pick-up team] (野球用語) 理想的野球團。
 ビッチ [pitch] 調子。速度。野球の投球。投手。投手振り。
 ビッチャー [pitcher] (野球用語) 投手。
 ビッチング [pitching] 堅擡。
 ビベット [pipette] 吸管。
 ビヤノ [piano] 洋琴。
 ビューア [pure] 純潔。
 ビューリタン [Puritan] 清教徒。非常に謹厳な生活をしてゐる人。
 ビラミッド [pyramid] 三角塔。
 ビロー・ファイト [pillow-fight] 枕合戦(枕を投げ合ふ遊戯)。
 ビン [pin] 留針。
 ピンク [pink] 淡紅色。
 ビンセット [pincette] 小さいものを挟むに用ふる松葉形の器具。
 ピンチ [pinch] (競技用語) 危機。
 ピンチ・ヒッター [pinch hitter] (野球用語) 敵方の危機即ち味方の好機に臨んでボックスに立つ打者。
 ピンチ・ベック [pinchbeck] 銅、亜鉛及錫の合金。
 ピント [pint] 液量名(一はいんとは我が三合一勺餘)。
 ピンポン [ping-pong] 卓上テニス。

【フ・ブ・ブ】

フーカデン [fricandeau] (佛) 犢の肉のカツレツにソースをかけたもの(西洋料理の名)。
 フージョン [fusion] 鋸解。融合。
 フーゼル・オイル [fusel-oil] ふーぜる油。
 フート [foot] 呎(英制) 我が約一、〇〇六尺。
 フート・ボール [football] 蹴球。
 フート・ライト [footlight] 脚光(劇場の

舞臺ペリに設ける明り)。
 フールス・カップ [foolscap] 西洋紙の名稱長さ十五吋乃至十七吋幅十二吋乃至十三吋半の大判紙。
 ファー・イースト [Far East] 極東。
 ファース [farce] 茶番。道化。笑ひ劇。
 ファースト [first] 第一。
 ファースト・ラン [first run] (映畫用語) 封切後最初の一週間。
 ファーマシー [pharmacy] 薬局。
 ファイナル [final] 終局。終曲。決勝。
 ファイナル・ラウンド [final round] 決勝競技仕合の最終回。
 ファイル [file] 紙票綴込み。
 ファウル [foul] (運動用語) 規則違反。
 ファウル・ティップ [foul tip] (野球用語) 打者のバッドが球に一寸丈け當つてファウルヒットになること。
 ファウル・ヒット [foul hit] (野球用語) 打ち損じ。
 ファウンティン・ペン [fountain-pen] 萬年筆。
 ファスシステイ [Fascisti] 伊太利の政黨の名。(我が國粹會の如きもので、愛國黨)。
 ファッション [fashion] 流行。
 ファン [fan(atic)] 熱愛家(劇、活動寫眞、競技等の)。
 ファンシー・ボール [fancy ball] 假裝舞踏會。
 フィールド [field] 野球場。競技場。野球にては球を受け止めて投げ返す事。
 フィアンセー [fiancée] (佛) 許婚の女。
 フィギア・スケーティング [figure skating] 正確な圓形を描いて、滑走中の姿勢を正しく且つ優雅に見せるもの。
 ファイッシュ・フライ [fried fish] 魚肉の揚げもの。
 フィニッシュ・ライン [finish line] (運動用語) 決勝線。
 フィラメント [filament] 心線(白熱電燈中の)。
 フィル・ハーモニック [philharmonic] 好樂家。

フィルム [film] 寫眞の感光膜。映畫のフィルム。
 フィルム・バック [film-pack] 寫眞用フィルムの十二枚一巻き。
 フィレー [fillet] (佛) 一種の編物。
 フィンガー [fingers] カステラ類の菓子で指のやうな形にしたもの。
 フィンガー・ボール [finger-bowl] 洋式食卓に出る指洗器。
 フェア・プレー [fair play] (競技用語) 堂々と公明正大に勝負すること。
 フェア [fare] 賃錢。駄賃。
 フェルト [felt] 毛氈。
 フェルト・ハット [felt-hat] フェルト帽(中折帽)。
 フェンシング [fencing] 西洋劍術。
 フォーク [fork] 肉叉。
 フォード [Ford] 米國の自動車王ヘンリー・フォードから、フォード會社製の自動車又は廣く一般に自動車。
 フォックス・ストロット [fox-trot] 一種の舞踏。
 フォルマリン [formalin] ほるまりん。
 フクシヤ [fuchsia] (獨) 一種の植物(ほくしゃとも云ふ)。
 フクシン [fuchsiine] 唐紅。
 フット・アップ [foot up] ラグビー蹴球競技規則の一つ。
 フューズ [fuse] (電氣) ひゆーず(可熔片)。
 フライ [fried fish] 魚の揚物。
 フライ・パン [fry-pan] 揚げもの鍋。
 フライ・ボール [fly-ball] (野球用語) 飛球。
 フラウ [frou] (獨) 妻、夫人。
 フラクシオン [fraction] 分派左翼(尖銳分子)。
 フラシ [flush] 歌留多遊びに於て持ち札が全部全種類なること。
 フラスコ [flask] 水筒。壺。
 フラッグ [flag] 旗。國旗。
 フラッシュ・バック [flash-back] 映畫の瞬間場面切返し。
 フラット [flat] (競技用語) 平坦の意より競技記録に端数なきことを示す語、例へば百米十一秒フラット。平割住宅。

フラン [franc] 佛蘭西の貨幣(我が約參拾九錢)。
 フランネル [flannel] 衣服地(略してネルと云ふ)。
 フリーザー [freezer] 冷凍器(アイスクリーム等の)。
 フリージャ [freesia] 西洋草花の一種。
 フリー・パス [free pass] 無賃乗車券。無料入場券。
 フリー・ランサー [free lancer] 何れの會社にも専屬せず、短期契約を結ぶ自由俳優。
 フリー・レーバラー [free labourer] 自由労働者。
 フリカッセー [fricassée] (佛) 雞肉又は兎肉等を細かく切り煮又は揚げたもの(西洋料理の名)。
 フリッターズ [fritters] 揚物。
 フリット [frit] 硝子又は磁器の原料。
 フリュート [flute] 横笛。笛。
 フリル [frill] 縁飾り。裝飾り。
 フレート [freight] 運賃。貨物。
 フレーム [frame] 額縁。
 フレスコ [fresco] 壁畫。壁畫法。
 フロック [fluke] (撞球用語) 紛れ中り。
 フロック・コート [frock coat] 一種の上衣、(通常禮服)。
 フロックス [phlox] 北米産撫子の類。
 フロックス [floss] 燃らぬ絹絲。
 フロン・ケーキ [flum-cake] 乾葡萄酒のカステラ様の菓子。
 ブーケ [bouquet] (佛) 花束。
 ブージー [bougie] (佛) 食道其他の狭窄を擴げる醫用器具。
 ブールス [bourse] (佛) 株式取引所。
 ブイ [buoy] 魚釣の浮き。繫船用の浮き。救助袋。
 ブック [book; album] 書籍。帳簿。冊子。
 ブック・レビュー [book review] 新聞、雑誌等に掲載せる圖書評論。
 ブフェー [buffet] (佛) 簡易食堂。
 ブラウン [brown] 褐色。
 ブラヴォー [bravo] (伊) 劇場、競技場等に於て見物人から演技者に浴せる言葉。

ブラック [black] 黒色。
 ブラック・インキ [black ink] 黒インキ。
 ブラック・ボード [black-board] 黒板。塗板。
 ブラック・リスト [black list] 労働運動者其他危険思想を抱く人物や不良者を控へて置く表。
 ブラ(ッ)シ [brush] 刷毛。
 ブラマ [brahma] 雞の一種。
 ブランケット [blanket] 毛布。
 ブランディー [brandy] 葡萄酒を蒸溜して製した強烈な酒。
 ブリーチヤーズ [bleachers] 無蓋観覧席。
 ブリキ [blik] (蘭) 鐵薄板。
 ブリッジ [bridge] 橋梁。
 ブリュウ [blue] 藍色。
 ブリュウ・ブラック [blue-black] 濃い藍色。
 ブル [bourgeois] ブルジョアの略。
 ブルース [blouse] (佛)職人の着る上衣。
 ブルジョア(ヨウ) [Bourgeois] (佛)中産階級の人の意なるも、我國に於ては今日富豪の意に使つてゐる。
 ブルジョアジー [Bourgeoisie] (佛)中産階級の意なるも、現在では富豪階級の意に使つてゐる。
 ブル・ドッグ [bull dog] 闘犬。
 ブレード [braid] 眞田紐。
 ブレイキ [brake] 制動機。
 ブレヴィア [brevier] (印刷用語) プレヴィア號活字(六號活字に當る)。
 ブレッド [bread] 麵包。
 ブローカー [broker] 仲買人。仲次人。
 ブローチ [brooch] 襟止め、胸針(ブルーチとも云ふ)。
 ブロード・カスト [broadcast] 放送(ラヂオ)。
 ブロード・ゲージ [broad gauge] 廣軌(鐵道の)。
 ブローミン [bromine] 臭素。
 ブロットィング・ペーパー [blotting-paper] 吸取紙。
 ブロマイド [bromide] 臭素紙を原板に當て、焼きつけられ不變色寫眞の一種。
 ブロマン [blauc mange] 魚膠、太心、

葛粉等を牛乳と混ぜて作った食器。
 ブロンズ [bronze] 青銅。
 ブンド [Bund] (獨)同盟。盟約。
 プール [pool] 水泳の爲め特に作りたる人工池。玉突の一種(ポケット六個附の)。
 プチ・ブルジョア [petit bourgeois] (佛)小ブルジョア。ブルジョア階級とプロレタリア階級の中間階級。(略してプチ・ブルとも云つてゐる)。
 プデン [pudding] 一種の西洋菓子(ぶりんとも云ふ)。
 プトマイン [ptomine] 死體毒。
 プライマー [primer] 印刷用語としては活字の名。入門讀本。
 プラグマティズム [pragmatism] 實益主義。
 プラシヤン・ブリュウ [Prussian blue] 洋青。紺青色。
 プラス [plus] 陽電氣。加符。
 プラチナ [platinum] 白金。
 プラッシュ [plush] 絹綿ビロード。
 プラット・フォーム [platform] 乗降場。演壇。
 プラトニック・ラブ [Platonic love] 清い戀。精神的の戀。
 プラン [plan] 案。計畫。
 プランセット [planchette] (佛)狐狗狸占板。
 プリズム [prism] 三稜鏡。
 プリマドンナ [prima donna] (伊)歌劇の花形歌手。
 ブルーフ [proof] 校正刷。
 プレー! [play!] 競技に於て「始め!」の號令。
 プレー・ガイド [play-guide] 演劇案内所。
 プレート [plate] (野球用語)投手及び打手の踏む板。
 プレアード [Pleiades] (佛)牡牛星座の群星。
 プレス・ボタン [press-button] 押鈕(電鈴)。
 プレミアム [premium] 割増金。
 プロージット [prosit] (拉)健康を祝す(乾杯の言葉)。

プロキノ [pro-cino] 無産派映畫同盟。
 プログラム [program] 順序書。番組。豫定表。
 プロジェクター [projector] 投射器。計畫者。
 プロ(スティチュート) [prostitute] 娼婦。
 プロ(セント) [per cent] 百分の一。即一分。
 プロ(ダクション) [production] 映畫撮影所。
 プロット [plot] 芝居の筋。脚色。
 プロテイン [protein] 蛋白質。
 プロテクター [protector] (野球用語)捕手の胸當。
 プロテスタント [protestant] 基督新教徒。反抗者。
 プロバガンダ [propaganda] 宣傳。
 プロフィール [profile] (佛)横顔。側面。
 プロフェッショナル [professional] 職業運動家。
 プロペラ [propeller] 推進機。
 プロレタリア [proletariat] 無産階級。
 プロローグ [prologue] 小説、戯曲の序詞。音樂の序曲。劇の序幕。

[ヘ・ベ・ペ]

ヘアー [hair] 髪。
 ヘアー・ドレッシング [hair dressing] 理髪。
 ヘアー・ネット [hair net] 髮網。
 ヘアー・ピン [hair pin] 婦人の頭に挿すピン。
 ヘヴィー [heavy] (競技用語)烈しい努力(特に最後の)。
 ヘヴン [heaven] 天。天國。
 ヘゲモニー [hegemonie] (獨)覇權。指導權。
 ヘッツイ [hearth] 竈。
 ヘディング [heading] 見出し。
 ヘット [fat] 脂肪(牛の)。
 ヘッド・ライト [head light] 自動車、電車、機關車等の前燈。
 ヘム [hem] 縁縫。

ヘモグロビン [hemoglobin] 血球素。
 ヘリウム [helium] 金屬元素の一。
 ヘリオトロフ [heliotrope] 西洋草花の一種(キダチルリ草)。
 ヘリコプター [helicopter] 回施式飛行機又は堅螺旋式飛行機。
 ヘルニア [hernia] 脱腸。
 ヘルメット [helmet] 兜。兜形の帽子。
 ベーカーリー [bakery] ぱん屋。洋菓子屋。
 ベーコン [bacon] 豚の燻肉(脇腹と背の間の)。
 ベース [base; bass] 低音。低音歌手。
 ベース・ボール [baseball] 野球。
 ベース・ボール・チーム [baseball team] 野球團。
 ベール [bale] 梱。
 ベコニア [begonia] 西洋草花(秋海棠のキウナ)。
 ベスト [best] 最善(の努力)。
 ベッド [bed] 寢床。
 ベビー [baby] 赤坊。
 ベビー・ゴルフ [baby golf] 豆ゴルフ、小型ゴルフ。
 ベル [bell] 呼鈴。
 ベルト [belt] 帶。機械の調革。
 ベルモット [vermouth] (佛)苦蘆で香氣をつけた甘い西洋酒。
 ベンガラ [Bengal] 辨柄(酸化第二鐵)(始め印度の Bengal から渡來せし爲めこの名ありと云ふ)。
 ベンジン [benzine] 原料鑛油を百二十度乃至百五十度の温度に蒸溜したもので脂肪燻解等に効あるためニス(ニスの製造及び乾燥洗濯等に使用するもの)。
 ベンゼン [benzine] C₆H₆ 分子量七八。コールタール等より採る無色の液體「ベンゾール」「コールタール揮發油」とも稱す。
 ベンゾール [benzol] ベンジン、ベンゼンと全じ。
 ベンチ [bench] 腰掛。
 ベーヴメント [pavement] 舗道。
 ページ [page] 頁。
 ページヤント [pageant] 野外劇。

ペーパー [paper] 紙。
 ペイント [paint] ペンキに全じ。
 ペシミスト [pessimist] 厭世家。
 ペシミズム [pessimism] 悲觀主義。
 ペスト [pest] 黒死病。
 ペダル(ペダル) [pedal] 踏板。足踏臺。
 ペチコート [petticoat] 婦人、少女の下衣。
 ペチュニヤ [petunia] 西洋草花(ツクバネアサガホの類)。
 ペット [pet] 寵愛物。秘藏子。
 ペナント [pennant] 小旗。
 ペニ [penny] 英國の銅貨(我が約四錢)。
 ペバミント [peppermint] 青い色の薄荷入りの酒。
 ペプシン [pepsine] 胃液中に溶解してゐて、蛋白質を消化するもの。
 ペプトン [peptone] 胃腸の中で蛋白質がペプシンに溶解されて出来たもの。
 ペリカン [pelican] 鶺鴒。
 ペリスコープ [periscope] 潜望鏡(潜水艦の眼とも云ふべきもの)。
 ペルチャゴム [gutta-percha] べるちや護謄。
 ペン [pen] 鐵筆(洋筆)。
 ペンキ [paint] 塗料(ペイントとも云ふ)。
 ペンギン [penguin] ペンギン鳥(南極地方に群棲す)。
 ペンシル [pencil] 鉛筆。
 ペンス [pence] 英國銅貨ペニ(penny)の複數。
 ペンチ [pincers] 小鋏、釘抜の類。
 ベンドル [fender] 防衝装置(電車、機關車等の前面の)。自動車の前輪の上の泥除け。ストーヴの圍ひ。

[ホ・ボ・ポ]

ホーク [fork] 肉叉(フォークとも云ふ)。
 ホーコン [oakum] 船の甲板等の隙間に詰める填絮。
 ホース [hose] 管。蛇管。
 ホース・パイプ [hose-pipe] 導管。

ホース・パワー [horse-power] 馬力。
 ホーム [home] 家庭。
 ホーム [platform] 乗降場。
 ホーム・イン [home in] (野球用語) 選手が本塁に入ること。
 ホーム・シック [homesickness] 懷郷病。
 ホーム・ベース [home-base] (野球用語) 本塁。
 ホーム・メード [home-made] 和製。
 ホーム・ラン [home run] (野球用語) 本塁打(打者がその一打で一塁に本塁まで走り得るやうな球を飛ばすこと)。
 ホール [hall] 講堂。會場。食堂。飲食店。
 ホス・ジャンプ [hop, step and jump] ホップ・ステップ・アンド・ジャンプの略。(片足跳、輕跳、跳躍の三段の跳躍を連続して全長の長さを競ふ競技)。
 ホスピタル [hospital] 病院。
 ホチキス [hotchkiss] 紙繰器。
 ホック [hook] 鈎。
 ホッケー [hockey] コルク蕊を白皮で巻いた球を尖端の曲つたステキを以て互に敵のゴールに打込む遊戯。各組十一人競技者で蹴球全様の競技場で行ふ。
 ホップ [hop] 片足跳。
 ホテル [hotel] 旅館。
 ホネムーン [honeymoon] 新婚旅行(文字の意味は蜜月即ち新婚の月)。
 ホミカ [nux vomica] 番木鱧(草の名)。
 ホルスタイン [Holstein] 雞の一種。
 ボーイ [boy] ホテルのボーイ、西洋料理店、カフーのボーイ(女給)等廣く給仕の意に用ひてゐる。
 ボーイ・スカウト [boy scout] 少年團員。
 ボーク [balk] (野球用語) 暴球。
 ボータイ [bow tie] 蝶形襟飾り。
 ボーダー [border] (印刷用語) 活版の花形。
 ボート [boat] 短艇。
 ボート・レース [boat-race] 短艇競漕。
 ボーナス [bonus] 賞與金。
 ボーラー [bowler] 山高帽子の一種。
 ボーリング [balling] 轉球。穿孔。
 ボール [ball] 球。舞蹈。

ボール [board] 板紙。
 ボールト [bolt] 一巻(約40碼)。
 ボールド [blackboard] 黒板。
 ボーロ [bolo] (伊)豌豆大の小さな菓子。
 ボア [boa] 獸毛や羽毛で作つた婦人用の襟巻。
 ボイコット [boycott] 不買同盟。
 ボイラー [boiler] 汽罐。
 ボイル・シャツ [boiled shirt] 胸部を糊で固めた白シャツ。
 ボキシング [boxing] 拳闘。
 ボギー [bogey car] 轉向車(汽車や電車の車輪が容易に動いて、しかも動揺少くて脱線の憂ひ少き一種の車輪装置を施せるもの)。
 ボス [boss] 親分。領袖。
 ボタン [button] 釦。押紐。
 ボデイ [body] 自動車の車體。
 ボックス [box] 劇場の棧敷。野球に於ては打者又は投手の立つ場所。
 ボックス [box calf] 犢皮(靴、鞵等に用ふるもの)。
 ボップ [bob] 斷髮(ホップ・ヘアとも云ふ)。
 ボヘミアン [Bohemian] 行きあたりばつたりの生活をする人。
 ボヘミアン・グラス [Bohemian glass] ボヘミヤ硝子(無水珪酸の割合特に多い硬質なる加里硝子)。
 ボルシェヴィーキ [Bolsheviki] 無産者を中心とする多數派。
 ボ(ル)ジョイス [bourgeois] (印刷用語) 九ポイントに相當する活字。
 ボルドー [Bordeaux] 佛國及び伊太利産の葡萄酒。
 ボントン [bonton] (佛) 都雅。
 ボンネット [bonnet] 婦人用の無縁帽子。
 ボンボン [bonbon] ぼんぼん菓子。
 ボーカー [poker] 食用飼養豚。
 ボーク [pork] 豚肉。
 ボーク・カツレツ [pork cutlet] 豚肉の揚物。
 ボーク・チャップ [pork chop] 骨附豚肉。
 ポーズ [pause] とぎれ。間合。

ポーズ [pose] 姿勢。
 ポーダー [powder] 粉の意なれど、我國に於ては主にも白粉又は燒粉の意に用ひてゐる。
 ポート・フォリオ [portfolio] 紙袋。
 ポート・ワイン [portwine] ボルトガル産の濃紅葡萄酒。
 ポール [pole] 電車の電流傳竿。
 ポール・ジャンプ [pole-vault(ing)] 棒高跳(ポール・ヴォートルトとも云ふ)。
 ポイント [ace] 歌留多のポイント。
 ポイント [point] 鐵道轉轍器。活字の單位(一時を七十二にて割りたるものを一ポイントと稱す)。
 ポイント・マン [pointsman] 鐵道轉轍手。
 ポケット [pocket] 衣袋。かくし。
 ポケット・ブック [pocket-book] 手帳。
 ポケット・マネー [pocket money] 小使錢。
 ポジション [position] 地位。
 ポスター [poster] 廣告用繪看板。
 ポスト [post] 郵便。郵便函。
 ポスト・カード [post-card] 郵便はがき。
 ポタージ [potage] (佛) 濁スープ。
 ポッターシ [potash] 苛性加里。
 ポッタシウム [potassium] 加里。
 ポップ・コーン [pop-corn] 炒玉蜀黍。
 ポップリン [poplin] 一種の絹毛交織物。
 ポマード [pomade] 頭髮油。
 ポリス [police] 警察。警察官(略してポリとも云ふ)。
 ポルカ [polka] 舞蹈の一種。
 ポロニウム [polonium] ぼろにゆゑむ。
 ポンス [punch] 混和飲料(酒、水、砂糖を混じたるもの、ポンチとも云ふ。種々の果實に砂糖と水を加へたるものをフルーツ・ポンチと云ふ)。
 ポンチ [punch] 漫畫。混酒。
 ポンド [pound] 英國の斤量、封度(我が百二十一匁弱)。
 ポンプ [pump] 唧筒。
 ポンペドー [pompadour] 撫上げ髪。

【マ】

マーキュリー【Mercury】羅馬の商神。水銀(寒暖計の)。
 マーク【mark】記號。
 マーク・ダウン【mark down】値下げ賣出し。
 マーケット【market】日用品販賣市場。
 マーゲリット【marguerite】雛菊の一種。
 マーチ【march】行進曲。
 マーチャント【merchant】商人。
 マーブル【marble】大理石。
 マーマレード【marmalade】蜜柑の果實を砂糖煮にしたもの。
 マイクロ・フォーン【microphone】ラヂオ送話器。
 マイナー【minor】未成年者。單音程。
 マイナス【minus】數字に於ては負數。欠損。赤字。
 マイル【mile】哩(我が約十四丁餘)。
 マカルーン【macaroon】印白と巴且杏に砂糖と麩粉と混ぜて作った菓子(ビスケットの一種)。
 マカロニ【macaroni】伊太利式の管状うどん。
 マキャヴェリスト【Machiavelist】權謀家(マキャヴェリズム参照)。
 マキャヴェリズム【Machiavelism】權謀術を弄すること、(特に外交に於て)。(伊太利の政治家 Machiaveli より)。
 マグネシア【magnesia】苦土。
 マグネシウム【magnesium】銀白色の輕金屬にて空中にて熱すれば強力なる光を放して燃える。
 マシン【machine】機械(ミシンとも云ふ)。
 マシマロ【marshmallow】錦葵科の植物。菓子の名。
 マ(ジ)ヨリカ【majolica】マジョリカ島産の花皿、皿、鉢等。
 マスク【musk】麝香。
 マスク【mask】口覆。假面。
 マスコット【mascot】縁起物。

マスト【mast】帆柱。
 マソキズム【masochism】一種の情慾狂(異性に虐待され或は傷害を加へられることを快樂とするもの)。
 マダム【madame】(佛)夫人。女史。
 マダラ【mandala】(梵)班點。
 マチネー【matinée】(佛)晝間興行。晝芝居。
 マチック【magic】奇術。魔術。
 マッサージ【massage】(佛)揉療治。
 マッセ【massé】(佛)(撞球用語)立てキュー。
 マッチ【match(es)] 競技。燐寸。
 マット【mat】額の艶消金縁。
 マット【(door-)mat】筵。
 マットン【mutton】羊肉。
 マッフ【muff】暖手套。
 マッフイン【muffin】輕燒菓子パン。
 マテリアリズム【materialism】唯物論。
 マドロス【matroos】(蘭)下級労働者。
 マドンナ【madonna】(伊)聖母マリアの像。
 マニア【mania】熱狂。
 マンキュア【manicure】美甲術。
 マニラ・ロープ【manila rope】麻繩。
 マネー【money】通貨。
 マネキン・ガール【mannequin girl】百貨店、化粧品店等に期間を定めて雇はれ商品の宣傳をする職業婦人。(語原に於ては三説あり、即ち 1 mannequin(洋服屋の廣告人形) 2 manikin(人體模型) 3 蘭語の maneken(「人間」の愛稱)。
 マネージャー【manager】支配人。
 マネージング・ディレクター【managing director】専務取締役。
 マフラー【muffler】襟巻。拳闘用指無しの厚い手袋。
 マホガニー【mahogany】アメリカの熱帯地方に産する木材及びその製品。
 マホメット【Mahomet】イスラム教(回教)教主マホメットの名より、その宗教徒。
 ママ【mamma】お母さん。
 マラスキノー【maraschino】櫻酒。

マラソン【marathon】長距離徒歩競走。
 マラリア【malaria】傳染性熱病。
 マリオネット【marionette】人形芝居。あやつり人形。
 マリン・ガール【marine girl】(和製英語)汽船中にて子供や婦人の世話したり、給仕したりする職業婦人。
 マルガリン【margarine】人造牛酪。
 マルクシズム【Marxism】マルクス主義。
 マルク【mark】獨逸貨幣の單位(マークとも云ふ)。
 マルコニ【Marconi】伊太利の無線電信發明者の名より無線電信。
 マルメロ【quince】榴棗又はその果實。(語原不明)。
 マンガン【manganese】滿俺。
 マンキー【monkey】尾長猿(モンキーとも云ふ)。
 マンゴー【mango】熱帯地方の果實。
 マンゴステン【mangosteen】印度産山竹果(果實の王と稱せらる)。
 マントル【mantle】外套(マント又はマントルとも云ふ)。
 マンドリン【mandoline】西洋樂器の一種(八絃琴)。
 マンナ【manna】神食。心の糧。天授の物。
 マンネリズム【mannerism】守一主義。單一主義。
 マンモス【mammoth】古代の巨象。巨大な。
 マンモニズム【mammonism】拜金主義。

【ミ】

ミーター【meter】計器(メートルとも云ふ)。
 ミーティング【meeting】集會。會合。
 ミート【meat】食用の肉。
 ミール【meal】食事。
 ミイラ【mummy】木乃伊。
 ミシン【machine】機械(特に裁縫機)。(マシンとも云ふ)。
 ミステーク【mistake】誤り。

ミステリー【mystery】神秘。
 ミステリー・ハンター【mystery hunter】獵奇趣味の人。
 ミズルター【mistletoe】寄生木。
 ミセス【mistress】夫人。奥様。
 ミソロジー【mythology】神話。
 ミックス・ダブル【mixed double】(庭球用語)庭球ダブル競技で各組が男女より成るもの。
 ミッション・スクール【mission school】宗教學徒(基督教の)。
 ミット【mitt】拇指だけ離れて他は一つになつてゐる手袋。野球にては捕手及び一塁手の用ふる手袋。
 ミニユエット【minuet】一種の舞踊。
 ミノルカ【minorca】雞の一種。
 ミューズ【Muse】文藝美術の神(神話)。
 ミラー【mirror】鏡。
 ミラージュ【mirage】蜃氣樓。
 ミラクル【miracle】奇蹟。
 ミリア・メートル【myriametre】一萬米。
 ミリオネア【millionaire】百萬長者。金満家。
 ミリ・グラム【milligramme】千分のグラム。
 ミリタリズム【militarism】軍國主義。
 ミリ・(メートル)【millimetre】千分のメートル。
 ミリユー【milieu】(佛)周圍。環境。
 ミリ・リットル【millilitre】千分のリットル。
 ミルク【milk】牛乳。
 ミルク・セーキ【milkshake】牛乳と(雞卵と)砂糖とを氷で冷し振蕩した夏季の飲料。
 ミルク・フード【milk-food】牛乳を主成分とした小兒用飲料品。
 ミルク・ホール【milk-hall】牛乳店。
 ミルラ【myrrh】没藥。
 ミント【mint】薄荷。

【ム】

ムーアリング【mooring】碇泊。

ムービー・ファン [movie fan] 映畫狂。
 ムーヴィス [movies] 活動寫真。
 ムーン [moon] 月。
 ムーン・ストーン [moonstone] 月長石。
 ムジック [musik] (獨) 音樂。
 ムスク [musk] 麝香(マスクとも云ふ)。

[メ]

メーキ・アップ [make up] 仕上げといふこと、主として化粧の仕上げを云ひ、映畫、劇等によく使はれる。新聞社では大組のこと(メーキング・アップとも云ふ)。
 メジャー [major] 成年者。長音階。
 メーゾン [maison] (佛) 家。(よくメーゾン何々として、料理屋、カフェー等の店名に用ひてゐる)。
 メーデー [Mayday] 五月一日の意で、英國田舎の祝節に始まつた労働運動、今では世界中の労働者がこの日に示威行列を行ふ。
 メートル [metre] 計量器(ミーター又はメーターとも云ふ)。フランスのメートル(我が三尺三寸今日は我が國でもこのメートル法を採用してゐる)。
 メード [maid] 下女。
 メール [mail] 郵便。
 メガフォン [megaphone] 擴音器。
 メシア [messiah] 救世主(基督)。
 メション [meerchaum] 主として小亞細亞に産する硫酸マグネシウム。白色にして光澤あり軽き粘土状のものにして、喫煙用のパイプに作る。語意は「海の泡」。
 メス [messer] (獨) 解剖刀。
 メスメリズム [mesmerism] 催眠術。
 メソヂスト [Methodist] 基督教の一派。
 メダル(メダル) [medal] 徽章。記念章。賞牌。(メダルが正しいが、大抵メタルと云つてゐる)。
 メタル・ラス [metal lath] 混凝土で壁を塗る時混凝土を支持する直線に入れる鐵網。
 メタン [methane] めたん瓦斯。沼氣。
 メッセンジャー・ボーイ [messenger boy]

少年配達係。
 メッセージ [message] 通牒。聲明。米國大統領の致書。
 メッドレー・リレー・レース [medley relay race] 混合驛傳競走。
 メチル [methyl] 木精(木材を乾溜して得たるアルコール。メチル・アルコールとも云ふ)。
 メチレン・クロライド [methylene chloride] 鹽化メタン。
 メトロノーム [metronome] 音樂の拍子と速さを計る器械。
 メニュー [menu] (佛) 獻立表。
 メモ [memo] 備忘録。(memorandum メモランダム)の略)。
 メモランダム [memorandum] 備忘録(略してメモと云ふ)。
 メモワール [memoire] (佛) 外交上の覺書。
 メリケン [American] 米利堅粉(メリケン粉とも云ふ)。
 メリー・ゴー・ランド [merry-go-round] 圓形の廻轉木馬。
 メリヤス [medias] 莫大小。
 メリンス [muslin] の説(モスリンと全じ)。
 メルトン [melton] 紡毛絲で織つた布地。
 メルヘン [märchen] (獨) お伽噺。
 メロディー [melody] 旋律。
 メロ・ドラマ [melodrama] 樂劇。
 メロン [melon] 甜瓜。
 メンシェヴィキ [menshevik] 露國總和社會黨員(ボルセヴィキ(過激派)に對する言葉)。
 メンソラ [mentholatum] 薄荷腦塗布藥。
 メンタル・テスト [mental test] 腦力考査。
 メンチ [mince-meat] 細かく刻んだ肉。(hashed meat ヘヤシと全じ)。
 メンチ・ボール [mince-ball] 細かく刻んだ肉を丸めた西洋料理。
 メンデルリズム [mendelism] メンデルの發見した遺傳法則。
 メンバー [member] 組合や集會の組織の

中に居る人。

[モ]

モーゼ [Moses] 猶太の建國者にして又立法者。
 モーター [motor] 發動機(モートルとも云ふ)。
 モーター・カー [motor-car] 自動車(モートル・カーとも云ふ)。
 モーター・トラック [motor-truck] 荷物自動車。
 モーター・バス [motorbus] 乗合自動車(單にバスとも云ふ)。
 モーター・ボート [motor-boat] 發動汽船。(モートル・ボートとも云ふ)。
 モーニング・コート [morning coat] 晝間の禮服(略してモーニングとも云ふ)。
 モガ [modern girl] の略(和製英語)現代式の女性。
 モザイク [mosaic] 嵌込細工、寄木細工。
 モスク [mosque] 回々教の寺院。
 モスリン [muslin] 普通モスと略稱してゐる毛織物。
 モダン [modern] 近代の、現代の。
 モットー [motto] 標語。
 モップ [mob] 一揆。亂民。烏合の衆。
 モティーフ [motif] (佛) 畫題。
 モデル [model] 作畫家の前に立つ人、又は小説の材料になる人。
 モノポリー [monopoly] 專賣。獨占。
 モヒ [morphine] モルヒネに全じ。(劇藥)。
 モヘル [mohair] アンゴラ山羊の毛の織物。
 モボ [modern boy] の略(和製英語)現代式の若、少年。
 モラトリウム [moratorium] 債務支拂停止認可。
 モリブデン [molybdenum] 金屬元素の一。
 モルモット [mormot] 鼠と兎の合の子のやうな小動物。
 モルモン [Mormon] 一夫多妻を主義とするキリスト教の一派。

モロッコ [Morocco] 亞弗利加 Morocco より産する Malaco 革。
 モンキー [monkey] マンキーに全じ。
 モンスーン [monsoon] 季節風(印度洋の定期風)。
 モンタージュ [montage] (佛) 組立の意で、個々の場面を巧みに組立て、効果のよい映畫に作り上げること。

[ヤ]

ヤール [yard] ヤードとも云ふ。碼(我が約三・〇一七五二尺)。
 ヤーン [yarn] 絲。
 ヤンキー [Yankee] 米國人。ヤンキー氣質など米人を卑めて用ひる語。

[ユ]

ユーカリ [eucalyptus] ゆーかり樹(よく庭園、街路等に植える)。
 ユージョ・メートル [eudiometer] 化學實驗用の測氣管。
 ユーゼニックス [eugenics] 人種改良論。優生學。
 ユートピア [Utopia] 理想郷(英國の政治家 Sir Thomas More の著した有名な小説の題目)。
 ユー・ボート [U-boat] 潛水艦。
 ユーモア [humour] 滑稽。諧謔。
 ユーモラス [humorous] 滑稽の。諧謔的。
 ユーモリスト [humorist] 滑稽文學者。諷刺作家。
 ユニヴァーシティー [university] 大學。
 ユニオン [union] 聯盟。組合。
 ユニオン・スート [union suit] 上下一枚つまきのシャツ。
 ユニテリアン [Unitarianism] キリスト教の一分派(三位一體論を採らず、基督を神とせざる一派)。
 ユニフォーム [uniform] 制服。運動服。
 ユンケル [junkers] (獨) 青年貴族。若紳士。

【ヨ】

ヨーグルト [yoghurt] 凝乳(牛乳、山羊乳に殺菌して凝結せしめたもの)。
 ヨード・チンキ [iodo-tincture] 沃度丁機(沃素のアルコール溶液)。
 ヨード・フォルム [iodoform] 沃度ふをるむ(創面の消毒剤)。
 ヨット [yacht] 快走船。遊船。

【ラ】

ラード [lard] 豚の脂。
 ライ [rye] ちい麦。
 ライヴァル [rival] 競争者。敵手。
 ライオン [lion] 獅子。
 ライス [rice] 米。飯。
 ライス・カレー [curried rice] 胡椒を含んだ粉にソースを加へ之れを米飯に肉類を混じれたるものにかけて食するもの。西洋料理の一種。
 ライス・ペーパー [rice-paper] 薄葉紙。
 ライセンス [license] 免許状。
 ライト [light] 光り。
 ライト [right] (野球用語) 右翼手。
 ライト(レフト)フキールド [right(left)field] 野球場の右(左)翼。
 ライナー [liner] 定期船。
 ライノタイプ [linotype] 活字植字機の名稱(一行一塊となつて植字される機械)。
 ライフ [life] 生命。一生。元氣。
 ライフル [rifle] 旋條銃。
 ライブラリー [library] 圖書館。文庫。
 ライラック [lilac] 紫丁香花(紫色の美しい西洋草花)。
 ライン [line] 航路。線。
 ラウド・スピーカー [loud speaker] 擴音器。
 ラウンド・ナンバー [round number] 概算。
 ラウ [love] 愛。戀。愛人。戀人。(但し男の方から云ふ)。

ラヴァ [lava] 溶岩。
 ラヴァー [lover] 愛人。戀人。(但し女の方から云ふ)。
 ラヴェンダー [lavender] ラワンデルとも云ふ。唇形科の常緑小灌木。ラワンデル油は芳香性揮発油、色は薄紫色。
 ラヴ・シーン [love-scene] 戀の場面。
 ラヴ・シック [love-sick] 戀煩ひ。
 ラカン [Arhan] (梵) 羅漢(佛の弟子)。
 ラクトーゼ [lactose] 乳糖。
 ラグビー [Rugby] らぐビー式蹴球技。
 ラケットィーア・リング [racketeering] 米國の新商賣「ごろつき稼業」。
 ラケット [racket] 庭球戯用の打球器。
 ラシャ [raxa] (葡) 羅紗。
 ラショナルライゼーション [rationalization] 合理化。
 ラジウム [radium] 強烈な放射光を發する金屬元素。
 ラジャ [rajah] (ヒンドスタ) 王。會長。
 ラズベリー [raspberry] 黒莓(キイチゴ)。
 ラヂオ [radio] 無線電話。
 ラヂオ・ドラマ [radio-drama] ラヂオ劇。
 ラグタイム [ragtime] 急調子の舞踊曲。
 ラッシュ・アワー [rush hour] 殺到時(朝夕の電車、汽車の込合時間)。
 ラッセル [russel] 除雪車。
 ラディウム・エマナチオン [radium-emanation] (獨) ラヂウムから發生する無色の瓦斯にて非常に多量の熱を放射するもの。
 ラディエーター [radiator] 自動車の冷却器。放熱器。
 ラディオ・レーヤー [radiorayer] 紫光線治療器。
 ラバー [rubber] 護謨製品。字消しゴム。
 ラフ [rough paperの略] 表面の滑らかならざる目のあらい紙。
 ラマ [lama] 喇嘛僧。喇嘛教徒。
 ラムネ [lemonade] レモンを含みたる炭酸飲料水。(レモネードの訛り)。
 ランチ [launch] 乗合汽船。大端紙。
 ランチ [lunch] 晝食。辨當。
 ランデヴー [rendezvous] (佛) 密會所。

ランドセル [randsel] (蘭) 背囊。
 ランナー [runner] (野球用語) 走者。
 ランニング [running] 徒歩競走。運轉。
 ランニング・トラック [running track] 徒歩競走の競走路。
 ランビキ [alembic] 蒸溜器。
 ランプ [lamp] 洋燈。(今では) 電球。

【リ】

リーグ [league] 同盟。團體。
 リーク・オヴ・ネーションス [League of Nations] 國際聯盟。
 リーダー [reader] 讀本。
 リーダー [leader] (印刷用語) 指導點線。主領。指揮者。
 リートル [litre] (佛) 我が約五合五勺に當る。
 リード [lead] 運動競技に於て一方が相手方より多く得點してゐること。
 リード [leads] (印刷用語) 活版の組版に當り行間に入れる鉛(インテル又はレズとも云ふ)。
 リーフレット [leaflet] 一枚のもの。宣傳文書。(綴ちてあるものはパンフレットと云ふ)。
 リーベ [Lieve] (獨) 戀愛。愛人。
 リーム [ream] 一れん(紙二十帖即ち四百八十枚)。
 リキール [liqueur] (佛) 主として香料と砂糖より成る酒精分の少い酒。
 リサイタル [recital] 音樂獨演會。
 リシーヴァー [receiver] 受話機。
 リスリン [glycerine] ぐりせりんとも云ふ)。
 リズム [rhythm] 韻律。拍子。
 リゾール [lysol] リゼー (コールターより製したる消毒液)。
 リチウム [lithium] リちうむ。
 リトマス [litmus] りとます試験紙(酸及アルカリの有無を検するに用ふる紙)。
 リネン [linen] リンネルとも云ふ。亞麻布。
 リノタイプ [linotype] ライノタイプに

全じ。
 リノリウム [linoleum] 強靱なる織布の上にコルクの粉末と顔料とボイル油との混合物を塗つて乾したるものにて敷物に使用するもの。
 リハーサル [rehearsal] (劇の) 本讀。下稽古。
 リフト [lift] 昇降機。起重機。
 リボン [ribbon] 飾紐。綬。
 リヤ・カー [rear-car] 文字通りには後車即ち自轉車の後方に荷物を載せる別車の附屬せるもの。
 リュック・サック [Rucksack] (獨) 登山用背囊。
 リョーマチス [rheumatism] 痺麻質斯。
 リラ [lira; lire] (伊) 伊太利の銀貨(我が約四十錢)。
 リリー [lily] 百合。
 リリー・オヴ・ザ・ヴァレー [lily-of-the-valley] 鈴蘭。
 リリック [lyric] 抒情詩。
 リレー [relay] 繼電器。
 リレー・レース [relay race] 交互競走。驛傳競走。
 リンク [link] ゴルフ又はスケージングの競技場。
 リング [ring] 指環。
 リント [lint] りんと布。

【ル】

ルーデ・サック [Rutesack] (獨) ゴム製の花柳病豫防袋。
 ルーナ・パーク [luna Park] 月の公園。夜の公園。歡樂場。
 ルーフ・ガーデン [roof-garden] 屋上庭園。
 ルーブル [r(ou)ble] 露國貨幣。
 ルーラー [ru]ler] 簿記棒。
 ルーラー [roller] 印肉棒(ローラーとも云ふ)。
 ルール [rules] (印刷用語) 罫。
 ルール・カッター [rule cutter] (印刷用語) 罫線切器。

ルニック [runic] (印刷用語) 裝飾體の活字。
 ルネサンス [Renaissance] (佛) 歐洲に於て十四世紀より十六世紀にかけて起つた文藝復興時代。
 ルバイン [lupine] ハウチソ豆。
 ルビ [ruby] ルビーとも云ふ。紅玉。印刷用語としては七號活字。振り假名。
 ルビディウム [rubidium] 金屬元素の一。
 ルピー [rupee] 印度の貨幣單位(我が約六十五錢)。
 ルンペン [Lumpen] (獨) 階級的自覺なき労働者。賤奴。人屑。浮浪人。

[レ]

レーキ [lake] 湖水。
 レース [lace] れーす絲又はその製品。
 レース [race] 競走、競技。
 レーズン [raisin] 乾葡萄。
 レーゾル [razor] 剃刀(レーザーとも云ふ)。
 レーバー [labour] 労働。
 レーベン [Leben] (獨) 生命。生活。
 レール [rail] 鐵道。軌條。
 レーヨン [rayon] 人造絹絲又はその製品。
 レーン・コート [rain coat] 雨外套。
 レーンジ・ファインダー [range-finder] 距離測定機。
 レイサー [racer] 競走用自動車。
 レイゾン・タイトル [raison d'être] (佛) 存在理由。
 レウマチ [rheumatism] 風濕質斯(リウマチスとも云ふ)。
 レヴェル [level] 標準。
 レヴュー [revue] (佛) 時事演劇。舞蹈劇。
 レギュレーション [regulation] 規則。條例。
 レクチア [lecture] 講演。
 レグホン [Laghorn] 雞の一種。
 レコード [record] 記録。最優秀競技成績。蓄音器の音譜版。

レコード・ブレイキング [record-breaking] 今迄の記録を破つたこと、即ち畫期的な。
 レコード・ホルダー [record-holder] 運動競技の最優良の成績を持てる選手。
 レコグニション [recognition] 認識。
 レザー [leather] 柔皮。
 レシーヴァー [receiver] 電話及びラヂオの受信機(リシーヴァーとも云ふ)。
 レストラン [restaurant] 料理屋。
 レスリング [wrestling] 我が相撲に似た競技で、相手の両肩と頭と全時に床につけると勝となる。
 レセプション [reception] 招待會。
 レター [letter] 手紙。
 レター・ゴルフ [letter-golf] 文字遊び(回数が遊戯の條件であるからゴルフの名が附いてゐる)。
 レター・ファイル [letter-file] 手紙綴込器。
 レター・ペーパー [letter-paper] 書翰用箋。
 レチャヤ [ledger] 元帳。
 レッグ・コンテスト [leg contest] 脚線美競艶會。
 レッグ・ショウ [leg-show] 脚線美を見せるダンス等の興行。
 レッスン [lesson] 課業。
 レッテル [label] 符貼紙。
 レッド [red] 赤いと云ふ意味から、過激思想又は過激思想を抱く者。
 レディー [lady] 貴婦人。
 レディー [ready] 競走の出発の際に云ふ掛け聲、「用意！」。
 レディー・メード [ready-made] 出来合。
 レトルト [retort] 液體蒸溜に用ひる硝子製の頸の細い曲つた瓶。
 レパートリー [repertory] 上演目録(演劇、映畫等の)。
 レファレンダム [referendum] 公使。大使等が本國政府へ求める請訓。
 レフェリー [referee] 競技の審判係(特にラグビー、ホッケー、拳闘等の)。
 レフト・フィールド・マン [left field man] (野球用語) 左翼手(略してレフトとも云ふ)。

レフレクター [reflector] (映畫用語) 撮影中に俳優の顔に光線をあてる反射板。
 レポ [report; repoterの略] 労働運動に用ひられる語で、指令、情報、報告をレポートと云ひ、それを傳へる傳令をレポーターと云ふ。
 レモナード [lemonade] レモンと砂糖で作つた飲料(ラムネとも亦レモネードとも云ふ)。
 レモン [lemon] レモンの果。レモン汁を用ひた飲料。
 レモン・スクワッシュ [lemon squosh] 氷の入つたレモンソーダ水。
 レモン・ティー [lemon tea] 紅茶にレモンを加へたもの。
 レン [ream] 全紙(四六版は三尺六寸に二尺六寸、菊版は三尺一寸に二尺一寸)を五百枚で一疋と云ふ。
 レントゲン [Röntgen] 人體内及び物體を透視するに用ふ(エックス光線とも云ふ、獨逸レントゲン博士の発見によるもの)。
 レンズ [lens] 透鏡(例へば寫眞機のレンズなどのやうな)。

[ロ]

ローカル・カラー [local colour] 地方的色彩。
 ロ(一)ケーション [location] (映畫用語) 野外撮影(ロケとも略す)。
 ローション [lotion] 洗滌劑。(俗に酒精飲料の意にも用ふ)。
 ロース [loss] 損失(ロス又はロースとも云ふ)。
 ロース(ト) [roast] 燻肉。
 ローズ [rose] 薔薇。
 ロータリー・ゴルフ [rotary golf] 立體ベビー・ゴルフ。
 ロー・ハードル [low hurdle] 低障害物競走。
 ロープ・デコルテー [robe decolletée] (佛) 婦人用盛裝。

ロブ・ド・シャンブル [robe de chambre] (佛) 化粧着。
 ロブ・モンタント [robe montante] (佛) 婦人用正服。
 ロープ [rope] (ロップとも云ふ) 索。綱。
 ローマネスク [Romanesque] 羅馬式の。
 ローマン [Roman letters] (印刷用語) 羅馬字體。
 ロ(一)マンズ [romance] 小説。物語。情話。
 ロ(一)マンチック [romantic] 傳奇的。(浪漫的と云ふ當て字をも用ひてゐる)。
 ローム [loam] 沃土。
 ローラー [roller] ロールとも云ふ。印刷用肉棒。
 ローラー [roller] 子供がその上に乗つて滑走遊びをする滑車附の一種の靴。
 ローラー・スケーティング [roller-skating] ローラー滑走遊び(ローラー・スケートとも云ふ)。
 ローリング [rolling] うねり。
 ロール [role] 役割。任務。
 ロール [roll] 名簿。記録。
 ロール・フィルム [roll film] 巻フィルム(感光膜)。
 ローレル [laurel] 月桂樹。桂冠。
 ローン [loan] 貸附。借金。國債。
 ローン [lawn] 薄モスリン。寒冷紗。芝生。
 ローン・テニス [lawn-tennis] 庭球(單にテニスとも云ふ)。
 ログリ(ズム) [logarithm] (數學用語) 對數。
 ロココ [rococo] ろここ式(十七、八世紀に歐洲で流行した浮華な家屋裝飾法)。
 ログス [logos] 神の言。宇宙精神。
 ロジック [logic] 論法。
 ロック [lock] 錠。
 ロック・アウト [lockout] 工場閉鎖(ストライキに對抗するため)。
 ログ・ウッド [logwood] 染料の原料に用ふる蘇木。
 ロッターリー [lottery] 當籤。福引。
 ロッチング [lodging] 宿泊。下宿。

ロッキング [lobbing] (庭球用語) 高い球で前衛の頭上を通過せしめること。
 ロディウム [rhodium] 金属元素の一。
 ロベリヤ [lobelia] 山梗菜屬。
 ロボット [robot] 人造人間。
 ロング・ショート・バウンド [long-short bound] (庭球用語) ショート・バウンドより少し上を打つたこと。
 ロング・シヨット [long-shot] (映畫用語) 目的物を遠く離れてカメラに入れること、反対はクローズ・アップ。
 ロング・シャン [long-schön] 英語の long と獨逸語の schön を組合せて作った和製語。遠目美人。
 ロング・バウンド [long bound] (庭球用語) 第一バウンドから第二バウンドに至る距離の長さ。
 ロンパー [rompers] 小兒遊戯服。

[ワ]

ワイ・エム・シー・エー [Y. M. C. A.] young man's Christian Association の略で、基督教青年會。
 ワイシャツ [(white) shirt] 洋服の下着。
 ワイ・ダブルユー・シー・エー [Y. W. C. A.] Young Women's Christian Association の略で、女子基督教青年會。
 ワイフ [wife] 妻。夫人。女房。おかみ。
 ワイヤー [wire] 針金。電線。
 ワイヤ・ロープ [wire-rope] 針金の繩。
 ワイヤンドット [Wyandotte] 亞米利加産の雞の一種。
 ワイン [wine] 原語の意味は葡萄酒なれども、日本に於ては一般に酒類のことを指す。
 ワクチン [vaccin] 病毒素。血清皮下注射の一種。
 ワセリン [vaseline] 軟パラフィン (機械油及び化粧用となす石油の成分)。
 ワックス [wax] 蠟 (主として封蠟の意に用ひられてゐる)。
 ワット [watt] 電力の單位。
 ワッフル [waffle] ワッフルとも云ふ。一種

の西洋菓子。

ワニス [varnish] ニスとも云ふ。假漆(ヴァーニッシュの訳)。
 ワルツ [waltz] 二人連れで踊るダンス。
 ワン [one] 一。一個。一人前。
 ワンサ・ガール [wansa girl] つまらぬ女優。ヤんちゃ娘。
 ワン(ツー)ステップ [one(two)step] 一種のダンス。
 ワン・ツー・スリー [one, two, three, off!] 一、二、三。ヒール、フー、ミツ! (遊技の合圖などによく用ふ)。
 ワン・ピース [one piece] 婦人子供洋服の一種で、上衣とスカートが一緒になつてゐるもの。

(The End)

昭和十二年五月廿日 印刷

昭和十二年五月廿日 發行

不許複製

版權所有

誰にも分かる 初級英語の上達

定價 金壹圓四拾錢

著 作 者 岡 田 實 麿

發 行 者
兼 印 刷 者

東京市神田區一ツ橋通町二〇番地

宮 川 利 助

東京市神田區一ツ橋通町二〇番地
大阪市港區三先町三丁目九九番地

發 行 所 青 々 書 院

振替大阪八一七四八番

東京市神田區神保町二丁目

合 資 會 社 栗 田 書 店

發 賣 所

大阪市西區阿波堀通四丁目

株 式 會 社 大 阪 實 文 館

地方賣捌所

名古屋市・川瀬書店
小倉市・大阪實文館
熊本市・長崎次郎書店大阪市・柳原書店
久留米市・菊竹金文堂
岡山市・細謹舎書店

第一外國語學校長 村井知至先生著

英文和譯
和文英譯
英文法

一、二年生の英語

堂四發
十
々版行

繪單語及發音口形圖百數十箇挿入

四六版美裝幀金文字入上質紙五八〇頁

定價 ¥ 1.50 送料 ¥ 0.12

英語が大變やさしくなつた、實にらくらくと覺へられるやうになつたとは本書を読んだ者の詐りなき言葉である。誠に本書ほど親切で、分り易く、讀んだ各事項が即座に頭に這入り立所に應用の力を得ると云ふ書は絶対にない。全國の初級學生諸君が必ず一度は本書を學習の友としてみると云ふ嚴然たる事實は何を物語つてゐるか？ 誠に本書は初級英語參考書界の最高王座を占むるもの、未見の諸君は一度店頭にて本書を見られよ。

明治大學教授 岡田實麿先生著

一、二年 譯し方と作り方

十五版
發行

四六版洋美裝クロス金文字五五〇頁

定價 ¥ 1.50 送料 ¥ 0.12

本書は中學三年生までの諸君のために先づ正しき發音を教へ、如何にせば實際に英文を正しく譯し、又正しく作るかの秘訣を文法に立脚して明快懇切に解説されたものである。英語の速かなる上達を望む諸君の一度は必ず目を通さねばならぬ書である。

明治大學教授 松本 環先生著

一、二年生の英作文

十四版
發行

四六版洋美裝クロス金文字四五〇頁

定價 ¥ 1.40 送料 ¥ 0.12

初學年の諸君が一番苦しむ學科の一つである英作文を平易適切な類例と、明快懇切な説明とにより順次にやさしい構文からむつかしい構文へと反覆習熟せしめ一步一步と堅實な基礎を作り上げる様に編纂したのが本書である。實際英作文とはこんなに容易く覺へられるものかと感心しながら知らぬ間に上達してゐると云ふのが本書のもつ最大の特色である、しかも現行中等英作文教科書と並行せしめてあるから諸君が學校で習はつた事項がそのまま本書によつて自分の力になる點は他のどんな書よりも優れてゐる所だ。是非一冊を諸君の机上に備へられよ。

明治大學教授 岡田實麿先生の三大姉妹名著！

二、三年生の英作文

十六版
發行

四六版總クロス金文字美裝五〇二頁

定價 ¥ 1.50 送料 ¥ 0.12

英文の解釋は出来るが作文がうまく作れないと云ふ諸君の如何に多いことよ!! 上級生でありながら随分突飛な英文を書く者が絶へないことよ!! そう云ふ諸君は一度本書を読むことを御薦めする。本書は初年級に於て授けられる平易な初歩の文の基本となる要素を誰でもが苦もなく分る様にと云ふことに目標を置き、實際初學者の屢々陥り易き誤謬を明確にし、同一事項を色々な方面より幾度も反復して記憶を鞏固ならしめ、又諸君の最も苦しむ前置詞の用法は一々例題を以て詳述し、英作文の公式によつて基本的事項の記憶を確實ならしむる等どこまでも諸君の味方になつて懇切を旨とした。

二、三年生の英文解釋

廿四版
發行

四六版總クロス金文字美裝四七〇頁

定價 ¥ 1.50 送料 ¥ 0.12

英文を解釋するに當り是非とも記憶して置かねばならぬ必須なる事項、即ち英文の基本的形式、英文の公式、熟語の研究、英文法の話、前置詞の用法等に就て詳説し、特に急所を以て英文解釋の要訣が奈邊にあるかを明示し、之を一ケ年の豫定進度に應じて分類説明せる眞に斬新卓越他に類のない参考書である。本書は教科書と併用せる場合に最も其機能を發揮する。要するに英語はらくらくと學べるものだと云ふ確信を持たすのが本書の使命だ。

二、三年生の英文法

十一版
發行

四六版總クロス金文字美裝四一五頁

定價 ¥ 1.50 送料 ¥ 0.12

英文法は面倒で厄介だ、簡に過ぎれば要を得ず、密に過ぎれば煩雜難解となり、初學者をしてほとほと手を焼かせるものだ。本書は此點に最大の注意を拂つてあまり複雑な文法上の分類や實際に疎い規則などは之を省畧して成るべく簡潔平易を旨とし、一々適切なる例題について分り易く會得せしむるやうに編纂した。初學生を對照とした英文法書の適當なるもの至つて尠なき現在、本書こそは唯一無二の良書である。

明治大學教授 岡田實麿先生著

和文英譯
英文和譯
英文法

三年生の英語

廿九版
發行

四六版總クロス金文字美裝五六五頁

定價 ¥ 1.60 送料 ¥ 0.14

英語上達の秘訣は三年に至る迄の既習事項の内根本となる形を十分研究し、其用法に通ずること以外にはない。四年五年の上級に於ては稍々複雑なる構文又は其用法を研究するに過ぎないのである。言ひ換へれば三年生の時代に既習の事項をミツチリ頭の中にたゞき込んで置くことが肝要である。かゝる見地から本書では三年に於て是非學ばねばならぬ須要なる事項、例へば主語と述語、文の基本形、動詞の種類、前置詞や冠詞の用法等に就き詳しく説明し、初學者の屢々犯し易い誤謬を明確にし、知識の統一を期した。本書は所謂初等英語の總仕上げ書なるを以て、離るべからざる關係にある和文英譯、英文和譯、英文法の三部門に涉り詳細綿密なる解説を施した。本書一冊は誠に英語の實力向上の素である。好評は正に嘖々!! 本書の眞價はオール學生の汎ねく知る所である。

東京商科大学豫科教授 上條辰藏先生著

三、四年生の英文法

十七版
發行

四六版總クロス金文字美装五七〇頁

定價 ¥ 1.80 送料 ¥ 0.14

本書は最も難澁であり無味乾燥である英文法を最も興味ある學科の一つたらしむべく努めて平易なる解説を以てし、實際に英文を讀み又作る上に必要な文法の要領骨子を確實容易に理解せしむる様に編纂した。即ち専門的に亘る煩雜なる分類、或は實用に疎き規則などは省略し、専ら口述的、整理的方法を旨とした。主題及例題は現行中等學校教科書より取材せるを以て如何なる學生にも速かに理解せられ、其負擔を輕からしむること絶大なるものがあらう。中等程度の英文法として本著以上を勉學する必要なし。

東京商科大学豫科教授 上條辰藏先生著

四、五年生の英文解釋

十四版
發行

四六版總クロス美麗金文字六四〇頁

定價 ¥ 2.00 送料 ¥ 0.14

最近英語受験界の趨向をつぶさに洞察せられし著者が、多年の蘊蓄を傾倒して成れる眞に舊套を脱せる名著が本書である。取材の範圍の廣きこと、譯解平易にして原文に忠實なること、實際入試に不可缺の事項は悉く之を網羅せること、尙餘力ある學生に英語の知識を豊富ならしむる爲語源、接頭語、接尾語、類意語、同意語、反意語、同系統單語、標準英語の定め方、不規則動詞、混同し易き單語、米國式綴りの英語等を系統的分類にりて一目諒解に便ならしめ、殊に標準英語の定め方に就ては著者獨特のA表、B表、C表に分ちて細説し、卷末には重要單語表を附し、慣用熟語を索引表にして纏め、是非必要な熟語をも補つて學習者の爲に萬全を期した。堂々六百四十頁の大冊!! 徹頭徹尾上級受験生の爲に親切であり忠實である。本書こそは受験英語參考書界の最高峯に輝くものである。

東京外國語學校講師 吉岡源一郎先生著

英和法 初年生英語の征服

三版
發行

四六版總クロス金文字美装三九〇頁

定價 ¥ 1.50 送料 ¥ 0.12

何事によらず基礎工事が大切だが、英語は殊に此土台となる初歩が一番大事である。發音上の細かい注意や基本文の譯し方をすっかり覺へ込んで一步々々と進んで行つたなら、どんなに愉快に學習出来るであらう。「英語はむづかしい」ものではないが、さりとして「容易い」ものでもない。本書第一編に於ては先づやさしい發音からむづかしい發音へと順次に少しづつ各課で練習をし、第二編基本文に於ては夫々の語法は簡単な言葉と既習の知識とですぐそれが應用を試み、多數の挿畫によつて自然に其語法に親しませる様何處迄も興味本位親切丁寧を旨とした。第三編に於ては第二編の學習により得たる知識の總決算として應用編を設け、實力測定と總仕上をなす等實に痒い所に手の届く至れり盡せりの講義振りである。初學者諸君が將來堅牢無比の英語の殿堂を築かれる其の基礎工事として本書の一讀を御薦めする。

東京商科大学豫科教授 上條辰藏先生著

受験參考 英文解釋の公式

五版
發行

四六版總クロス金文字美装四一〇頁

定價 ¥ 1.50 送料 ¥ 0.12

英文の構成には熟語以外に一種の公式的云ひ表はし方がある。本書は此點に重點を置き豊富なる文例と、丁寧な譯解と、凱切な註解と、多種多趣味な練習題とにより受験英語の核心に突き進んだ眞に力を付ける學習書である。三年程度の基礎知識に習熟せる諸君がまつしぐらに實力を増進するには本書ほど手頃で格好な良著はない。是非一讀を御薦めする。

!!! 嵐の讚絶評好然俄

最良最新の受験書!! (内容見本贈呈)

京都帝國大學教授 理學博士 松本敏三先生序
關西高等工學校教授 岡田剛先生著

受験代數の徹底

金文字入 上卷 定價 一圓六十錢 送料各卷十二錢
美麗洋裝 下卷 定價 一圓四十錢 上卷 五三〇頁
下卷 四三〇頁

代數の力が入學を左右にする。最良の書によつて學習する事が最善の方法である。本著者は多年受験教育界の實際家であり多數の著書により已に令名がある。この著者にして多年の苦心研鑽の結晶として本書は生れた。本書の如く徹底した平易明解丁寧深切なる講述は空前なるは勿論恐らく絶後であらう。至れり盡せりこは蓋し本書の事だ。今や堂々群書を壓して斯界の最高峰たらんとしてゐる。必ず店頭に於て其實物を見られよ。一日の遅きは千日の悔だ。

◇本書には過去の入試問題及び歐米の最新問題を参照して之に最新傾向を網羅してある。本書には試評即ち入試問題の各出題校からその結果を文部省に報告せられた試験概評を収録した。之に依つて試験官が如何なる答案を要求し採點するか一目瞭然と測定出来る。◇昭和十一年度の全國高等入試問題を添へ完璧を期した。昭和十二年度の高専學校入試問題も附録として収録の豫定。

373
125

終